

九大広報

Kyushu University Campus Magazine

vol. 52
2007.7

九大
至宝

九州大学所蔵
蝶類標本



特集：未来の九大人たちへ

先輩たちが大いに語る一人ひとりの「九州大学物語」

学生座談会

総長対談

李 長茂 ソウル大学校総長

Paul Webley ロンドン大学アジア・アフリカ学院学長

モノが伝える歴史と未来

Kyushu University Great Treasure VOL.2

大至宝



九州大学所蔵の 蝶類標本

九州大学にはアジア地域を中心に世界中から集められた三万点以上の蝶類標本が所蔵されている。これらの標本は、本学の江崎悌三・白水隆教授とその教え子たちが中心となって長年にわたって収集し、研究してきた貴重な学術標本である。その価値は、とくに熱帯アジアのキチヨウ属をはじめとするタイプ標本（上の写真）の豊かさにあらわれている。これらのタイプ標本は新種、新亜種が記載されたときに指定され厳重に保存が義務づけられる世界で唯一の標本である。

（比較社会文化研究院教授・矢田 脩）

特集…未来の九大人たちへ	3
学生座談会	3
□新入生家族アンケートから	17
□UIプロジェクトチームの仕事	19
シリーズ研究・ふろんとランナー	
理学研究院助教 亀伸樹氏	23
施設紹介	
□九大水産実験所	27
総長対談	
ソウル大学校総長 イ・ジャンム	
李長茂氏・梶山総長	29
ロンドン大学アジア・アフリカ学院学長 ポール・ウェブリー氏・梶山総長	37

ニュース	
□創立九十六周年 開学記念講演会・式典	45
□筑紫地区キャンパス開放	45
□結城文部科学事務次官が来学	46
□「産業技術数理研究センター」 キックオフ	46
□UCLAと協定締結	47
□総長へマサチューセッツ大学から 「名誉博士号」	47
□マイクロソフト社と 全学包括ライセンス契約	48
□全国初の大学ブランドグッズ・ シンポジウム開催	48
□NHKの現場スタッフが講師に	49
□強盗に「止める!」	49
□相次ぐ企業トップの 伊都キャンパス視察	50
□病院七夕コンサート開催	50
□表敬訪問／サークル紹介／ 東京オフィスから	51
□同窓会の話／OBからのお便り	52

インタビュー・シリーズ九大人	
水素利用技術研究センター特任教授 ジャンマルクオリブ氏	53
事務局長 早田憲治氏	57
新聞で報道された九州大学	
□平成十九年四月～五月	61
告知板	
□言語文化研究院箱崎分室後期開講案内	63
□平成十九年度就職等ガイダンスのお知らせ	64
九大人が案内する世界のキャンパス	
□ミュンヘン工科大学（ドイツ・ミュンヘン）	65
インフォメーション	
□「大学サミット・イン・九州2007」 開催のお知らせ	66
編集後記	
□吉良編集委員、伊原編集委員、 土井編集委員	66

九大

Kyushu University Campus Magazine

広報

vol. 52

2007.7

編集発行 九州大学広報専門委員会

事務 九州大学総務部広報室

住所 〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

電話 092-642-2106

FAX 092-642-2113

E-mail koho@jimu.kyushu-u.ac.jp

URL http://www.kyushu-u.ac.jp

印刷 アイメディア株式会社



□お読みになつてのご感想やご意見をお待ちしています。

□投稿をお受けします。文字数は、300字未満。手書きのものも受け付けますが、できればテキストファイルのフロッピーディスク又はEメールでお送りください。可能な限り掲載しますが、本誌の目的や性格に照らして不適当と思われる原稿は掲載しません。

■九州大学関係者が本誌記事を転載する場合は、「九大広報第〇号から」と明記してください。学外の方は、事前に事務までご連絡願います。

■「九大広報」は九州大学ホームページでもお読みいただくことができます。

■次号は、2007年9月発行予定です。

先輩たちが大いに語る
一人ひとりの「九州大学物語」

学生座談会



東 邦浩

ひがし くにひろ

法学部4年
済々黌高等学校（熊本県）出身



田中 和子

たなか かずこ

21世紀プログラム4年
西南学院高等学校（福岡県）出身



藤山 沙織

ふじやま さおり

文学部4年
福岡高等学校（福岡県）出身



金子 晃介

かねこ こうすけ

大学院システム情報科学府・情報理学専攻
修士課程2年
伝習館高等学校（福岡県）出身



公田 浩子

こうた ひろこ

大学院理学府・地球惑星科学専攻
博士後期課程3年
宇部高等学校（山口県）出身



司会進行
アドミッションセンター
渡邊 哲司 講師
わたなべ てつじ

座談会に出席してくれたのは、九州大学の四年生と大学院生の五名。一人ひとり顔が違いうように、先輩たちの歩んできた道は同じ大学とは思えないほどバラエティーに富んでいます。高校生の皆さんがこれから描こうとしている「九大物語」にもひとつとして同じものはないでしょうが、先輩たちのリアルな体験談と九大生ならではの情報は、きっと皆さんの未来を予感させてくれるはずです。

先輩たちの“今”

渡邊 まずは簡単に自己紹介していただけますか？

田中 二十一世紀プログラムの田中です。^{*1}二十一世紀プログラムって何をしてるかよくわからないと思うんですけど、私が現在所属しているのは、農学部農政経済系の食料流通学研究室です。「留学経験も多数」と紹介されることが多いのですが、入学して行ったのは三カ国。まずは語学留学で二カ月ほどアメリカのシアトルへ。その後一年間イギリスのブリストル大学で政策を勉強し、帰国後、食料流通学研究室に所属。同研究室と共同研究している中国人民大学へも半年間、留学しました。**渡邊** では、東さん。法学部四年生、体育総務委員会委員長ですね。**東** サークルにも大学の公認サークルと非公認サークルとがありますが、^{*2}体育総務委員会は簡単にいえば、学校が直接認めている体育系公認サークルをまとめる委員会。サークルのお手伝いもしています。**渡邊** いちばん大きなイベントや活躍する場にはどういったものがあるのですか？

東 七大戦ですね。

田中 七大戦って何ですか？

東 旧帝国大学ってわかりますか？



七大戦結団式で挨拶をする東さん

田中 はい、わかります。

東 ^{*3}その旧帝国大学七大学が集まって一年に一回行う競技大会で今年で四十六回目を迎えます。正式には全国七大学総合体育大会といえます。

藤山 藤山です。文学部人文学科国語学国文学研究室に所属しています。^{*4}昨年一年間、三月から十二月まで、交換留学制度を利用して、韓国の高麗大学校（ソウル大、延世大と比肩する有名私立総合大学。一九〇五年創設）に留学しました。

金子 大学院システム情報科学府の修士二年です。三次元のCG関連の研究をやっているのですが、全く別の活動として九大の学生でゲームをつくらうというプロジェクトを立ち上げて、^{*5}CC&C最優秀賞を受賞しました。今もその延長線で活動していて、ゲーム関連にずっと携わっています。GFFという福岡のゲーム会社が集まって構成さ

^{*（１）} 二十一世紀プログラム…学生は特定の学部には所属せず、原則として九州大学で開講されている全ての学部・学科の授業を受けることが出来ます。自ら専門を決めていきます。学部・学科の枠組みを超えた幅広い視野を持ち、問題・課題の発見とその解決能力に優れた、総合的なリーダーシップを発揮する人材の養成を目指して、二〇〇一年に開設された新しい教育プログラムです。

^{*（２）} 体育総務委員会…正式名を「九州大学体育総部体育総務委員会」といい、体育系クラブの統括、活動の手伝いなどを行っています。

^{*（３）} 旧帝国大学…北海道、東北、東京、名古屋、京都、大阪そして九州の七大学を指す。（他に京城と台北があった。）

^{*（４）} CC&C（チャレンジ&クリエイション）プロジェクト…学生ならではの独創的でユニークなプロジェクトを、経費助成やスペース提供で全学的に支援する九州大学独自の事業です。

^{*（５）} 交換留学…外国の大学と学生交流協定を締結し、お互いに留学先での授業料を徴収せず、一年以内の期間、学生を留学させる制度。九州大学では、平成八年度から「九州大学交換留学プログラム」The 21st Century Challenges in Studying Abroad Program(GSP)」という派遣制度のもと、毎年四十〜五十名の学生を世界各国へ派遣しています。

^{*（６）} 全学教育…人間的素養を育み、各学部の専門分野を学ぶ上で共通する基礎的能力を培うことを目的とする。科目は主に一〜二年次で履修する。

れている組織と九州大学と市が産学官連携プロジェクトゲームをつくらうという企画があり、その関係ですとゲームを開発中。カミングアウトする、平日は会社で働かせていただいて、ほとんど学校へはいってないんです。月から木曜まで働いて、金、土、日に学校へいくといった生活を送っています。

渡邊 これは、真面目な九州の高校生には理解不能な世界でしょうね。
(全員笑)



南極に向かう砕氷船上で (公田さん)

公田 大学院理学府地球惑星科学専攻で、博士課程三年です。私の研究している部門は自然科学の分野。ひと言でいえば、未知の探求です。研究対象は地球の磁場変動を観測したデータを用いて、地球周辺の環境を解明しようというもの。これまたすごく抽象的でわかりにくい内容だと思うんですけど、普段は研究室でパソコンに向きあって、

データ解析なんかやっていますが、夏休みなど長期で休暇が取れるときには海外国内問わず、磁力計という観測機器を設置しに行ったり、そのメンテナンスに行ったりしています。

渡邊 なんと南極圏にも観測機器設置に行ったんですね。

公田 日本でいうと「しらせ」のような、越冬隊員に物資を送るオーストラリアの砕氷船に便乗し、南極に行って、世界遺産の島に観測機器を設置して、オーストラリアのホバートに戻ってくるといった経路で一カ月乗船しました。観測機器の設置所要時間は三時間だけ。後はずっと船に乗っているという、そういう楽しいこともしています。

なぜ九州大学だったのか？

渡邊 九大に入学した理由などをうかがってみようと思うんですけど。大学院生からいきまじょうか。金子さんは振り返ってどうですか。何学部にお入りになったんですか？

金子 まず、理学部の物理学科に入りました。じつは今とは全く違う所属なんです。そのいきさつは後でお話することとして、九大を目指したのは九大に入ることがゴールだと勘違いしていたからだと思います(笑)。僕は二回大学に落ちています。九大に落ちたの

が悔しくて、躍起になって、九大に合格することになったと執着していた。二浪しているからもう「コケの一念」で、物理学科に入ったのは、物理が苦手だったからなんです。

渡邊 ほう、それも面白いですね。

金子 二年浪人してるから受験勉強を千日くらいやるわけじゃないですか。そうすると、どの教科も見たことある問題ばかりになってスラスラ解けるから、天狗になっちゃうんですね。当時は勉強を極めたんじゃないかと鼻高々。ほとんどの教科ですごい点数取れるんだけど、ただ、物理だけどうしても点数が伸びなかったんです。勉強を極めたと言いつつからには物理を制しないといけない、と思い定めて苦手なものに入っただけです。で、入ってみて気づいたのは苦手というより、センスがないんだということ。点数が取れないのは、自分に合ってなかったんですね。

渡邊 金子さんは突っ込みどころ満載ですね(笑)。苦手だからやめて、できるところへ行こうというならわかるけど。センスがなかったという判断は大いに気になるところですけど、それは後ほど何うことにします。では、公田さんは？

公田 地球惑星科学専攻にしようと思った瞬間は、すごく鮮明に覚えています。かれこれ十年近く前の話になり

ますが、私は高校時代から「これをしよう」と一本に絞れなくて。歴史も面白そうだし、考古学、生物もやりたいと、興味のあることが多すぎて、迷いの塊りでした。だから、高校の早い段階から推薦を受ける人を尊敬のまなざしで見っていました。すぐに自分のやりたいことを決められるってすごいなと思って。私はとりあえず生物系かなと思って受験勉強をしていたんですが、そんな時、センター試験の点数で合格圏内の大学を調べていて、パッと引き出されてきたのが、「地球惑星科学」という面白な学科名だったんです。これは面白そうだとピンときて、それで決めました。

渡邊 なるほど、意味のわからないところに惹かれるというんですね。

公田 考えてもわからないようなもの、直接見ることができないもの、手に取



21世紀プログラムの授業

れないものに興味をそえられる傾向がありますね。

田中 私の場合は、九州大学に入りたかったわけじゃなくて、二十一世紀プログラムに入って勉強したかったというのが正直な気持ちです。高校時代にユニセフの子どもネットワークで活動していて、「国際協力をやりたい」という思いを強めていたんですね。でも、国際協力というのは、教育だったり、政治だったり、食料だったり、たくさんさんのアプローチがあって、どれがいいのかわからなかった。で、わからないなりの段階で自分の可能性をいちばん素直に広げてくれそうだったのが、二十一世紀プログラムだったのです。

渡邊 皆さんは二十一世紀プログラムってわかりますか？ 金子さんはちょっと自信なさげですね。

金子 二十一世紀プログラムのコンセプトって何ですか。学部目標って必ずあるでしょう。

渡邊 まずいえることは、二十一世紀プログラムと全学教育のコンセプトとはかなり重なる部分があって、例えば、全学教育の中でも総合選択履修というのがありませんか。あのコンセプトをさらに広げたイメージというのが適当かなと思うんですね。総合選択履修のコンセプトは「自分の属する学



次々と発言が飛び出した座談会。（左から）渡邊先生、公田さん、金子さん、藤山さん、東さん、田中さん。

部、そこにある専門カリキュラムに関わらず興味関心に応じて、ほかのどんな学部の授業を取って、卒業単位に加えてもよろしい」というもので、それをほぼ四年間丸ごと、全面的にやるというのが二十一世紀プログラムなのです。その当事者である田中さんは入学直後から、いろいろな感じるものがあつたと思うのですが、どうですか？

田中 すべて自分で動いて、自分で判断しないといけないという現実に直面して、大いに戸惑い、困惑しました。十八歳そこそこで、そういう境地に立たされたとき、何をどう調べていいのか大学のシステムすらわからないし、自分で決断して、結果に責任をもつということは、やはり相当の重圧です。でも、逆によかったことというのは、就職活動して思ったことですが、面接官から「二十一世紀プログラムって、どんなところ？」と聞かれた時に、私は「白いキャンパスのような舞台」だと説明してきたんです。キャンパスの大きさも自分で決められるし、何を描くか、どんな色を使うかも自分で全部決められる。好きなものを描ける点はとてもよかったな、と。

渡邊 田中さんはキャンパスにどんな絵を描いたのでしょうかね。

田中 特に留学を通して、自分の無限の可能性というものを実感できました。



東さん（法学部4年）

中国人民大学の農業農村発展学院との共同研究においては、研究テーマを自ら提案し、中国人民大学生を巻き込んで一週間の農村調査を行いました。また、日常生活においても、世界中の学生との交流や学生のみならず、社会人の方々との接点をもつことも意識して努めてきました。これらの経験を通して、常に挑戦する姿勢、また、自らのネットワークや価値観の幅を広げようとする姿勢を学び、どんな時も自分を信じ、行動できると確信できたのは大きな財産です。

渡邊 なるほど、二十一世紀プログラムが白いキャンパスに融通無碍に自身の可能性を描けるとすれば、例えば法学部や文学部は、何色か知りませんが、ちよつと自由にはいろいろ描けないキャンパスかもしれません、そのあたりはどうだったのでしょうか。

東 まず九大に入学したいちばんの理

由は、九州から出たくなかったということ。あまり都会過ぎるのが好きじゃなくて、自分自身も田舎っぽいと思ってるんで。出身は熊本で、大学はギリギリ行けて福岡かなと。大阪、東京は念頭になかったですね。閉鎖的な考え

方なんですけれども。

渡邊 九州でもいくつか選択肢がありますよね。

東 九州の中では九大の偏差値がいちばん高かったのです。

渡邊 もう四年生ですから、就職が決まってるんじゃないですか？

東 就職活動をちょっとだけしつつ、公務員試験を受けるのですが、どちらも熊本です。

渡邊 入学したところなど福岡暮らしにはすぐなじみましたか？

東 熊本から福岡にきて、一人暮らしをするわけですから、最初は困りました。こういうふうに通ごせばいいのか、空をつかみたいで。

一人暮らし。 正しい自立のヒケツ。

渡邊 いちばん困ったことは？

東 食事や生活のリズムが崩れやすかったことです。夜眠れなかったり、やっと寝ついて起きたら昼になってい

て、授業にいけなかったりとか。

渡邊 どうやって克服していったんですか。

東 慣れじゃないですかね。

渡邊 同じような不安をもっている高校生がいるかもしれないけど、時間が解決するというメッセージでよろしいでしょうか。

東 僕はそうだったですね。悪い方向に行ってしまう、それまででしょうけど。

渡邊 じゃ、悪の道に走らないヒケツって何かあるんですか？

東 僕の場合、部活です。バスケット部に所属していますが、週四回は部活があつて、それがペースメーカーになりました。授業が終わったら、夕方六時から九時、十時くらいまで部活で、帰って寝て起きたら次の授業というペースができてきたので、そういう意味で部活に助けられました。

渡邊 栄養面でも、先輩のお財布が役に立ったりしてね（笑）。

藤山 確かに自立は真っ先に襲いかかる課題ですね。東さんは自分の選択方法を閉鎖的といいましたが、私はさらに消極的で、親の意向というか、家から通って国公立という条件内での学校選びでした。その時点で選択できる学校は二つ。ひとつは女子大です。総合大学のほうが規模も大きいし、九大が

いいかなと。私が通っていた高校は一学年で百人くらい九大に進学するため、高校二年次には全員オープンキャンパスに行くんです。それで身近に感じていた部分もありますね。でも、そのわりには、入ってみたら戸惑いました。総合大学は都会型のコミュニケーションなんです。こういうことかという、人はいっぱいいるけど、自分で関わりをもとうとしない人間関係が広がらないのです。普通に授業を受けているだけじゃダメ。高校の友達が外大など単科大学に行つてすごく密な人間関係を築いているのを聞いたりして、うらやましく思った時期もありました。

渡邊 それで何かアクションを起こしたんですか？

藤山 やはり部活に入りました。茶道部です。

渡邊 東さんのように、部活が学生生活のひとつの柱になっていったということですね？

藤山 最初は全学教育で、自分が文学

藤山さん（文学部4年）





司会の渡邊先生

部に所属しているという実感もあまりもてなかったですね。まだ、高校の延長のような気がして……。友達と話してたんですけど、「私たち、文学部じゃなくて茶道部に入ったみたいだね」って（笑）。

渡邊 でも、文学部は所属が決まるまでの時間は短いでしょうか？ 大きくくりな選択からだんだん絞っていくというよりは、バシッと決めなきゃいけないじゃないですか。

決める時期が早すぎて、むしろ困る学生もいると思うんですけど。藤山さんはどうしてかなり早い段階で国語文学と決められたんでしょうか？

藤山 視野が狭かったからだと思います（笑）。文学部という何となく国文というイメージがあったし、自分も面白いなと思ったので、あまり迷いはありませんでした。逆に視野を広げようとする、迷いが出るんでしょうか。

渡邊 入学後も別に視野を広げる必要はなかったということ？

は思いましたが、最終的に第一希望を国文にしました。それでも第五希望くらいまで書かなきゃいけないですよ。文学部といっても幅は広く、国文が第一希望なのに、全然違う研究室に振り分けられたら、私だったら気持ちの転換が難しいだろうなと思います。

全学教育についてひとつお聞きしたいんですけど、この前、一年生のカリキュラムを見せてもらったら、全然、自分のころと違っていたんです。私のときは「個別教養」が気に入っていたのですが、もうなくなっただけですか？

教養人たれ！

渡邊 いいえ、同じコンセプトの授業は実施されています。個別教養で実現されていたような自分で面白そうなのを選んで、授業を取るというシステムはそんなに変わってないはずですよ。

また、それとは別に大きく変わったのがコアセミナーです。入学した人全員に必修で、それぞれの学部がそれぞれのデザインで行い、中身も多様です。要するに少人数のセミナーを全員必修でやるというものです。これは大きな意義をもつ変化だと思っています。狙いは何かというと、ひとつは大学入学してすぐの学生さんというのは、教員から見ると足りないところがあって、

いちばん大きな欠落部分が、自分の考えを表現したり、他人と意見を戦わせるということ。その力を養成するためには少人数で双方の授業が有効なのですね。そしてもうひとつは九大の構造的な問題かもしれないのですが、専門と基礎教育の間にちょっとした断絶があること。専門の先生が低年次の学生のことをよく知らない、という溝を埋める手段として、よりたくさん先生に一年生の学生に関わってもらおうという試みです。

藤山 でも、コア科目は選択の幅がないし、単位もみんな落としたりして難しいという声があるのですが。

渡邊 それはありますね。でも、これにも別の考え方があって、九大の学生であれば、このくらいのことは教養として知っているとか、このくらいの力はあるという共有部分をなんとか確立しようとしているんです。そういうことで、文系コア、理系コアと設置されたのが、平成十八年度です。さらにさかのぼると、そこに入ってきた彼らは十五年度から新しい学習指導要領で高校時代を過ごしており、そのことへの対応でもあるんです。「専門学部に入ったのに、専門外のことをやらされるのか」という六本松生の不満が渦巻きがちなのですけれども、全学教育には大学の思いが深く反映されている

公田さん（大学院理学府地球惑星科学専攻）



ことも知ってほしい。そこを納得していただけると皆さんの姿勢も前向きになってくると期待するのですが。

公田 確かに面白いものは純粋に面白いんですよね。座る位置でお互いの関係がわかるという、心理学系の講義は今も印象に残ってます。体育の授業ではタイプ別のトレーニング法を学びました。少人数セミナーでヒトゲノム解析というのもあったって、受講者が自分の粘膜で系統図を作るということも経験しました。みんな人間に属していたのに、私だけ間違っただけの種族になったり。最終的には人間であるという判定が出たんですけど。

『面白い』『苦労した……』授業のこと

渡邊 面白かった授業の話なんか出てますけど、理系をとった学生にとって全学教育の基礎科学科目は、ある種、大きなハードルなのですが、その中で



田中さん(21世紀プログラム4年)

もこの授業、この先生が面白かったというのがありますか？

金子 たまらなく面白かったというのはノマド論。形がどんどん変わわりそうな授業で、実際、先生も毎回変わります。「専門家の人の話を聞く」というだけなのですが、専門家には「自分がこうだ」と思っている独特の軸みがないのがあって、聞くのを楽しみにしていました。

渡邊 それは個人間にすごく微妙な温度差があるところで、私自身も授業をもっていますが、ものすごく楽しんでくれている少数の人たちと、「この授業で何が身につくのか」といった懐疑的な人たちがいるんです。いろいろな先生が乗りこんで、銘々勝手な切り口で語る授業はえてして評判が悪い(笑)。

東 私が素直に面白いなと感じたのは「メディアとコミュニティ」と題されていたもの。とくに「コミュニティ」についての講義は夢中で聞き入るよう

な内容でした。つまらない授業だと受講者数が減っていくのですが、この授業はどんどん増えていくのが目に見えてわかりました。

渡邊 入らたての学生が「面白い」「いいな」と感じる授業には、何かポイントがあるんでしょうか。

東 自分の専門じゃない分野をのぞいて、それが面白いと思えたら、ひとつの目標は達成しているんじゃないでしょうか。

公田 六本松キャンパスで受ける基礎学科目には化学実験や物理学実験があつて、何かよくわからないけれども普段できないことをできた充実感がありますね。白衣を着て、スポイトで試薬を計ったり、教養課程にいるからこそできた化学実験という意味では面白かった。失敗ばかりだったんですけど。私の中にはいろいろなことをしてみたいという気持ちが常にあるので、普段できないことをできるというのは、意義が大きいんです。数学では、先生に当てられて、 z (ゼータ) かなにかの記号が読めなくて、お前はバカだとかケチヨンケチヨンにいわれたことも(笑)。でも、その先生、怖かったんですけど、すごくわかりやすくて。私は数学が苦手ですが、その先生の講義は楽しみにしていました。

渡邊 二十一世紀プログラムの田中さ

んは全学教育となると、アレコレ取りにくいよね。

田中 そうでもありませんでしたよ。

ただ、全学教育を受けながら、同時進行で二十一世紀プログラムの課題提示をこなすのがつらかったです。

渡邊 課題提示って何ですか？

田中 毎週土曜日、原子力、国際関係、味覚センサーを作っている方など、いろんなプロフェッショナルがきて、朝九時から五時くらいまでみっちり講義を聴き、その都度何千字というレポートを書くというものです。書くだけでなく、厳しい先生だったら、この本をいつまでによく読むことといった宿題もつきます。それがどんどん重なってくると、かなりのプレッシャーです。落としたらまた四年生に戻らないといけないから。

渡邊 殺人的なカリキュラムはどういう風にこなしていくのですか？

田中 みんなと団結します。「先生の言いたいことはここだよ」ということをしっかり捉えている人や、課題をすでに読んでいる人にどんな感じだったかを聞いたり、共有できるものはみんなで共有していくんです。「じゃ自分はこの切り口で書こう」と、方向付けや落としどころが見つかりますから。**渡邊** 田中さんは二十一世紀プログラムの三期生で同学年は十八人。全学教

育は「定食メニュー」とはいえ選択する科目が違って、一人ポッチになったりすることもあるわけでしょう。心細くなったりはしませんか？

田中 一人で授業を受けることは多いけど、そもそも二十一世紀プログラムの学生たちって、度胸があるというかわが道をいくタイプですからね。

渡邊 いちばん前の席に座って、先生が最後に「質問は？」と聞いた瞬間に手を挙げる人たちですからね。皆さんは目撃したことないですか？二〇〇一年からやっていますから、遭遇するチャンスはあったはずですよ(笑)。

みんな悩んで大きくなる。専門課程へ、そして大学院へ。

渡邊 では、次に専門教育にテーマを移しますが、大方の人は専門教育に進むと、「やっとこれで好きなことができる」といって、楽しくやっているようにも見えてるわけですけど、みなさんはどうですか。専門課程に進んで、何か感じたことはありませんか？ 今、まさにその段階にいらっしゃる藤山さんなどは早いうちから国文と決めて、あの意味迷いなく来ている感じですが、実際にそこに行つてどうでした？ 好きだという思いに間違いはなかった？



留学先の韓国高麗大学校で（前列右から2人目が藤山さん）

生がいるという環境ですよ。

藤山 それが理系の研究室と違うのは、先生はいっぱいいらっしゃるんです。

例えば、私の研究室は教授が一人、准教授が二人です。だから、研究室に所属したからといって、やることが限定されるわけでもないんです。どの先生につくか、だいたい四年生までは決まらないので。

渡邊 四年生で卒論を書く時に、先生につくという形をとるんですね。

藤山 それまでは何をやりたいかを考える時間、場という感じですね。うちの研究室は人数が多いので、二年生の間は、講義と演習のうち演習は受けられません。でも、三年生で演習をやり始めたら、身近に修士など院生もいるし、気兼ねなく相談しながら演習の準備もできます。

渡邊 演習というのはいわゆるゼミですね。

藤山 そうです。ひとつの演習で一学期間に一回発表があります。自分の担当が回ってくると、一カ月くらい前から研究室に通って、準備をやり始めるけど、先輩の助っ人があっても結局最後は徹夜になります（笑）。発表のスケジュールをずらしながら、みんな一学期間に三つとか四つのボリュームで演習を取ります。

渡邊 じゃあ、ものすごくゆとりのあ

る生活を送っているわけじゃないんですね。

世の中では文学部の学生はゆとりある学生の代表みたいに思われてますけど、そのあたりどうですか。反論の余地とかあるんですか？

藤山 研究室によるのだと思いますけど、うちの研究室に限って言えば、時間に追われていますね。そんなに悠々自適ではないです。

渡邊 それは強調しておいたほうがいいですね。むしろ、法学部のほうが遊んでいる可能性はありますね（笑）。

金子 法学部生の日々の学習生活ってどうなんですか？

渡邊 全学部からみて特徴的なのは学期のはじめに、授業を入れられる限り入れて時間をぎゅう詰めにすることです。で、学期の途中で「あの先生は鬼だ」というような情報が出回って、その講義を切っていくというスタイル。単位が取れる可能性が高い授業で全部埋めていくというものです。これは法学部と経済学部だけに見られる突出した特徴なんです（笑）。

東 週二回で四単位という一挙に単位が稼げる授業があったりしますし。でも躊躇なく学生を落とす教授がいたりするので見極めは難しいんですけど、単位が取りやすい先生のところには当然行きます。興味のあるところを受け



たいという気持ちはありますが、やはり単位を重視してしまってます。実際、私も興味優先にして何単位も落としているので（笑）。

渡邊 もうひとつ、法学部生って、出身のゼミをすごく強調しますね。「九大出身です」という時と同等かそれ以上の帰属意識を感じるのですが、東さんもそう？

東 ありますね。法学部の中でも法律学、政治学では専門分野が全然違うし、法律の中でも民法、憲法、行政法で分かれます。そこで、自分はこれを追究してきたと誇示したくなる気持ちはありますね。

渡邊 あなたは何を専攻したのですか。
東 行政法です。

渡邊 法学部は卒業論文はないけど、ゼミ論文を書く場合はありますよね。
東 東さんは？

東 私のゼミは独特で、みんなで論文を作るというスタイル。それだけに質も量も高度に求められて大変ですけど、



不規則に傾いた一人暮らしを部活に支えられた(東)

みんな協力しあって作るのが面白い。
金子 みんなで作るという感覚がよく
わかんないな。

東 みんなでゼミ論文テーマを決めて、
それに向けてグループごとに調べたり、
発表しあって、最後にみんなでまとめ
るんです。

金子 それって「オレの貢献度が高い
から、第一著者だ」といった争いは起
こらないんですか？理系学部では論文
を書く時に、何人か名前を併載します
でも、いちばん初めに書かれている人
がキーパーソンであって、その人がこ
の論文を書いた人というのが共通認識
としてあるんです。

東 そういっているのはいずれですね。テーマ
ごとにそれぞれやっていくんじゃない
みんなです。一つのテーマに取っ組む
んですから。

渡邊 金子さんの突っ込みはかなり深
いですね。例えば、公田さんのやって
らっしゃる研究なんてまさに、みん

なでやる研究の代表ではあるんです
が、みんなで作るっていつても、理系
はそれぞれ独立した研究者で、独立し
たテーマがあるんです。それぞれ他の
人にはない固有の専門性がある。それ
が自分の存在感であって、何より大事。
理系ではみんな同じコンセプトでひと
つのものをつくりあげるなんてありえ
ないことなのです。「船頭多くして船
山に登る」じゃないけど、みんなでや
ればやるほど凡庸なものができるとい
う考え方ですから。

金子 東さんたちはどうやってまとめ
るんですか？リーダーがいるんです
か？

東 リーダーというか、各章ごとの
リーダーはいます。

藤山 各章で矛盾は出てこないのです
か。

東 しっかり話し合いながらやります
から。

金子 全体を統括するリーダーはいな

いんですか？

東 それはゼミ自体の幹事が務めます。

渡邊 ますます興味深いですね。官吏、
ビジネスマン、組織人といった人たちは
理系人間とは根本的に違うんですよ。
人材育成、組織の方向からね。だって、
役人は匿名の仕事の代表みたいなもの
じゃないですか。人が変わっても役所
が遂行している仕事は変わっちゃいけ
ないでしょ。ルーチンワークという
ネガティブなイメージがあるけど、こ
れはずっと定常を守る力として大事な
ことで、人が入れ替わっても変わらな
いということを維持しているから、何
か異変があった時に感知できるという
ことがあるんです。

**一本道より、寄り道のススメ。
「すぐに決断しない」という
決断もある。**

渡邊 東さんや藤山さんとはまた
ちよっとニュアンスが違って、二十一
世紀プログラムの方たちも卒業研究を書
きます。最後の一年間は卒業研究をする
ために、既存の十一学部の中のどこか
の研究室の先生を見つけたでして、そこ
で研究させてもらうのです。で、いま、
田中さんはどういうことをやっている
んですか？

田中 農学部食糧流通学研究室の甲

斐先生という教授の下で研究していま
す。二〇〇六年五月二十九日、残留農
薬に関する新しい流通制度であるポジ
ティブリスト制度が施行されました。
その制度が中国の農産物生産者にどの
くらい認識されているか、山東省で
データを取りましたので、それを分析
しています。

渡邊 どうして農学部に行き着いたん
でしょう？

田中 教養が終わってすぐイギリスへ
行って、国際協力がやりたかったので
社会福祉政策などを勉強しました。イ
ギリス留学の最後に大前研一さんの本
などを英語で読まされたのですが、そ
こで日本経済の偉大さを認識して、「日
本人なのになんでこんなこと知らな
かったのか」と大いに反省。それを
きっかけに日本へ帰った時は経済、経
営、国際経済をやりたいと考えるよう
になっていました。農産物に特化した
経済がしたかったので農政経済にいま
す。

渡邊 じゃあ、先生と個人的に出会っ
て、この先生いいなと思ったのではな
く、テーマ重視なんですね。

田中 テーマ重視ですね。

渡邊 二十一世紀プログラムの学生は
最後まで所属が決まらなくて、すごく
苦労するケースもあるんです。田中さ
んはテーマをたどって、農政経済にた



留学で自分の無限の可能性を実感できた(田中)

どり着いたという形ですから、それほど山あり、谷ありの大冒険はなかったのでは？

田中 いえ、農学部は難しいです。と

いうのも、私は農学部の授業はひとつしかとってなくて。統計をやるための基礎も自分で勉強しなきゃいけないし、農産物流通に関する授業はまったく取ってないので、独学するしかないんです。自分の努力次第で二十一世紀プログラムを活かせもするし、だめにもする。背水の陣です。

金子 研究室を決めるのは四年生でしょ。三年生までに基礎的なことはやらずに飛び込んでいくのがスタンダードなんですか？

田中 いえ、スタンダードじゃないです。例えば、農学部の化学系に入った人たちは基礎科学なども取っています。人それぞれ、道が全然違います。

渡邊 いざ決めても教授との交渉が

残ってますからね。直談判です。

田中 受け入れてもらえないこともあります。理系の基礎科学科目を取っていないと、受け入れないとか。

渡邊 最初は学内でもあまり知られていなかったから、わからないと親しみもわかないし、冷やかな場面もある。でも、二〇〇一年から時間とともに解決されてきている部分も大きくて、今年で七期生が誕生し、卒業生も三期まで出てますから、時間とともにハンディが減っているというのはあります。では、次に大学院生のお二人に、大学院へ行く前のあたりを。金子さんは物理センスがないと判断を下したじゃないですか。そのココロは何だったんですか。

金子 全学教育だったかどうか記憶が確かじゃないんですが、力学基礎という授業があって、その単位を落としたんです。物理の学生にとって力学は基

礎。力学基礎はさらにその基礎みたいなもので、難しくはなかったんです。

でも、部活でほとんど勉強に割く時間がなくて、それで落としたというのがある意味センスないなと。もうひとつ、理系の基礎科学科目に物理学実験があつて、それが一向面白くないんです。本当に地味で。振り子で地球が回転していることを調べる実験だったんですが、むしろ、サブで取っていた化学実験のほうがずっと楽しくて。化学って色が変わったとか目に見えてわかるじゃないですか。物理は目に見えてわからないことが多い。物理は純粋物理学と情報物理学とコースが二つあつて、入学当初は純粋物理だと思っていました。が、大きく変更して情報学を学び始め、今の私があるという次第です。

渡邊 純粋物理に対していきなり情報物理なんですか？

金子 情報物理というよりは物理には限らず、もっと情報全般といったほうが妥当かもしれません。コンピュータグラフィックスとか、きれいさは目で見えるでしょ。化学実験と同じで、直感的に僕にとってはよかった。

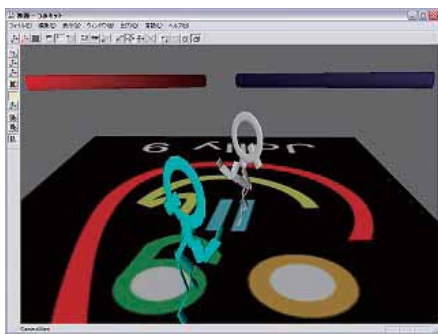
渡邊 何かつかんだのかもしれませんがね。受験時代に物理だけ成績が上がらなかったのも直感の要素が大きいのかも。なるほどそういうことで、適性がわかってきたんですね。C&C最優秀

賞受賞とはどうつながっていくのですか？

金子 研究室のメンバーの話合いの中で「自分たちのもっている技術を活かして起業したい」という声が上がったのが発端です。そのきっかけを探していた時、C&Cプロジェクトのポスターを見つけました。大学からプロジェクト資金ももらえるということで、起業に挑戦してみようとC&Cプロジェクトに申請したのです。

渡邊 プロジェクトのタイトルが「九州大学の潜在的創造力を生かしたゲーム開発環境の研究」となっています。なぜゲーム開発だったのでしょうか。

金子 現在、福岡ではGFF（ゲームディベロPPER同盟）と九州大学、そして福岡市が産学官連携協定を結んで福岡をゲームのハリウッドにしようと



金子さんが立ち上げ、C&Cプロジェクト最優秀賞を受賞した、ゲーム開発環境「積みキット」のゲーム画面



失敗してわかることもたくさんある（金子）

いう大きな目標を掲げて活動しているんです。僕らもゲーム開発をやっているのですが、ゲームにはキャラクターデザイン、音楽、アニメーションなどさまざまな要素があり、さらにそれらを制御するプログラムがあつて、ひとつのゲームが完成します。しかしながら、絵が描けて、音楽が作れ、かつプログラミングができる人材はほとんどいないと思われまふ。けれども、「絵だけは誰にも負けない」とか「音楽作りだけは得意です」という具合に、少なくとも何かひとつの才能をもっている人材は九大にはたくさんいるはずでふ。それらの人材が作ったバラバラのゲーム素材をプログラミングを行うことなく、ひとつにまとめることでゲームを簡単に作れるシステムを作ろうと考へました。ゲームIIプログラムが当たり前の現代で、プログラミングを行うことなく、グラフィカルにゲームを作るといふアプローチは斬新な発想で

すし、このシステムで起業しようと考えたわけです。

渡邊 進める際の面白さ、大変さって、どんなところなんだろう？

金子 やるんだつたら、とことんやるうということ、プロジェクトの実行チームとして「Joke」というチームを作りました。さらに広報チームと開発チームに分け、各チームでどうしたらうまくプロジェクトを進められるかとコトコト考えました。僕らの研究スタンスは一人一テーマだから、研究を誰かと共同で行うことはないし、ましてや九人という大人数でやるのは経験もなかったので、企画・運営・開発をやっていくのはすごく面白かったです。プロジェクトリーダーとしてメンバーに恵まれ、「面白い運営ができたと思つています。メンバーの口をついて出る」あでもない、こうでもない」というくだわりや意見からもみんなのプロジェクトに賭けてくれている思ひがヒシヒ

シと伝わつてきて感動を覚えましたが、ただ、研究との両立は大変でした。C&Cプロジェクトやゲーム開発の中でやっている活動は論文にはならないので、いかに研究とプロジェクトとの両立を図るかに苦慮したのは事実です。

せて入学させているのに、関係ない授業を受けさせられるという声があります。でも、われわれ大学としては学生は何も知らない状態で学部を選んでいふのだから、それは一度ぶつ壊したいという気持ちがあるわけです。十八歳で決められないというのも事実で、もう一度、リセットして考えてもらいたいというのが本音です。

渡邊 適性を見つけるためには、たまには何かアクシデント、単位を落とすとか、そういうネガティブな体験も大事ということになりそうですね。

金子 失敗してわかることも、いっぱいありますよね。

わからない、不思議、でも、惹きつけられる先生。

渡邊 公田さんはやりたいことを早く限定できる人は尊敬するといつていたけど、本当にそう思う？

公田 尊敬というところとちよつと違うな。疑問符を伴つたスゴイという感じ。ただかだか生まれて十七年、親元でぬくぬく育つてきた世間知らずなのに、どうしてそんなにさつさと自分の進む先を決められるのか私にはわからなかったんです。

渡邊 それは公田さんの成熟していた感性だといふ気がしますね。全学教育に戻りますが、学生には学部を決めさ

に興味があつて、早く専門に入りたい

公田 地球惑星科学専攻は幅が広くて、地層、化石、地震気象、ちよつとアツパの宇宙系とあります。私は宇宙系に興味があつて、早く専門に入りたいかつたのですが、地学専門の授業なども受けなければならぬのは、正直フラストレーションでした。やつと三年生の終わり、希望調査というのがありまして、銀河の誕生を調べるようなところに行こうと思つていたので、その前に自分が行きたいところは必ず研究室訪問しなくちゃいけないんですけども、実際に話を聞いて、「何かがちよつと違うな」と思つてしまった。そこへ行きたい気持ちをずっと長く温めていたから、進路変更は結構勇気がいったんですけど、違ふと思つたその流れで、今の湯元先生の研究室にいつてみたんです。先生の授業はかなり適当（笑）。「人間は一ヘルツの波が頭に当たるとおかしくなるんですよ」とかへんなことをいつてらして、「ワ、な

インスピレーションや自分の気持ちを大切に（公田）



んだこれは。「面白そうだ」となったわけなのです。ちょっと迷いはありました。でも、私はインスピレーションを大事にするタイプで、ピンときたところで決断に向かっていました。決めるまでにはそれなりに時間かかったんですけどね。

渡邊 なるほどね。さっきもわからないものに惹かれるという話をしてましたね。適当とかヘンとか、ね。これもふつう、九州の真面目な高校生は許せないんですよ（笑）。

だけど、そうじゃないんだよね。公田さんも「適当でヘン」なところに入ってたよかったです。

公田 私はここしかなかったと思います。

渡邊 ちなみに一ヘルツの話は何だったの？

公田 詳しいことはわからないんですが、授業中にいきなりその話がでてき

て、「まだ実験したことはないんだけどね」って。人の頭に一ヘルツ当てる

とボケるかどうかなんて、何かとても変なことをいうな、遊び心があるなど。

渡邊 遊び心ね。研究の世界に行く人って、遊び心はなくちゃならないものだと思うのです。一般社会でも遊び

心のある人はやっぱり面白いし、仕事もできるような気がするんですけど。

公田 柔軟性とか、通り一辺倒じゃない先生がいいですよね。

渡邊 いい先生の条件って何だと思えますか？ いい先生に出会ったことのある人、手を挙げて。

（一堂挙手）

何だみんなあるじゃないですか。

東 法学では自分の論理をしっかりとっている先生。学生にちゃんと伝えるように、自分の論理という考えをしっかりと伝えるような。学説とは違っても自分の考えはこうだといったものを

を的確にいつてくる先生ですね。

藤山 どの先生も大学の先生をしているくらいだから、それなりに業績はもっていると思うのです。だから、私はプラスαで人間的に魅力を感じるかどうか、フィーリングを大事にします。長くつき合っていかなきゃいけないので。

渡邊 その魅力って、どの部分なんですかね。

藤山 わからないところじゃないですか。

金子 今の先生にはどこに惹かれたんですか？

藤山 わからない・・・です。

（一堂笑い）

金子 僕の意見が参考になるかどうかわかりませんが、僕の教授がすごくいいなと思うのは、考え方が柔軟な点。どこが柔軟かというと、研究者であって研究だけに縛られていないところで

す。こういう言い方は大学にとってはどうかと思うんですけど、大学って教育機関であり、研究機関じゃないですか。研究をやるのは当然みたいな先生はたくさんいらっしゃるって、でも、研究以外の活動に対しては無理解な先生もいると思うんですね。僕がやっているゲーム開発などは、先生によっては「意味がない」という見方があるのは事実。「そんなことやるなら研究やれ」みたいな。でも、僕の教授はそうじゃなくて、自由にいろんな活動をさせてくれます。そこが柔軟でいいなと。

渡邊 やらせてくれるというのは放任というもあるんですが、興味ももって

ていてくれるんですね。

金子 はい。そういうことです。

公田 私の場合は、教授自体、すごく向上心をもって、「将来これをした

い」と夢をちょこちょこ聞かせていた

だいてるんです。そういうのを聞く

プラスαで人間的魅力を感じるかどうか（藤山）



と、「あ、私も頑張らなきゃな」と思ったり。あと、理系は特に研究費を取ってこれる先生かどうかっていうのが大きい。研究費がとれない研究室は結構大変なんじゃないかな。うちの先生はかなり頑張っていて、研究費があるからこそ、海外観測にも学生が行けるんです。それは非常にありがたい。

渡邊 研究費を取ってくるということ、は、手練手管ということだけではなくて、役所、世間、民間などそういう専門外の人たちの心をつかむということですから、コミュニケーション能力が高いということになりますよね。湯元教授は宇宙環境研究センターといった独立の研究も持ってらっしゃって、それ自体、かなり力を持って活発にやってるんだなというのがわかります。このセンターは部外者もいつでもウエルカムで、先生ご自身で中学生を案内したり、お話も慣れていらっしゃる。魅力的だと思えますよ。あと田中さんはどうですか。

田中 私は大学に四年間いて、いろんな国のお会いしたのですが、日本、イギリス、中国と共通して尊敬するのは民間会社経験があったり、国連にいらっしやったりと、大学外にも経験をもっている先生。そういう先生は、学生のことをきちんと見てくれて、先生というよりもリーダーとして、自分

のことを評価してくれたり、だめなときは軌道修正するために叱ってくれる。また、そういう先生は感情でものをいわないんです。コーチングスキルとか、リーダー論とかを学んできているのか、社会でもまれてきたのか、敬慕の対象ですね。

高校生の皆さんへのメッセージ

渡邊 最後にこれから九大生になろうという高校生、受験生の皆さんへ何かメッセージを。

公田 主観的なアドバイスになるんですけど、いろんなことを経験してほしいと思います。若いうちにしかできないことも非常にたくさんあると思うので。自分で殻や枠を作らずに多くのことを経験して、自分の進むべき道をゆつくりと、考えていってほしいのは。それと勇氣はいるけど、インスピレーションとか自分の気持ちを大切にしたいなと思います。

金子 機会があったら、何でも飛び込んでみて、何でもやってみて、ダメだと思ったらさっさと捨てる！今やりたいことがない人は、いろんなことやってみたら何か必ず見つかると思います。

藤山 迷うくらいだったら、どうしよ

うかなと思ってるんだったら、それはやったほうがいいことなんじゃないかな。結果がすぐ役に立たなくても、成果に結びつかなくても、後で役に立ってきたりするかもしれないので、まっすぐじゃなくて、あちこち立ち寄ってもいいんじゃないでしょうか。

か。私は交換留学制度を利用しましたが、ありきたりな言葉ではありますが、やはり大きく視野を広げられたと思います。今まで勉強してきたことを違った角度から捉えることができたことももちろんですが、勉強以外の普段の生活でもそれを感じることが多々あります。寮生活ではオーストラリア人やドイツ人と同室で過ごし、最初は言葉の壁があつて、コミュニケーションに苦労しましたが、韓国に留学しながらいろいろな国の人たちと出会えたことは想像以上にいい経験になりました。

東 みんなが言ってるのとはほとんど同じになりますが、私もやはりいろんなことを経験したほうがいいというアドバイスに尽きます。アルバイトにしろ、部活、旅行にしろ、大学の講義では教



えてくれないことを身につけさせてくれます。それは社会に出た時に役立つような気がしますよ。

田中 アドバイスはすごく難しい。今の高校生の現状を知らないと、「この人がいっていることは違う」と否定されたら、それまでですから。

私も可能性を信じてチャレンジしてほしいというふうに思ったんだけど、今の高校生って可能性がいっぱいありすぎて、逆に選べなくて、不安に陥っていると思うんです。

渡邊 だから、話が戻っていくわけですよ、なんでも早く決めるというのは幸せかどうか、いいことかどうかという問いに。正解はないし、なんともいいがたいということでしょうが、少なくとも田中さんが「私」に関しているならば？

田中 私は選択する時は常に自分の可能性が最大限広がるものという基準をもっていきます。それもひとつの選択肢だと確信するからです。

(終)

この座談会は平成十九年六月一日(金)、箱崎キャンパスで行われました。



座談会を終えて

今、高校生の間では、早く目標をはっきりとさせ、それに必要な対策とか準備をすることを是とする傾向がますます強まっています。生徒の可能性に思いを馳せる前に、とにかく一本道を進ませるという教育に変わってきているのです。しかし、今日、参加してくれた先輩のうち確実に半分以上の方は一本道ではなく、寄り道することで自分らしい豊かな道をつくっているように見えませんか。これから九大に入ってくる人には、「私は〇〇学部しか興味ない」ではなく、意識においてまずは学部の壁をぶっ壊して、何でも見てやるくらいの気持ちをもってきてほしい。それが、大学生活の第一目的である「自分の可能性を広げ能力を伸ばす」王道なのでから。

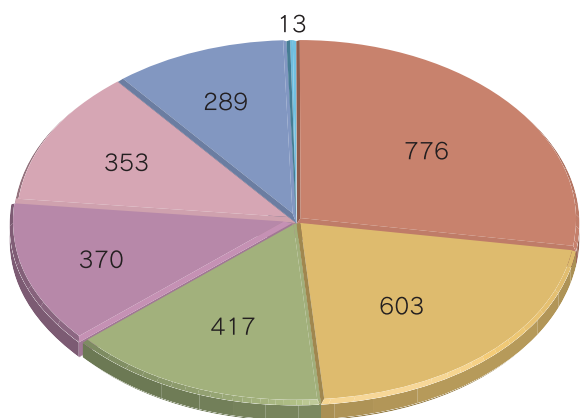
(渡邊哲司)

九州大学ガンバレ！ 入学式に参加した新入生の家族アンケートから

九州大学は、平成十九年四月五日の入学式に出席されたご家族への、アンケートを実施しました。これは、九州大学に対する関係者の意見を広く聴取し、大学経営に反映させようとする取り組みの一環です。今年度の入学式には、入学者数（二、六八七人）とほぼ同数の二、六八四人のご家族の出席があり、大学の予想を超える事態となりました。このため、一部のご家族の席が不足するなど、ご迷惑をおかけすることとなりました。今回のアンケートからは、九州大学の教育に関するご家族の高い期待を読み取ることができ、これまで以上に学生教育に真摯に取り組む必要があることが確認されました。アンケート結果は、教育改革のデータとして活用し、今後も教育の質の向上に努めてまいります。

（学務部 学務企画課）

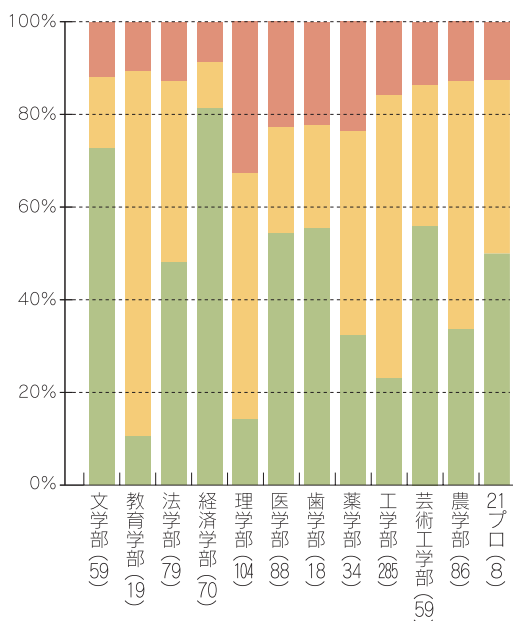
Q. 学生生活において入学生に期待すること（回答数）



- 幅広い教養を身に付け、豊かな人間性を涵養してほしい。
- 深く専門知識・技術を学んでほしい。
- 課外活動などを通して多くの友人と交わり、豊かな人脈を形成してほしい。
- 社会人としての基礎を身につけてほしい。
- 卒業時に資格を取得するなど、就職に役立つ実用的な能力を身につけてほしい。
- 国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけてほしい。
- その他の内容
 - ・学生生活を楽しくしてほしい・できるだけ早く卒業し、働いてほしい
 - ・ガールフレンドを作りたい・将来進むべき道を見つけ、進んでほしい

Q. 卒業後の進路の希望

- 博士まで進学
 - 修士まで進学
 - 就職（学士まで）
- ※（ ）内は、
家族（回答者）の数



総括的な意見

□勉強出来るありがたさ、父母、兄弟、家族への感謝。あたり前のことですが、先生方から何度も何度も言っている。入学させていただきありがとうございます。陰ながら協力させていただきます。九州大学ガンバレ！いつもいつも見えています。

□サービスクで経営が成り立っていると考え、意識を大きく変革していただければ、九大といえどもつぶれると痛感願いたい。東京周辺私大に学ぶべし。

新キャンパス

□大学が早く伊都キャンパスに統合され、落ち着いた学びが出来ますことを切願しています。

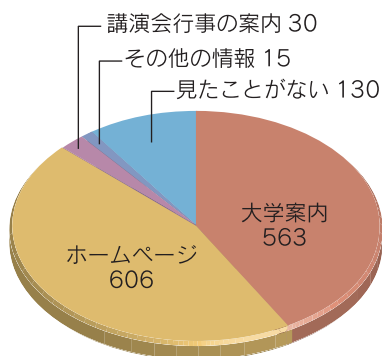
ご家族のメッセージから

大学に対しての 要望・提案

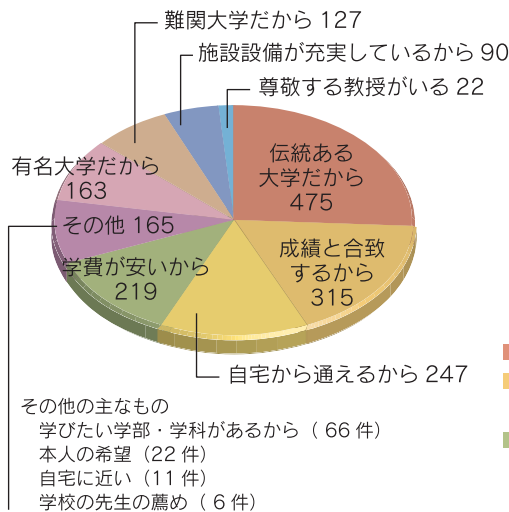
「主なコメント」



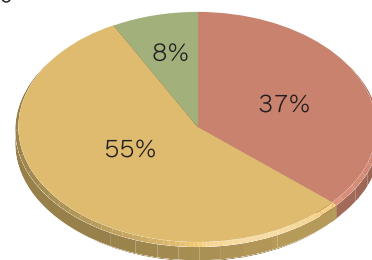
Q. 大学の情報を見たことがあるか



Q. 九州大学を選んだ理由

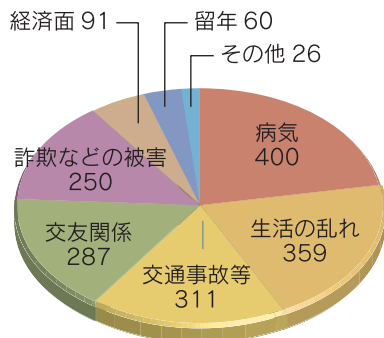


Q. 大学進学にどのような考えを持っていたか

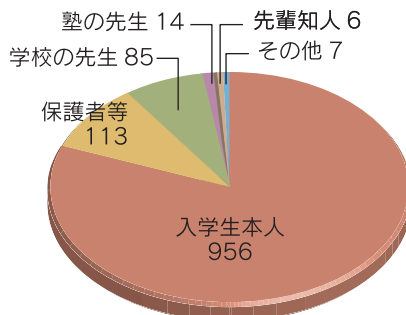


最低でも大学は出てほしい。
 目的意識を持っていなければ大学に進学する必要はない。
 社会的評価・知名度の高い大学でなければ、進学する必要はない。

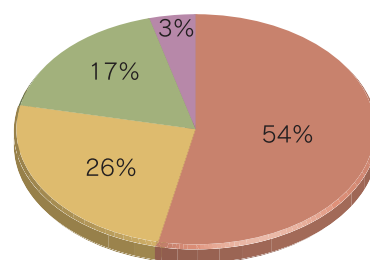
Q. 学生生活で心配なこと



Q. 進学先の意味決定に最も影響を与えた人

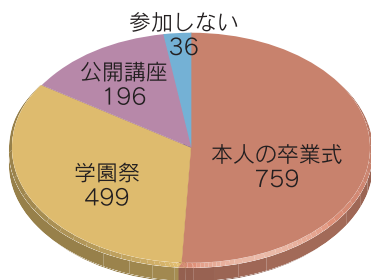


Q. 進学先の選択にかかる家族の関与

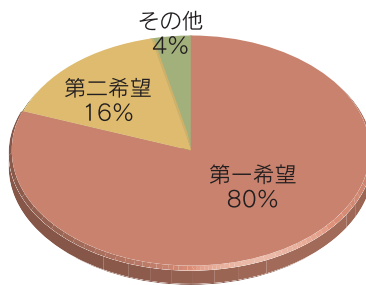


意思決定の相談にのるなど、ある程度関わった。
 入学生に意見を述べたが、進学先の決定に影響を与えなかった。
 ほとんど関与していない。
 進学先の選択に決定的な影響を与えた。

Q. 九州大学のどの行事に参加したいか



Q. 家族にとって、九州大学の進学は第一希望だったか



入学式について
☐ 会場が狭く、保護者への配慮が足りない（7件）
☐ 「大学の門をくぐる姿、校門の前での姿などを見てみたい」等、大学キャンパスでの入学式挙行を希望する（2件）
☐ 入学生を学部ごとに座らせる
☐ 学部別に入学者何名と発表して入学者をたたせてほしい

アメニティーの確保
☐ 寮に入れましたが、費用が安いとはいえず、悲しくなる程お粗末でした。時には大学管理者が寮に出向き充分の様子を見ていただきたい。洗面・トイレ等清掃業者を週一、二回入れていただきたい。もうすこし住みやすくなるなら費用は高くても苦情はでないと思います。

教育
☐ 今頃の学生は昔の学生と違い、精神的に幼い面が多いと思われます。高い志を持ち勉学に励み、東大・京大の生徒達に負けないように（東・京大よりプレゼンテーションが弱いと聞きますが）プレゼンテーション力もしっかり身につける様にご指導願いたい。
☐ 単に知識だけでない、幅広い教養や人間性が身につくように、導いてほしい。

学生たちが大活躍！——九州大学のロゴ作り——

UIプロジェクトの仕事

「四月五日、九州大学入学式が福岡国際センターにて行なわれま
す。新ロゴやUIファイルなど、一年間の成果が表に出る大きなイ
ベントです。」——UIプロジェクトチームのメンバーの学生がプロ
ジェクトの連絡メールにこんな文面を流しました。プロジェクトチ
ームの大学院生たちは、こうして二〇〇七年度の入学式を新入生と
一緒にちよつとした緊張感をもって迎えたのでした。

プロジェクト始動

「UIプロジェクト」とは、「九州大学ユニバーシティ・アイデ
ンティティ・プロジェクト」の略。九州大学から発信するさまざま
な情報に一貫性のあるイメージを与える仕組みをつくらうというプ
ロジェクトで、大学院芸術工学研究院の教員、芸術工学府の有志の
大学院生と広報室が中心メンバーとなり、二〇〇六年四月にスター
トしました。

九州大学のUI活動そのものはすでに二〇〇四年に始まっていま
した。一九四九年以来用いられていた松葉を图案化した九州大学の
伝統的なシンボルを基本にデザインした新しいシンボルを制定。二
〇〇四年に商標登録し、大学グッズなどに展開してきました。こう
して生まれた新シンボルでしたが、一貫したかたちでの展開にはな
かなか至りませんでした。この状況を憂慮した広報室が、デザイン
を専門分野とする芸術工学研究院に相談をもちかけたのがプロジェ
クト発足のきっかけでした。

シンボルを引き立てるロゴタイプ

プロジェクトチームは、九州大学が発行するあらゆる印刷物を収
集し、UIの浸透状況を確認しました。結果、部局などさまざまな
組織で九州大学シンボルの使い方が一貫しておらず、ルールづくり
が必要であることがわかりました。また、シンボルとロゴタイプの
組み合わせ方もまちまちで、せっかく制定した新シンボルを引き立
てる文字要素の再検討も重要な課題となりました。特にシンボルと



ユニバーシティ・アイデンティティ・デザインマニュアル。シンボルロゴの使用ルールを規定している。



学内関係者との打ち合わせ

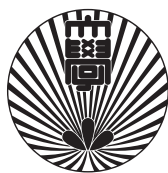


九州大学が発行する印刷物を分類、整理した。

1949年

2004年

2007年



九州大学



KYUSHU UNIVERSITY

九州大学シンボルロゴの変遷

ロゴタイプの組み合わせは、UIのシステムの基本となるもので、慎重な検討が必要です。

これまでは二種類のシンボルとロゴタイプの組み合わせがありましたが、これを使いやすさの面から検討。シンボルの下に大学名を配したタイプでは文字が小さく、縮小した場合に読みづらくなること、また大学名を和英併記したものしかなく、和文だけの組み合わせ、欧文だけの組み合わせも必要であることの二点が課題となりました。また、ロゴタイプの書体にシンボルと共通した特徴がないことも悩ましい問題でした。せっかくのシンボルを引き立てるにはどうしたらよいのか。プロジェクトチームはロゴタイプのリデザインに取りかかりました。

九州大学のアイデンティティを表現したシンボルの特徴を反映した形態で、しかも視認性が高いことをデザイン条件とし、AとBの二つのロゴタイプ案を作成しました。Aはシンボルの「松葉」の部分の形態的特徴を、Bは「松の実」の部分の形態的特徴を反映しています。



丁寧な意思決定プロセス

二つのロゴタイプ案を検討するに当たって、学内外に広くアンケートを実施することにし、旧ロゴタイプと、新しくデザインした二つのロゴタイプ案から受け取るイメージの違いを引き出す質問で構成しました。九州大学の教職員、在学生、高校生ら約七五〇人から回答が寄せられ、それぞれのロゴタイプのイメージの特徴が浮き彫りになりました。アンケート結果から、B案をベースに、画線の太さを調整することによって、旧ロゴタイプが持っていた「安定感」を加えて修正し、最終デザインとしました。丁寧な意思決定プロセスを重視したのもプロジェクトのひとつの特徴と言えるでしょう。

ロゴタイプの種類は、国際性と使いやすさに配慮して、和英併記のタイプと、和文、英文専用のタイプがそれぞれ二つの計五種類としました。英文については、和文の書体の特徴にマッチした現代書体を選定しました。こうしてシンボルロゴの要素が完成したのです。

旧ロゴタイプ

九州大学

A案

九州大学

B案

九州大学

最終デザイン

九州大学

旧ロゴタイプと新しくデザインした2つのロゴタイプ案（AとB）および最終デザイン。

アンケートの結果、現行のロゴタイプは「安定感」と「威厳」、A案は「カジュアルさ」と「かわいらしさ」、B案は「知性」と「洗練」といったイメージが挙がった。



UIプロジェクトチームによる途中経過のプレゼンテーション。
進捗状況を報告し、関係者の意見を取り入れながら丁寧にプロジェクトを進めることを心がけた。

大切なのは喜んで使ってもらうこと

次の課題は実用化に向けての運用ルールの検討です。運用ルールを考える上で最も頭を悩ませたのは、各部署がすでに持っている独自のシンボルとの整合性でした。各部署の独自性と歴史、愛着の象徴としてのシンボルを尊重しつつ、色も形も異なる独自シンボルと新しい九州大学シンボルロゴとを調和させ、同時に、組織の位置づけを視覚的に明確にするという難題の解決策を探りました。ほかの

ルールも含め、まず使う人にとって分かりやすく使いやすいかどうかを検討し、ひとつずつ決めて行きました。その結果が「ユニバーシティ・アイデンティティ・デザインマニュアル」に反映されています。

最後にUIプロジェクトチームが取り組んだのは普及です。実用化がうまく行くか否かの鍵を握るのは、どれだけ多くの人に喜んで使ってもらえるかということに尽きます。二〇〇六年三月、予定していた一年間のプロジェクト期間も一か月ほどを残すだけとなりました。普及への一歩として提案したのは三つのアイテム。だれでも楽しく読めて役に立つ「UIハンドブック」、シンボルロゴをビジュアルと音で印象づける「ムービング・ロゴ」、そしてUIに初めて接する新入生に配布する実用性を備えた「UI

ファイル」です。それぞれ編集デザインに興味のある学生、CGを学んでいた学生、プロダクトデザインが得意な学生が熱心に取り組んだ結果、驚くほど短期間にかたちになりました。

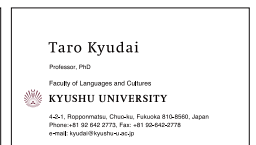
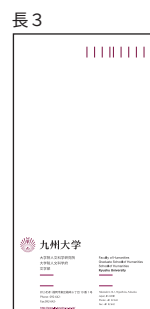
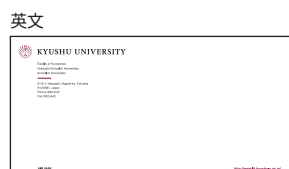
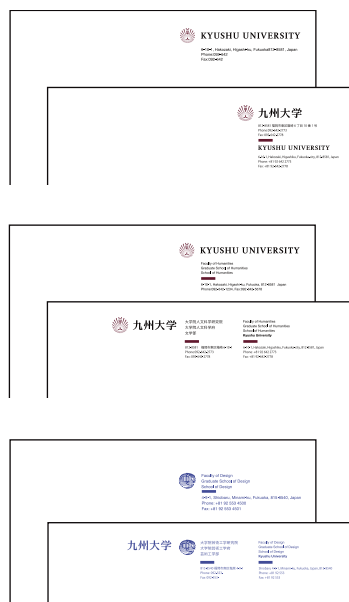
このプロジェクトの大きな特徴は、まず学内の教職員と学生が中心になって進めたことです。多くの大学でUI活動が盛んになっていますが、外部に委託することが多いようです。九州大学は、学内にデザインの研究部門を持つという利点をいかし、独自の活動を試みました。上手くいったこともいかなかったこともありすが、貴重なのは「自らのアイデンティティを自ら視覚化し、自分たちが使いやすいようにルール化する」プロセスに多くの学内関係者が関わったことでした。

二〇〇七年度入学式で、一年間のUI活動は一区切りをつけました。入学式で上映された「ムービング・ロゴ」、新入生全員が手にした「UIファイル」、そして各部署に配布された小さな「UIハンドブック」は、UIの普及に小さな一歩を踏み出すきっかけになったようです。

(芸術工学研究院准教授・

池田美奈子／伊原久裕)

新しいシンボルロゴを用いたレターヘッド、封筒、名刺。





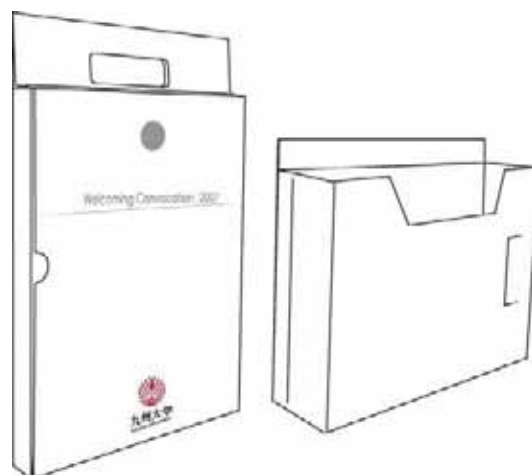
プレゼンテーションのオープニングなどに活用するために制作した「ムービング・ロゴ」。動画と音を使って表現することで、シンボルロゴが持っている意味を伝える。



新入生に配布された「UI ファイル」。ワンタッチでファイルボックスになる書類ケース。この学生アイデアは意匠登録出願中。



UI ハンドブック



新しいUIの運用ルールにそった、学生のアイデアによる各種デザインサンプル。



FRONT
RUNNER

シリーズ研究

ふろんと
ランナー

「ふろんとランナー」は、九州大学の研究の最前線をインタビューで紹介するシリーズです。シリーズ第三回目は、理学研究院の亀伸樹助教に、薬学研究院の石井祐次准教授が聞きます。

地震学

亀伸樹

かめのぶぎ

理学研究院助教

聞き手 薬学研究院 石井祐次准教授

VOL
3

非平面地震断層の

動的破壊シミュレーションの研究により

「平成十九年度科学技術分野の

文部科学大臣表彰 若手科学者賞」を受賞

疑問から目を背けない

― まず^{＊注}十九年度科学技術分野の文部科学大臣表彰若手科学者賞の受賞、おめでとうございます。今日は最前線の研究者のお話が聞けるとあって、楽しみにやってきました。先生はずっと地震学を研究されてきて、今回の賞では地震が止まるメカニズムを解明したことが評価されています。でも、地震が止まらなかつたら大変なことになると思うのですが、結構この根源的なことがわかっていなかったのですか？

亀 主に地震学は物理学の分野で担っていますが、この分野ではなる

べく物事をシンプルにしようとして、モデルも立体ではなく、まっ平らな面上に地震の動的破壊が広がるというものを作ります。石井先生に「そんなこともわかっていなかったの？」と尋ねられましたが（笑）、構造地質学、活断層調査の分野では断層面が平面ではないことは当たり前のように認知されています。ところが、物理学においてはこの「断層面が平面ではないという当たり前のこと」がどのような現象をもたらすのか、というのは研究者の興味の範疇ではなかった。そんな状況の中で僕らのモデルによって両分野が融合されたということです。



「僕も科学者の端くれですが、自戒を込めていうと科学者って自分の世界に入ってしまったって全体が見えなくなりがちです。先生のお話を聞いていると異分野で助け合っているって、しゃって、その点も素晴らしいと思います。先生のご研究が物理学における定説を覆した背景には風通しのいい研究環境もあるような気がします。」

亀 ありがとうございます。研究者は地震が起きた時にまず地震の揺れを観測しますが、観測すると小さな地震はたくさん起きていて、大きな地震は少ないということがわかっていました。そうした大小様々を僕の専門でもある破壊力学という学問で定量化、数値化しようとするとうまくいかない。石井先生のおっしゃるように、物理学が自分たちだけの世界に入ってしまったって「定量的にうまくいかない」というのが定説になり、

ゆえに地震が止まるメカニズムに関しては突拍子もない仮説が百出して、いる状況だったのです。だからこそ私の研究は「言われてみたら当たり前だな」「何でこれに気づかなかったんだろう」となって広く受け入れられたのだと思います。将来は私の名前とか誰も気にしないで、「地震は非平面の断層面で止まりますよ」ということをみんな普通に常識にしていると思いますよ（笑）。

「先生は非平面の断層で地震が停止する動的破壊モデルを作り、非平面破壊計算法という革新的な計算法を独自に開発、検証されました。非平面断層モデルという震源研究のスタンダードを構築したのですから、やはりすごいことだと思います。」

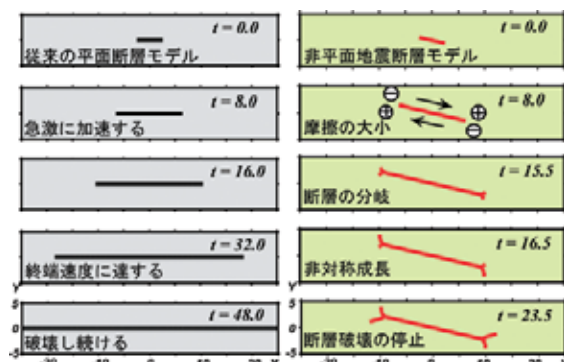
亀 モノって「パリンツ！」と割れたら全部壊れちゃうのに、なんで同じくモノが壊れる現象である地震は全部壊れずに止まってしまうのか？という直感的で自分としてはごく素直な疑問に取り付かれていたのです。そういう疑問があったのに、地震学の分野では説明されず放置されているところにも素朴に疑問をもちました。

「これは手をつけるのは難しそうだとみんなが見て見ぬふりしている部分に、チャレンジされたということですね。」

亀 いえ、そういう意味でいうと、ダイレクトに地震の停止の研究に着手したわけではないのです。とっかかりは地震を破壊現象として捉える時に、平面じゃなく本物らしい地震の破壊のシミュレーションをしたいという思いでした。従来のシミュレーションでは常に地震の断層を平面にモデリングします。でも、本物の破壊面というのは平面ではないですから。

「本物を目指したいという思いが、ひとつのキーワードになりそうですね。先ほど、地震には大きい、小さいがあるといわれましたが、地震の大小はどんなモデルで説明されるのでしょうか？」

亀 僕らのモデルは、断層の破壊現象はなかなか続かず、すぐ止まってしまふというものです。その中でわかってきたのは、大きな地震もあらかじめ大きくなれる断層が用意されてないと起きないということです。もともと断層面というのは、岩石がすで



〔左〕従来の平面断層モデルでは、地震の破壊成長は止まらない。
〔右〕動的破壊シミュレーションにおける非平面断層形成のスナップショット。破壊は分岐し、その後、停止する。

＊（注）萌芽的な研究や独創的視点に立った研究など、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績を挙げた四十歳未満の若手研究者を対象とし、今年度は六十二名が受賞しました。



に割れてしまつて何回も地震が起きていて、周りの岩石より明らかに弱くなっている部分。絶対にそこしか滑りませんよ、という地震断層面が用意されて初めて大きな地震が起きるということがいえると思います。

地震は止められないが、災害は止められる

ー 福岡西方沖地震を経験した身としては、大きな地震が起る場所がわかるようになるだけでも福音なのですが。

亀 活断層の調査の方々が滑って弱くなっている面を見つける活動を繰り返して行っています。断層面の形状情報があれば、今回の研究成果によって地震規模や強震動を予測することが出来ます。地震リスクに対する現実的なアプローチは今のところそれしかないと考えますが、ただ、まだ見えていない断層面もたくさんあって、そこで思いがけず地震が起

きることもあり、実際にはなかなか難しいところですよ。地震がおこるたび、自分自身の理論的研究が地震の被害軽減に直接はつながらないことに目ない思いをするのですが、ただ、地震を防ぐことは出来なくても、災害を防ぐことは十分できる。地震を研究している者として防災との観点から自分のもっている地震の知識を広く伝えていくことも一つの使命だと考えています。

ー 具体的にはどういうことですか。

亀 最近の地震学の研究成果として、地震の長期予測があります。どの場所でもどのくらいの規模の地震が起るかということがすでに発表されています。想定地震が起きた場合の揺れの強さも定量的に予測できる段階にきましたので、自分の住んでいるところがどのくらい強く揺れるかという情報をもっと有効に活かして、災害対策に反映していただければと思います。また、防災意識の

喚起こそ地震学者自身ももっと積極的にやっていかねばならないことだと考えています。

ー 門外漢ながら、先生の研究によって地震の規模や揺れの予測については一気に進捗したことが実感できます。それと並行して地震がいつ起るかという研究も進んでいるのですか。

亀 いわゆる地震予知ですね。それが、内陸活断層の場合はものすごく再来間隔の幅が広く、今後三十年かもしれないし、一〇〇〇年起きないかもしれないということになるので、本当にごく最近の技術でいうと、気象庁の即時地震情報のサービスが始まっています。一般の方はまだ対象外ですけど、それもひとつの切り札かなという感触はあります。

ー どういう内容が送られてくるのですか？

亀 気象庁は二十四時間態勢で地震発生の情報をキャッチし、データを機械的に即時地震情報という形で出しています。惜しむらくは受け取ってどう反応するかというのはまだ何も整っていないこと。揺れが起るまでに何か対策が取ればいいので

すが、電気やガスを止めることは実用化に向かっています。

ー それは二次災害を食い止めるのに非常に重要だと思います。

亀 地震学の研究を志す学生さんたちは地震予知にすごく興味を抱いてくるんですけども、どのくらいの大きさの地震が、どの地域に何時何分何秒に起こりますという、みんなが期待するタイプの地震予知というのは難しいのが現状です。ですけれども、ここ十年の地震学の発展によって災害を減らすために役立てられる技術的な知識がかなり蓄積してきていることは、各種の地震研究会に参加して感じます。JRは地震が起きると、列車を止める「ユレダス」という地震計を開発して実際に運用しています。新潟中越地震の時に新幹線が脱線しましたが、脱線する前に急ブレーキを踏めたのも「ユレダス」が設置されていたからなのです。地震学の研究は防災面では十分な発展があったと僕は思っています。

やった！の瞬間

ー 先生ご自身の地震の研究歴は何

年になるのですか？

亀 京都大学四回生からのスタートですから、十四年間です。

ー 子どもの頃から科学者になったかったですか？そのきっかけは？

亀 京都大学の物理学学科を狙ったのは湯川秀樹さんの物理学に憧れていたから。でも、入学してみたらず物理学科ってすごく難しくて、物理はドロップアウトしてしまったのです。それで、数学、生物、化学というのろやってみたんですけど、どれもじっくりこなくて。最後に地球物理学というところをやって居場所を見つけたことができました。

ー 科学者になる道程で何度か曲折はあったものの、京都大学の時代にはもう地震の研究を始められているんですね。

亀 京大時代は強震動の予測を目指して地震の観測と解析をやっている研究室で、四年生の時に観測のお手伝いもしていたのですが、もっと理論っぽいことがしたくて、東京大学の研究室へ変わりました。九州大学に着任したのはその後です。もともと僕の興味の主眼は地震ではなく、物事の破壊現象にありました。九大

着任後には、海外特別研究員として二年間、破壊力学の世界的権威ハーバード大学ジェームズ・ライス教授と研究する機会を得ました。

ー 研究生活の中で先生にとつて遣り甲斐って何でしょう。

亀 シミュレーションをしていて、考えた理論通りにいった時はそれはそれでうれしいのですが、シミュレーション結果と理論が、思いもかけない形でピタッと合う瞬間があるのです。そういう時には「やった!」と思いますね。いちばん「やった!」と思ったのは、今回の研究で地震が止まった時です(笑)。失敗するところが圧倒的に多いからこそ、思いもかけないシミュレーション結果が出てきた時は、望外の喜びです。

ー 失敗が続いた時は、どうやってモチベーションを維持するのですか。

亀 博士課程二年の時に丸々一年かけてやった理論的なシミュレーションがあるのですけれども、それはもう何もない結果が出なかったの論文にもならず、お蔵入り。外からみると、一年間何もしなかったという感じになるわけです。研究分野自体がコンスタントに成果を出せる分

野ではないので、最近は腹をくくって、たまに当たりが出ればいいかなと。あまり焦らずに、失敗したら淡々と次に取りかかるという気分です。

自分をあきらめない

ー 答えにアクセスし続けているということですね。先生を目指して九大にこられる方もいらっしゃると思うんですけど、高校生たちにメッセージをいただけませんか。

亀 そうですね。研究というのはどの分野が自分に向いているのかというの、なかなかわからないものだと思います。自分にはこれしかないと思いついてる人もいます。でも、あまり肩肘張らずに、「まず何でもやってみよう」というのが僕からのメッセージです。面白くなららな分野をやればいいし、面白くなかったら違う分野をやればいいんです。まずはひとつの分野に没頭し

てみて、「それでも十分間に合いますよ」というのが僕の実体験に基づくアドバイスです。

ー 必ず自分の求めているものに出会うということですね。

亀 第一志望に行けなくて第二志望学科になっても、学部を変更したとしても「やってみたらそれぞれに面白いよ」といつてあげたいです。

ー そう思います。僕もじつは大学は第一志望に受からなくて。でも、九大の大学院に行って、気がついたら今、教員をしていますので。あきらめなければ人にはいろんな可能性が待っているものだあと、思っています(笑)。自分で可能性がないと思った時点でたぶん物事が進まなくなるんじゃないかな。

亀 僕もその点を高校生に積極的に言っていきたいです。いちばん言いたいのは、自分をあきらめないこと。ー 可能性は無限といういいすぎかもしれませんが、案外真実なのかも知れません。



聞き手：石井准教授

身近な臨海施設 九大水産実験所

―豊かな自然を生かした環境教育と地域に根ざした大学として―

農学研究動物資源科学部門アクアフィールド科学助教 鬼倉徳雄

身近な臨海施設で自然の豊かさを学ぶ

本施設は福岡県福津市津屋崎、福岡市からJRとバスを乗り継いで一時間程度の所にあります。箱崎からも車を使って四十分程度です。他大学では例を見ない、キャンパスからの利用に極めて有利な身近な施設です（住所…福岡県福津市津屋崎二五〇六）。逆に、都市に近いため、環境教育には向かないのでは、という声があるかもしれません。しかし、本施設は周辺を砂浜、岩礁、入り江に囲まれ、多様な藻場や干潟を備え、豊かな生態系を保持しています。カブトガニの産卵が行われることから、自然の豊かさをご理解いただけるのでは。

我々は子供の頃、海や川で遊んでびしょ濡れになり、両親に叱られるという経験を必ずやったものですが、最近の子供たちはどうでしょうか？ とにかく自然に触れていないというのが実感です。我々は全学対象とコース対象の二つの野外実習プログラムを実施しています。実習生たちは自ら野外に出て、川や海、干潟や河口域の生態系に直接触れ、その体験の中から自然の豊かさ・大切さを肌で感じるができます。人間は自然の恩恵を受けながら生きていくからこそ、人間が自然に返す努力をしなければならないことを、このプログラムの中で若い世代に感じてもらえればと考えています。

カブトガニの産卵



飼育用3t水槽（20基）



水産実験所（手前）と津屋崎浜（奥）

津屋崎入り江の上空からの写真



地域への貢献・共同施設としての役割

現在、演習林、農場、生物環境調節研究センターと水産実験所が協力して、市民向け公開講座を開講しています。この講座では実験所の所有する調査艇にて小型底引網採集を体験することが出来ます。また、周辺の市町村の主催する環境教育にもボランティア講師として参加しています。昨年は福津市主催の郷育カレッジで、夏休み期間中の小学生を対象とした川の生き物学習会を実施しました。今年は福津市との共催で、七月三十日から三日間、福津市コミュニティセンターにてミニ水族館をオープンする予定です（入場無料）。このような地域貢献の積み重ねが未来の優れた環境学者を育て、また、数年後ここから九州大学の門戸を叩く子供たちが現れてくれることに期待しています。

本施設は共同利用施設として他学部や他大学の実習や調査研究にも利用されています。その述べ利用者は平成十七年度で学部内が九、九四三名、学部外が二、四八一名にのぼります。二十三名まで対応可能な宿泊施設、二つの調査艇、大型海水取水装置と飼育設備の充実に加え、やはり先ほど述べました「身近さ」によるものだろうと思います。



実習風景（多々良河口「上」と中流「下」）

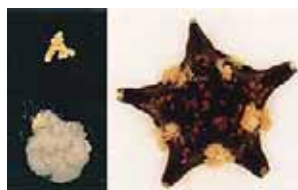
アクアフィールド科学を解き明かす研究

本施設には一研究室（アクアフィールド科学講座）が配置されています。水圏生物生産技術開発と水生生物の保全研究、陸水から海域にわたる水圏生態系と森林、農地、都市など水圏に関わる多様な環境との関連性の解明など、取り組むべき領域は多岐にわたります。水産有用無脊椎動物の種苗生産技術開発の一環としての性成熟・生理活性ペプチドのタンパクレベル・分子レベルでの解析、魚類の初期種苗の高度な健苗性を確保するための魚類初期生活史における代謝解析、水圏の環境保全に根ざした生物多様性・生態系に関する野外調査など、手法も様々です。今、水圏生態系が直面している資源量の急減とその原因である環境劣化等のインパクトを解明するには、様々な手法を用いた総合的学際的研究を実践しなければなりません。そして、我々の研究が目的を達成する時、水産資源の持続的利用、さらには質の高い生物多様性が確保され、真に我々が求めるべき「人と自然の調和」が実現できると確信します。

野外採集風景と採集された魚類



トラフグの共食い行動



人口ホルモン処理で誘発されたイトマキヒトデの産卵



写真左から、梶山総長、李総長、柳原副学長

総長 対談

ソウル大学校総長

イ・ジャンム

李長茂氏

九州大学総長

梶山千里

司会進行

九州大学副学長

柳原正治

「アジア指向」を掲げる九州大学と、韓国を代表するソウル大学校との間では、密度の高い交流が活発に行われています。ソウル大学校の李総長が、大学院の卒業式に来賓としてお見えになった機会に、梶山総長と両大学に共通する課題などを語り合っていました。

国際化でアジアの拠点となり、真のリーダーを育成する。

柳原 このたびは李総長を対談にお迎えでき、大変嬉しく思っております。本日、我々の大学を取り巻く四つの大きな課題を中心に先生とお話をしたいと思っております。一言ごあいさつを申し上げます。

梶山 このお忙しい時期に李先生を本学にお迎えでき、大変光栄に存じます。また明日、九州大学の卒業式で祝辞を頂戴できますことは殊の外有り難いことであり、卒業する学生たちも先生のお言葉に大いに勇気づけられることと思います。

九州大学とソウル大学校は極めて良好な関係を保っており、これまで研究者、教職員、学生による様々な交流が行われてまいりました。これらの交流プログラムを設けるに当たり、私どものお願いを快く聞き届けて下さったソウル大学校の皆様にご心より御礼申し上げます。

柳原 それでは本日の対談を開始したいと思います。まず最初のテーマは、両大学の学生および学

術の交流から何が期待できるか、というものです。ソウル大学校と九州大学はすでにASEP（アジア学生交流プログラム）の協定を締結しております。

二〇〇五年は韓日友好年という特別な年でした。それを機に、二〇〇五年には我が大学から十名の学生をソウル大学校に、そして二〇〇六年以降は毎年三名の学生をお互いの大学に交換留学させています。双方の大学が交換留学生に奨学金を与えるという大変ユニークなシステムですが、交流プログラムはこれだけではありません。学生だけでなく、研究者の交流も行われています。

このプログラムの成功は、韓日両国の関係と同様、両大学間の関係が近年成熟の度合いを増し続けているという事実を明確にする一例になっておりまして、その点からも、非常に重要なプログラムであるかと考えております。そこで李先生にお尋ねしたいのですが、これまでの我々の大学間プログラムや交流協定を振り返って

どのような感想を持ってもらえるのか、またこうしたプログラムにどのような期待をお持ちであるのか、そして今後何か新たな計画がありましたらお聞かせいただきたいと思います。よろしいですか。

九州大学とソウル大学の特別な関係

李 梶山総長、柳原副学長、有難うございます。まず梶山総長と九州大学の皆さんに対して、今回お招きいただいたことに心より感謝申し上げます。九州大学とソウル大学校には大変特別な関係がございます。学生だけでなく研究者の交流も大変活発です。特に、歴史に関する共同研究が現在進行中で、私どもの人文学部や社会科学部の教授が毎年九州大学を訪れ、共同講義や共同研究を行っています。

両大学は地理的に近接しておりますので、今後も様々な分野で数多くの協力ができるものと期待しております。例えば、ソウル大学校は日本研究において九州大学から、同様に九州大学は韓国研究に

においてソウル大学校から多くのものを得ることができるのではないのでしょうか。

実はソウル大学校では、タイのチュラロンコン大学と共同で韓国研究の修士課程プログラムを実施しております。この国際的なプログラムにおいては、アセアン諸国の学生が韓国研究コースを履修します。ソウル大学校と九州大学の間には、韓国研究に留まらず、様々な学科において実地的な共同プロジェクトを実施するためのより一層強固な基盤があります。今回の私の訪問が契機となり、両大学においてさらなる協力が進むことを心より望んでおります。

梶山 九州大学が国立大学法人となりましたのを機に、建学の精神についてじっくりと考える機会があり、二つの重要なことに考えが至りました。第一に、科学の新しい分野を切り開いて、世界に挑戦するという願望と決意。第二に、アジア指向を促進するために一層奮励し、その結果として近隣アジア諸国との関係を大切にすべきで

あるという変わらぬ信念です。この理念に沿って、強い決意のもと、これまで学生や教職員の交流を通じてソウル大学校と良好な関係を維持してまいりましたが、これは極めて意義深いことであると考えております。

教職員や学生の交流プログラムを最大限に活用することは、特に研究活動の分野において極めて重要であると考えております。ソウル大学校には韓国でも最高レベルの教授陣、医学や自然科学・工学、人文科学の分野での専門家がいらつしゃいます。九州大学もまた日本国内で最も重要な研究拠点の一つに数えられており、材料科学や農業、医学といった科学分野での研究に長じております。より良いものを創出し他の大学に対して道を開くために、ソウル大学校と九州大学の持つ強みを併せることができるのではないかと思っております。

九州大学の学生はこれまでASEPプログラムを満喫してきました。このプログラムを通じて国際

的な視野を得て、異なった文化をより深く知るようになります。こういった活動は、先程李先生がおっしゃいましたように、今日の学生にとって大変重要であると考えております。

創造性、他者への思いやりをもったリーダーを育む

柳原 それでは次の話題であるリーダーシップの涵養に進みたいと思います。

九州大学のOBは、企業のトップやその他の要職だけでなく、様々な分野における研究者としても活躍しています。しかし、最近日本の若者はリーダーシップに欠けるのではないかという指摘がありまして、このような課題に取り組むために、特別のリーダーシッププログラムを開始しました。様々な組織のトップや官僚の方々をお招きして特別講義をしてもらい、学生のリーダーシップ能力を涵養するということです。

ソウル大学校は長い歴史を通じて有力なリーダーを多数輩出されていますが、学生のリーダーシッ

プを育成するための具体的な方法がございましたら、是非お聞かせいただきたいと思います。

李 承知しました。二十一世紀のリーダーは、特定の分野の特殊な知識を持つにとどまらず、新たな「知」を作り出すような創造性を持たなければならないと思います。また同時に、社会的な関わり、共有や寛容といった資質も持ち合せなければなりません。リーダーシップ教育が必要不可欠であるという教員への調査結果から、このニーズを満たすための方策を我々は開発してきました。ソウル大学校のリーダーシップ教育では、すべての学生において知識、創造



性、そして徳を醸成することを目標としています。リーダーシップスキルは経験により習得されますので、講義だけでなく社会奉仕、インターンシップ、エクスターンシップ（学外研修）、その他の学外活動も組み合わせる実施しています。

この目標を達成するために、リーダーシップセンターを設立する計画も進めています。このセンターの使命は、リーダーシップに関わる学科が協力し、カリキュラムを統合して有機的統一体を作り、そしてこの共同プログラムを運営することです。センターのコア・プログラムとして、地域奉仕、ワークショップ、海外インターンシップと並んでリーダーシップと社会奉仕のコースがあります。このプログラムに参加する中で、学生は自分の知識を所与の状況に適応し、実践し、振り返ることを通して自分のものとして体得できるようにになります。

梶山 「リーダーになる」とこと、「リーダーである」ことが異なる

場合があります。若い学生たちには良きリーダーとなるためのトレーニングが必要です。学生たちにとって、常にチャレンジし、積極的に新しいことに取り組むことはたいへん重要です。

李先生は「創造性」という言葉をお使いになりましたが、本当に大事な資質です。同時に「個性」もまた重要で、この二つの資質を育む必要があります。例えば政治、経済、変わりゆく自然環境など、身の周りで起こること全てに常に目を配らせ、関心を持たせ、様々な変化に対する答えや対応を考えさせることが可能でしょう。自身で考えることで、独創的かつ個性的な解決法を思いつくのではないのでしょうか。

創造性は自分なりの解決法を積み重ねるという経験を繰り返すことから生まれるものであり、そうすることで国際的な視野が習得できるのだと思います。世界についてもっと知り、異なった文化について学ぶことで、学生は他者に対する思いやりを持ち、異なった文

化的背景を持つ人を尊重し、常に他者を温かく受け入れるようになります。このような資質はリーダーには不可欠であると私は思っています。李先生のリーダーシップに対する考え方に全く同感です。国家のためにどんな決断がなされるべきかといったような重要な問題に直面したときには、自国のことだけではなく、他の国は何を望んでいるのかということも考慮する必要があると学生たちに伝えたいと思います。

柳原 ソウル大学校ではリーダーシップ教育センターをまもなく開設される予定だと先ほど李先生からお話がありました。九州大学では今年の十月にスタートする新しいプログラムがあります。九州大学がシリコンバレー地域にオフィスを開設しているという関係から、シリコンバレーのリーダーの方々に、シリーズで講義を行ってもらい、誰でも受講できるように、衛星もしくは遠隔学習システムを通じて実施する予定です。学生のリーダーシップを育て、リー



ダーシップ教育のレベルを上げるためにも、今後もソウル大学校と意見交換をさせていただきたいと考えております。

李 有難うございます。グッドアイデアですね。

梶山 いったいどのような組織が運営し、どのようなコースが提供されるのか、リーダーシップセンターには大変興味がありますね。

法人化がもたらした 大学活力

柳原 三番目のトピックは国立大学の法人化についてです。韓国におきましても、国立大学の法人化の計画が進んでいると聞いております。日本では二〇〇四年四月か

らすべての国立大学が国立大学法人となりました。この点につきまして、梶山総長から日本の旧国立大学、特に九州大学の状況についてご説明します。

梶山 日本では二〇〇四年四月に、八十七の国立大学全てが法人化されました。過去、国立大学には個性がないと言われていましたが、法人化によって独自の性格や特質を持つことが奨励されるようになったと思います。もう一つの大きな違いは、予算や人材の配分が効率的になったことでしょう。三年前に法人化制度が導入されて以来、旧国立大学への運営費交付金は毎年一パーセントずつ減っています。この傾向がこの後何年続くのか、さらに何パーセント減っていくのかは判りませんが、こういったところが法人化に伴う大きな変化です。

また法人化によって、大学の研究者や教職員は社会に対する責任を一層意識するようになりました。研究で得られた成果を社会に還元しなければならないという意

識が改めて芽生えてきたわけですが、これは法人化がもたらしたメリットの一つでしょう。

この法人化は、大学に対して数多くの異なった意味合いを持っています。まず、大学間の競争が激しくなります。しかし競争にだけ目を向けてしまうと大学は発展できず、他の大学と競合すると同時に、競争力を維持するために他の大学と協働し協力する方策を探しています。

もう一つ重要な良いことは、法人化の導入により中央政府からの予算割り当てが減っているため、健全な経営状態を維持するための方策を大学が学ぼうとしていることです。現在各大学は安定した財政基盤を維持する必要性を意識しています。大学によっては、民間から資金を引き出すために産学協働プロジェクトに飛びつこうとするところもあるでしょう。しかし、我々は常に自己の「存在意義」を肝に銘じておく必要があります。大学は基礎研究活動を行うことを通じて、地域に「知」を伝



えるとともに、地域から「知」を伝えられる存在です。研究によってはその成果が後に商業的に競争力をもつ事業となることもあるでしょうが、それは基礎研究の分野で真摯に努力した結果がもたらすものでなければなりません。もし大学が自己の存在意義を忘れてしまふと、もはや健全な運営は行えなくなります。こういった重要なポイントが、大学の経営陣が常に肝に銘じておくべきことであると考えています。

柳原 それでは次に韓国の状況に目を向けたと思います。李先生、

旧国立大学の法人化が韓国でも始まったと伺っております。その中でソウル大学校は他の国立大学とは違った扱いを受けており、それはソウル大学校には他大学とは別個の法律が適用されるからであるという聞いておりますが、法人化が進む中でのソウル大学校の立場を教えてくださいいただけますでしょうか。あわせて、ソウル大学校で法人化が現時点でどのくらい進んでいるのかも伺えそうです。

李 梶山総長、日本の国立大学法人化についてのご説明、有難うございました。またアドバイスも頂戴し、感謝申し上げます。

韓国で一流の大学になろうと努力をする際に、大きな障害となるのは政府の規制です。このような規制があるために、組織の構造や財政、人材管理が硬直してしまいます。このような硬直状態は研究や教育改革にとって弊害です。そしてもう一つの障壁は、一流大学に成長するに足る財政基盤がないことです。国際的に著名な海外の大学と比べて、ソウル大学には際

立って低い予算しかありません。一流の高等教育機関となるためには、十分かつ安定的な財政基盤を持つことが欠かせません。

法人化は目標を達成する良い手段です。大学行政の自治を保証し、安定した財政基盤をもたらします。研究や教育に法人化が貢献することは疑いありませんし、学術の発展によってソウル大学校は社会により貢献できるようになるでしょう。しかし、韓国教育人材開発省の法案は、大学の意思決定や運営に外部の過度の干渉を許す可能性があり、まだ満足のいくものではありません。

そこで真の自治を手に入れるべく、現在政府と交渉を進めています。また、韓国の公立大学はそれぞれが役割と特質を持っており、単一の法律の下で全ての公立大学を法人化することは賢明ではないというのが我々の主張です。競争力を高めるためには、各大学の特質を反映した上で、個別に法人化が実施されるべきです。また、法人化の後、大学の収入を大幅に

増やすために知的所有権等の資産や強みを自由に活用できるようになることを期待しています。

大学の国際化に直結する 留学制度の拡充

柳原 それでは対談の四番目のテーマ、大学の国際戦略に移りたいと思います。先ほど梶山総長が申しましたように、九州大学の国際戦略には二つの重要な柱があります。ひとつは新たな科学領域を開くこと、もう一つはアジア指向を強めることです。アジア指向は、アジアの主要都市と地理的に近いこと、アジアの近隣諸国との歴史的交流が長いことが背景となっています。現代社会において西洋との交流を促進することは大変重要ですが、同時にアジアの近隣諸国とも同様の関係を求めたいと考えております。そのような目的のもと、私どもはアジア学長会議を主催すること等を通じて、アジアとの関係を強化するための努力を続けてまいりました。李総長におかれましては、アジアでも極めて重要な場所であるソウルに本拠を置

いていらつしやることから、アジアについては同じような考えをお持ちではないでしょうか。

李 梶山総長の、そして九州大学の国際化戦略への考えには私も全く同感です。ソウル大学校にとりましても発展のために国際化は不可欠です。国際化における我々の当面の目標は、アジアにおいて學術の中心地となることです。これはどういふことかといえますと、アジア各国から最も優秀な学生を募集して教育し、「選ばれた大学」になるということです。アジア有数の學術中心地となった暁には、次なるステップは一流の大学になることです。喫緊の課題は教育と研究を強化することです。この目標を達成するために、国際化は欠かせない触媒となります。まず、留学生の数を増やします。そしてパートナー校との學術交流を拡充することで、海外への、そして海外からの留学生の数を毎年五〇〇名増やしたいと考えています。現在、学位取得プログラムにおいて一、二〇〇名の留学生が、語学プ

ログラムにおいて八〇〇名の留学生が学んでいます。二〇一〇年までは、それぞれ学位プログラムの人数を二、〇〇〇名、語学プログラムの人数を一、二〇〇名に増やしたいと考えております。この目標を達成するために、奨学金プログラムも整備しているところ です。

海外へ向かう学生についても様々な奨学金を提供し、九州大学のような有名大学に六か月から十二か月間、留学できるようにしたいと考えています。現在約三〇〇名の学生が海外留学中で、

その数をできる限り早く五〇〇にまで増やしたいと考えています。

その他に国際化の一環として進めているものとして、共同学位プログラムや學術交流などがあります。共同学位プログラムは「デュアル学位プログラム」とも呼ばれておりまして、アメリカのデューク大学やフランスの幾つかのグラ・ゼコールと経営学、工学、国際研究の分野で実施しています。

また、様々なインターンシッププログラムも継続してまいります。ご存じのように、我が大学のOBであります潘基文（バン・ギムン）氏が国連事務総長に就任致しました。潘氏の就任はソウル大学校の誇りであり、アメリカや日本、ヨーロッパの国連傘下の組織や研究機関とのつながりを築き、我が大学の学生をインターンとして送り出す新たなチャンスであると期待しております。

また、遠隔授業やインターネット会議も国際化の重要な手段です。この七年間、ソウル大学校ではベルリン工科大学やミシガン大

学と共同で、学部生のコースをオンラインで実施しています。この経験をもとに、北京大学や東京大学と共同でオンラインのコースを計画中です。このプログラムは三か国間の學術協力を大きく刺激することになると思いますし、いったん成功しましたら、同様のプログラムをアジア全域に広げ、オンラインで共同学位プログラムを実施したいと考えています。

最後にご紹介しますが、本年度開講しますソウル大学校国際夏期講座です。この夏期講座では韓国研究とアジア研究に焦点をあてる予定で、我が大学の教員や海外の著名な教授、専門家が参加します。この試みは、韓国研究のグローバルセンターになるというソウル大学校の戦略と軸の一つにするものです。この目標を達成するため、ソウル大学韓国・アジア研究コンソーシアムを設立します。コンソーシアムについては、アメリカのハーバード大学、エール大学、ワシントン大学、スタンフォード大学と協議し、すでに前





向きな返答を戴いております。国際夏期講座で、韓国・アジア研究に関心を持つすべての学生はまたとない体験をすることでしょう。

柳原 李先生はソウル大学校の総長に昨年七月選出され、その折にソウル大学校を世界トップレベルの国際的な大学にすることを約束なさいました。グローバル化のための七つのプロジェクトも提案されました。今回のインタビューで、これまでの先生の数多くの努力の一端をうかがい知ることができました。

教育や研究から

国境を取り払う時代へ

梶山 李先生にはソウル大学校における国際戦略の重要性について

お話いただき、そのプログラムや戦略をご紹介いただきました。九州大学もまた数多くの国際戦略を進めておりまして、現在一、二〇〇名の留学生が主として大学院に在籍しております。

その結果、現在大学院の学生の八人に一人は海外からの留学生です。ATW、LLD、LLMなどの国際プログラムを開講しており、授業は英語で行われています。

国際戦略を持つことが重要であると先生はおっしゃいました。私はアジアに焦点をあてた国際研究の重要性についてお話ししたいと思っています。世界にはアメリカを始めとする北米、ヨーロッパ、そしてアジアの三極がございます。李総長と私は二人とも工学部出身ですが、エンジニアや技術者を認定する優れた制度が必要であると考えております。我々が現在適用している認定制度はアメリカもしくはヨーロッパのもので、欧米では自分たちの確立した制度を持っているのですが、アジア版はありません。日本でも独自の制度はあるの

ですが、基本的な考えはもともとアメリカから取り入れたもので、日本の状況にあわせてほんの少し手を加えたにすぎません。

アジアは民族、宗教、社会的特性といった点から世界の他の地域とは大きく違いますので、技術者のアジア版認定制度を設ける必要があると考えておりますが、このような大学ネットワークがありますと、それも可能になると思っております。

また、より深い協力が必要となる分野もあります。例えば風邪薬の開発です。それぞれの人種は異なった遺伝子を持っておりますが、市販されている風邪薬は欧米人による臨床試験に基づいて開発されたものがほとんどです。つまり、市中の風邪薬はアジア人種やモンゴロイド人種の遺伝子型を必ずしも反映していないのです。そこでネットワークを通じたアジアの様々な大学が協力するチャンスが生まれます。こういった意味からも、三極構造が大変重要であると考えており、教育や技術者の認

定、新薬の開発などにおいて大きな効果をもたらすものだと思います。

ソウル大学校はアジアでも有数の大学であり、九州大学はソウル大学校をパートナーに持つことにより、ソウル大学校や他のアジアのパートナーとの良い協力関係が築けるものと期待しております。私は西洋の大学に背を向けるべきだと申しているわけではなく、ソウル大学校やアジアの他の大学とともに、世界の名だたる大学と肩を並べるようなことが達成できるのではないかと考えております。李 それは素晴らしいですね。有難うございます。

柳原 本日はソウル大学校の国際戦略についてたくさん学ばせていただきました。九州大学とソウル大学校の間の学生や研究の交流活動において、すでにいくつかの研究の成果が実を結びつつあります。さらに多くの心躍るようなことが今後も結実することを願っております。

それでは最後に李総長より九州

対談 | 総長



対談を終えて

大学の学生にメッセージを頂戴したいと存じます。

李 二十一世紀においては、教育や研究を国単位に留めて境界を設けていたのでは、優れた学問業績を達成することはできません。優れた学問は、広くグローバルに問題を探ってこそ成し得るものです。また多くの場合において、多様な文化の影響に触れた人たちのみが柔軟に物事を考え、豊かな想像力に基づいてユニークなアイデアを生み出すことができます。

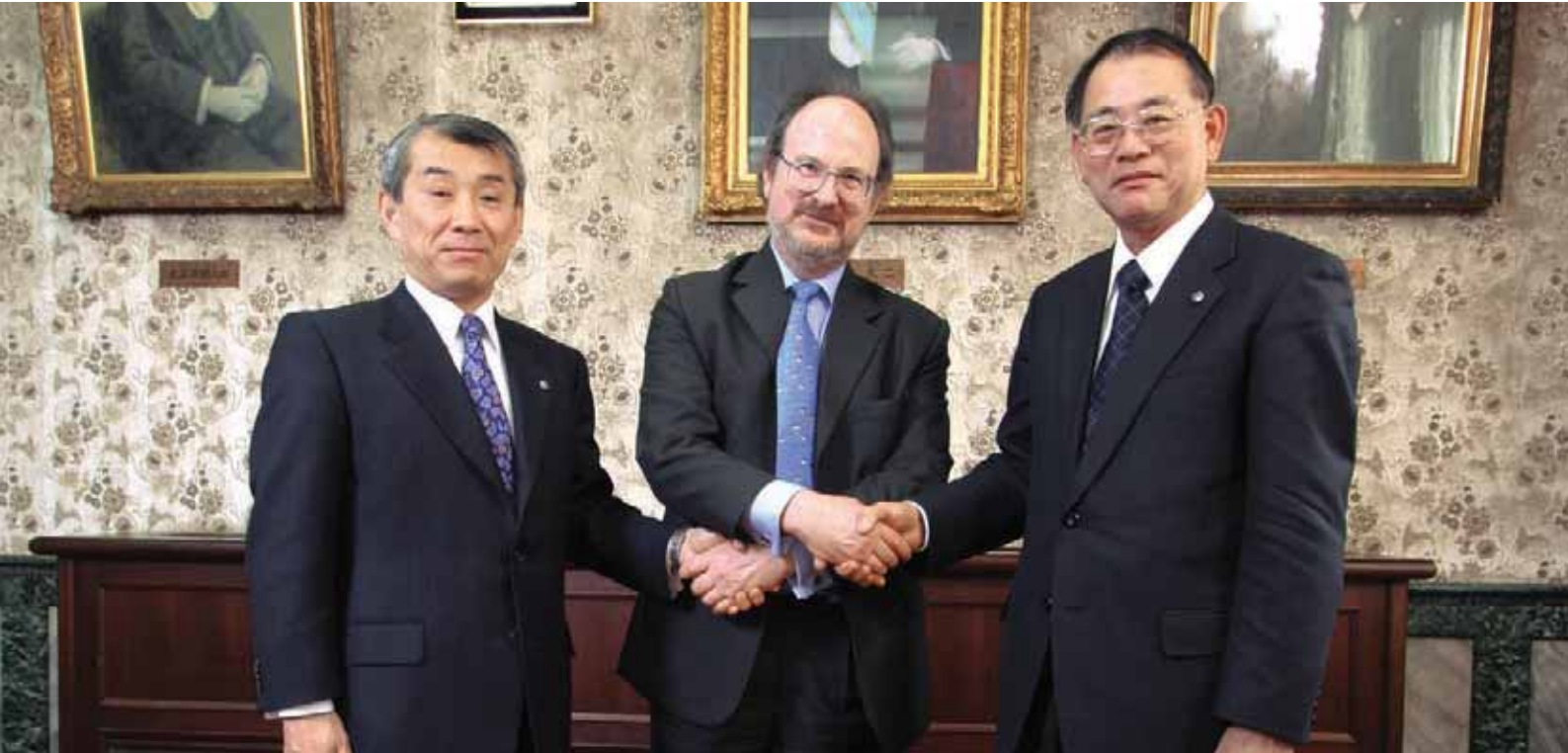
九州大学の学生さんたちには、是非オープンな態度で、外国人、特に近隣の外国人との調和を保ち、社会との関わり、分かち合い、そして寛容の心を持っていたいただきたいと思います。

梶山・柳原 有難うございました。

李長茂(イ・ジャンム)氏
プロフィール

Jang-Moo Lee

一九六七年ソウル大学校機械工学士号取得。一九七五年アイオワ州大学機械工学博士号取得。一九七六年からソウル大学校工学部機械航空工学科教授。一九九七年から二〇〇二年までソウル大学校工学部学部長を務める。二〇〇六年七月よりソウル大学校総長。韓国機械工学学会会長、国立科学博物館設立委員会委員長など多数歴任する。



写真右から梶山総長、ウェブリー学長、柳原副学長（事務局貴賓室で）

総長 対談

ロンドン大学アジア・アフリカ学院学長
SOAS : The School of Oriental and African Studies, University of London

ポール・

ウェブリー氏

Paul Webley

九州大学総長

梶山千里

司会進行

九州大学副学長

柳原正治

アジア、アフリカそして中東地域の言語・文化を網羅する教育・研究拠点として知られるロンドン大学アジア・アフリカ学院（SOAS）。九州大学は二〇〇六年十一月に同大学と大学間学術交流協定を締結。入学式に出席したポール・ウェブリー学長との対談がさっそく実現しました。

教育交流、留学は人格成熟のプロセス、国際理解への道。

柳原 それではこれからロンドン大学アジア・アフリカ学院のポール・ウェブリー学長と九州大学の梶山総長との対談を始めさせていただきます。

最初に梶山総長から一言ご挨拶を申し上げます。

梶山 先ず最初に、九州大学の入学式で祝辞をいただきましたことにに対し、ウェブリー学長に心より御礼を申し上げたいと存じます。

本日の祝辞のお話は学生にとって有益であり、かつ非常に勇気づけられる内容でございました。特に、大学を経営する私にとりましては、いかに人の心理を考慮して効率を上げるかという意味で非常に有益で、勉強させていただきました。

柳原 ロンドン大学アジア・アフリカ学院（SOAS）との間には、二〇〇六年十一月二十七日に大学間学術交流協定を締結致しました。私はその少し前、十一月の初めにSOASを訪問しまして、ウェブリー学長に大変温かい歓迎を受けたことを今も良く覚えてお

ります。昨年の十一月に協定を結んだ後、先ず学術交流の中で教育交流を開始することを決定し、今年度から実際に様々な形での交流が始まるうとしております。

SOASからは九州大学のJ-TW (Japan in Today's World Program) に一名が留学を申請されており、また日本語・日本文化研修コースにも申請をされる予定であると伺っております。SOASでは大変活発に日本語・日本文化教育が行われていると聞いております。なお九州大学からは、二名の学生をSOASに派遣することを考えております。

SOASと九州大学はパートナー関係を始めたばかりではありませんが、このように具体的な形で教育交流が既に始まっているということは、今後の発展も大いに期待されると思っております。

それでは、この教育交流を始めとする学術交流への期待と展望につきまして、ウェブリー先生にお話を伺いたいと存じます。

教育交流において大切なこと

ウェブリー学長（以下PW）教育交流についてですが、最も大切なことは学生のスキルを伸ばすことだと思います。九州大学に来る私どもの学生は皆日本語を学んでいます。彼らにとって極めて大事なものは日本語を十分に習得することです。また、SOASに来る九州大学の学生については、どんな分野を専攻しようとも、経済専門家、法律家、歴史家、あるいは他の分野の専門家としてより高いスキルを習得してもらいたいと願っています。

しかしながら、私の経験から申し上げますと、教育交流によってそれぞれの人格に真の意味での変化が現れることも非常に重要なことです。一年間海外留学した生徒が、一人の人間として大きく成長して戻ってきます。ですから、私どもの学生が九州に、九州大学の学生がSOASに留学するということは、まさに人格形成につながる体験と言えるでしょう。先ほど

もお話し致しましたが、そして人格などという言葉は英国では古臭く聞こえるものではあります。が、学生の人格が成熟化のプロセスを経るということは大変重要なことであり、教育交流はこれに大きく資するものだと考えております。

このことに関連して私が重要だと考える三番目の点は、当事者全てが相互理解を築くことの重要性です。異なった国での交流を経験した学生たちを通じて相互理解が広がり、育まれます。これは本当に大事なことであり、SOAS活動の根幹そのものともいえます。SOASは西洋以外の国々を西洋に、そして西洋を西洋以外の国々に伝えます。ロンドンに来る学生、そしてSOASから九州に来る学生が、相互理解、相互認容、相互尊重を促す一助となるのではないのでしょうか。

それと、限定した数の大学と深いパートナーシップを結ぶという考え方には私も大いに賛成です。沢山の大学とではなく、数少ない大学と極めて深くて意義のある

パートナーシップを結ぶほうが遙かに良いと思います。我々の大学間の関係はスタートしたばかりですが、現在進められている教育交流だけに限らず、将来は広く他の分野でも交流を進めていけることを楽しみにしています。

梶山 ウェブリー学長が仰ったことに私も全く同感です。

先ず若い人たちが色々な経験を重ねることが重要です。教育における経験に関して言えば、同じ国の色々な大学で教育を受けるのも経験と知識を得る一つの方法ではあります。しかしそれだけでは理解できないことが沢山あります。とりわけ異なった文化を理解することが極めて重要です。地球上に自分たちが話す言葉以外の言葉を話す民族がいるという事実を知ることが非常に重要であるということです。自分の言葉を理解できない人がいると、その相手のことを知ろうとします。相手を理解していないと私どもはついつい彼らを批判し、それが様々な政治的・経済的なトラブルに発展してしまう

ことがあります。ですから、若い時に異文化を知り、そして自分の文化を知らない人がいるということを知ることで、お互いの文化への理解が促進されると考えております。

外国に行くことのもう一つの重要性は、自分の人生において経験が豊富になることです。よく私は言うのですが、自分の人生において選択を迫られたときに、経験がたくさんあれば、その中でベストのものを選択できるのです。異質なものでなく、非常に純粋な限られたもののしか知らないときには、適切な選択ができないわけです。

もう少し実際面においてSOASとの教育交流について考えますと、学生の交流だけでなく、我が大学の教職員との学術交流といった、目に見える成果を期待したいと思っております。このことは、限定した少数の大学と深く、意義ある、そして実りあるお付き合いをするために重要なことです。

世界市民として アジアを研究する

柳原 今、梶山総長より、教育交流だけでなく学術交流もぜひSOASを進めたいとお話がありました。

九州大学は地理的にも歴史的にもアジアに近いということから、「アジア指向」を大学の将来構想の基本に据えております。例えば、韓国研究センターは日本で唯一、韓国政府から財政的支援を受けて設立された機関でございます。この韓国研究センターを中心として、韓国研究を行っている

世界の十二大学の間で世界韓国学研究コンソーシアムが結成され、SOASもこの十二大学の一つです。また九州大学はアジア総合政策センターを二年前に作り、アジア研

究を積極的に進めております。

SOASはヨーロッパにおけるアジア・アフリカ研究の拠点であると理解しております。一方、九州大学はアジアの中からアジアを研究しています。この二つの観点から、両校の研究者がどのように連携できるか、ということ是非常に大きなポイントではないかと思っております。

この点につきましてウェブリー先生の考えをお聞かせいただければと存じます。

PW センターそのものについて

まずお話いたしましたように。私としては是非研究協力ができればと思っております。先ほど九州大学の韓国研究センターについてのご説明がありました。SOASは、五十年以上も前に英国で初めて韓国

語を教えた大学であり、ヨーロッパでも最大数かつ最高の学者陣が揃っています。例えば、韓国の音楽、芸術史、その他韓国生活全般、そして韓国言語学についての専門家を擁しています。これは一例ですが、明らかに協力が可能な分野です。

もちろんまだ他にもあります。例えば、九州大学では言語教育学、言語学を実施していらっしゃると思いますが、SOASは広く世界の言語を教える先進のセンター(COE)です。英国において他にこのようなところはなく、言語ならびに教育のメソッドに関する様々な資料を作成しております。

また次に申し上げたいのは、SOASは単にヨーロッパにある大学ではなく、たまたまロンドンに立地している世界大学であることを自負しているという点です。かつてロンドンで研究されたアジア学はおそらくヨーロッパ中心であり、ヨーロッパの視点に基づいていたものと思われませんが、現在SOASでは広く世界的な視点から



アプローチをしようとしております。SOASの言語文化学部日本・韓国学科の学科長は韓国出身ですが、これはたまたまそうなったわけではありません。アフリカ学科長もまたナイジェリア出身のアフリカ人です。ですから、SOASではヨーロッパ人がアジア文化を研究しているとは考えておりません。できる限りの広い視野のもと、世界市民としてアジアを研究しているのです。

柳原 梶山総長、この点につきまして何かコメントはございますか。

多様な文化を 多様な視点で

梶山 その前に先ず質問があります。「世界市民として」とおっしゃいましたが、実質的にはそれはどのような意味でしょうか。

PW はい。SOASは九十年前に、国外に出る英国人を教育することを目的に、英国外務省が関わって設立されました。それはヨーロッパ人がヨーロッパの外へ出て、世界を理解しようとするも

のでした。今や私どもは、英国の学生だけでなく世界中から来た学生を、世界中から来たスタッフで教育しようとしております。現在二十五パーセント強の学生がヨーロッパ以外から来ており、同程度の割合のスタッフが英国人ではありません。

世界中のより多くの学生にSOASに来てもらいたいと思っており、スタッフもまた世界中から招聘したいと思っております。グローバルな理解への新たなシフトとはこういうことであると考えております。

梶山 ありがとうございます。多様な文化をどのように理解し認識するのか、ということが非常に重要です。同じ国や地域の中で文化を研究する、例えばアメリカ史をアメリカ人が研究する方が資料も多いし有利でしょう。それではなぜヨーロッパの人や日本人がアメリカ史の研究を行うのでしょうか。

同じ文化の中での研究が中心になりますと、同質のものになりが

ちだという懸念があります。より異質な観点がないと、新しい見解や発見がありません。

そういう意味で、例えばアジア研究をアジアの中にいる日本人が研究する、そしてアジア研究をSOASのようにヨーロッパの人たちが研究すると、回答や分析が違ってくるでしょう。純粹に研究の深さを追求するのであれば、その国の中で研究を行うほうが良いのでしょうか、回答を引き出すこともとの基盤や考え方が違っていると全く違う回答が出てくる可能性があるわけ、こういうことが非常に重要であると考えております。

PW 既存のものにはない視点を探り、競合する必要があるという考えに全く同感です。私自身もまた、事実調査や研究に同質的（ホモジニアス）なアプローチを取ることは薦めません。先ほども申し上げましたように、SOASが行っているのはヨーロッパ人によるアジア研究だとは考えておりません。

SOASには、アジア関連の

テーマやものの見方を研究する非ヨーロッパ人が数多くおります。

私は歴史に関わる点も重要だと考えております。歴史の研究、例えば日本史を研究する場合には、ポルトガルの歴史も理解する必要があります。アメリカ史への理解も必要です。ポルトガル人が書いた資料、つまり彼らの航海の報告書が読めなければなりませんし、初めて日本に到着したときアメリカ人が何と言ったかを知る必要があります。内側からの視点だけでなく、こういう視点もまた必要なのです。私は、あらゆる文化において、物事を違った視点から見ることが一助になると思っています。

SOASに最も新しく建てられた研究センターは「アフリカの中のアジア」と呼ばれています。このことは非常に重要です。SOASではアジアがどのようにしてより広範なアフリカ社会と関わってきたかを理解するために、アジアとアフリカの二つの視点を繋ぐことができます。

柳原 大変興味深いお話でござい

ました。私から付け加えることは特になのですが、日本史の話が出ましたので、最近外国人が書いた日本通史が日本語に翻訳され、日本人の間で広く読まれているというところを紹介したいと思います。なぜこういうことが起きているかと言いますと、日本史の研究をしている日本人は狭い領域のことを大変深く研究し、あまりにもやりすぎるために実は全体像をあまり上手く掴めないというくらいがあります。外国人が深く研究していないと言っているわけでは決してありませんが、日本の研究者よりも広い視座でもって日本史全体を俯瞰した概説が記されています。

梶山 学問が進歩するきっかけは、「なぜ」と不思議に思うことから始まります。自分たちが常に接しているものだとついそれに慣れてしまつて「なぜ」とは思いません。しかし異文化を知り、違う国のことを詳細に勉強するようになると、色々な疑問がわき起こり、「なぜ」と考え始めます。学問的

な観点から考えますと、これにより当然新しい立場や視野、視点が見られるようになります。

PW 全く同感です。ここで教育交流が果たす役割について話を戻してよろしいでしょうか。交換留学生として外国へ行き、その国の文化を知り始めると、持っていた先入観が崩れ、翻つて自国の文化についても理解し始めます。先ほどおっしゃいましたように、「どうしてこのようなやり方をするのだろうか」と疑問を持ち、そこで初めてより自己を深く理解するようになるわけです。旅をすることです。自国の文化を大いに理解するようになるのです。

梶山 私は科学をやっている人間ですが、科学の世界で進歩するとはどういうことかといいますと、現在私どもが正しいと考えている科学の常識が間違っているかもしれない、受け入れられている科学



の常識が非常識になるかもしれない、ということとです。しかしそれは間違いなく進歩です。例

えば、皆が天動説を信じていた時代にコペルニクスが地動説を唱えました。現代科学の常識が否定される過程には必ず科学の進歩があります。文化についても同じことが言えるのではないのでしょうか。

メディアへの協力、 コミュニティへの奉仕

柳原 学問とその進歩についての貴重なご意見、有難うございました。

SOASと九州大学が異なった観点を共有し、是非様々な形で学術交流ができればと思っております。

次に、「社会との連携」という話題に移りたいと思います。

SOASは世界的に著名な人文社会科学系の大学でございますが、英国の大学では「教育」と「研究」の他に第三の使命として「社

会との連携」という活動があると伺っております。理系・工学系に比べまして、人文社会科学系の場合には産学連携活動を含む社会との連携活動があまり目立たない傾向にあると思います。そこで、SOASでは社会との連携活動、ならびに研究成果の社会への発信というところで、具体的にどのようなことをなさっておられるかを是非伺いしたいと思います。

PW 色々なことをやっております。中でも、異なった文化に対する一般の人々の理解を促す活動に焦点をあてて、様々な方法で実施しています。顕著な例を挙げますと、大学内に語学センターを開設し、正規の学生向けでない夜のクラスや土曜日のクラスを開講して、世界四十五カ国語を教えています。先ほど梶山総長が、言葉は文化を理解する道筋であるとおっしゃいましたが、我々もまさにそのような思っております。言語を基盤とした理解が大切です。

また我々はメディアとも広く関わっております。例えば日本で何か

起こったとしましょう。そうしますと英国のメディアがSOASの学者に専門家の意見を求めて、報道で出来事の背景を伝えます。このように、メディアを通じて一般の理解を深めることも大切です。あと二つほど申し上げたいことがあります。

一つは、業界の人々や大使の方々に対して、色々な国や文化や出来事についての概況を説明することです。例を挙げますと、現在スウェーデン政府と契約を結んでおりまして、スウェーデンの大使が新たな国へ任せられる度にSOASを訪れ、一日を費やして着任予定国について専門家と話をし、その国の外交問題について学問的な理解を深めます。こういったことを数多くの人々に対して行っています。

もう一つの活動は私どもが保有するブルネイ・ギャラリーに関するものです。このギャラリーでは美術・工芸品の展示を行っており、公開イベントも実施しています。ギャラリーはオープンからす

で十年経っておりまして、毎年四回、異なった展示会を開いております。これらの展示会には学校を招待し、併せて講義も行います。一般公開の講演会も開催します。こういった活動は全て、アフリカ、中東、アジアをはじめとする世界中の文化への理解を一般の人々に育むことを目的に行っています。

梶山 九州大学の社会連携については、九州大学のビジネススクールが民間企業に対して経営の指導をするということがあります。また法律相談も行っております。九州大学は総合大学であり、元々の出発は医学系と工学系でしたので、人文社会科学系に比べて歴史的にも知的財産等の蓄積が多いため、広く社会的に様々な貢献ができていいるのではと思っております。

最近の傾向として、工学系が産学連携を実施して、企業が抱える問題を解決したりしていま

す。こういったことであれば工学系だけでやれます。しかし最近はそのづくりへの感性が大変必要になっていきます。ベストな技術で作られたとしても、それが常に使いやすいとは限りません。そういう点において人文系の支援が必要になってくるのです。

また、市場の将来予測を行うのは社会科学系であり、特許権や様々な規制については法律の知識が必要です。ですから私どもとしては、理科学系工学系だけでなく人文社会科学系が一緒になることで必ずよりすぐれた社会連携が実現できると考えております。そういう意味で、理系・文系を併せ持つ総合大学の強みを生かすことができるかと自負しております。

柳原 現在、伊都キャンパスを中心にエネルギー研究が進められておりますが、その中の温暖化プロジェクトで、経済心理学者との協力が是非必要であり、SO

AS、あるいはエクセター大学との連携ができればとウェブリー先生にお申し出をされていたのを、梶山先生のお話を伺いながら今ちょうど思い出しました。

PW そうでしたね。

柳原 今梶山総長が申しましたように、理科学系との協力における人文社会科学系の活動もあるのですが、私は法学部の教授ですから、人文社会科学系独自の社会連携をいかに図っていくのかということが大きな課題であると思っております。これまでSOASの取り組み五つほどお聞かせいただきました。残念ながら九州大学にはまだギャラリーがございませんが、新キャンパスにはギャラリーができるかもしれません。

楽しいなそれぞれの博物館構想

梶山 新しいキャンパスには博物館を作ります。アートのギャラリーを作れるかは判りませんが、九州大学は二百六十万点の様々な資料を保存しております。特に蝶の収集は世界一です。そのような



資料をきちんと整理して、将来は展示したいと思います。またそれを小・中学生の教育に使えたらと考えております。

PW 二点ほどお話ししてよろしいでしょうか。

まずアートギャラリーについてです。我々は博物館の構想も持っておりまして、「SOASの秘宝」というタイトルで展示会をこの秋から開催する予定です。展示物の中には現在大英博物館に貸出し中の美しい日本の掛け軸もあります。大英博物館に貸し出しているのですからいかに素晴らしいものかお判りいただけますでしょう。これを戻してもらいます。

この展示会に出展するのは私どもの秘宝の一部ですから、展示内容をローテーションで変えたとしても、秘宝は常設展示されます。もし総長、副学長がこの秋にロンドンにお越しになることがありましたら、是非私どもの素晴らしい文化展示物をご覧いただきたいと存じます。

ところで、蝶やそれ以外のコレ

クションをお持ちだと仰いました。これは素晴らしいことです。アートの限らず、写真でも良いし、あるいは科学に関するものでも構いません。これらは全て地域社会と関わる手段です。また元々は工学系と医学系で出発したという九州大学の経緯から考えましても、他にも関わり方はあると思います。が、ギャラリーは地域社会との連携という長期的な目標を達成する効果的な方法だと思っています。ローテーションで展示内容を変えて展示することで、地域との関わりを醸成することができるのではないのでしょうか。

あともう一つ言わせてください。熱が入ってきました。

地域コミュニティのために学生が運営し、コミュニティ全体に向けて放送を流す「オープンラジオ」というラジオ局を持っています。私どもの学生はこのラジオ局をBBCワールドサービスに代わるもの、と表現しています。世界の出来事についての視点を伝えま



すが、公式見解というわけではありません。

コミュニティと関わるもう一つの活動として、毎年三週間、世界音楽フェスティバルを開催しています。世界の音楽に関する夜間と日中の講座も開講します。世界の音楽とはつまりヨーロッパ以外の音楽のことで、あらゆるテーマの講座を、非常に安い受講料で開講します。これはコミュニティへの奉仕であり、世界への理解を促す活動であると考えています。

柳原 去年十一月にSOASを訪問させていただいた時に、すぐ横にあります大英博物館も訪問致しました。

私が訪れるほんの少し前に、日本美術の展覧室が改装されました。美術作品が年代順に並べられており、大変素晴らしい展示でし

た。現代アートとして手塚治虫の作品までありました。

今のお話で、SOASのギャラリーと大英博物館の両方を訪れると日本の宝物を見ることができるといことがよく分かりました。

梶山 九州大学にはSOASほどの宝はあまりないのではないかと思うのですが、源氏物語絵の写本や、長崎から江戸に行くまでの風俗をフォン・シーボルトが絵師に描かせたものなどがあります。図書館にそういった古い本や文献があります。また博物館も多くの資料、例えば鉱石の標本を持っていますし、もともと福岡は採炭地域でしたから、石炭に関わる歴史的な資料や採掘の道具などを数多く収集しています。いつの日か、SOASの宝と九州大学の資料を交換して、展示会ができればと思っています。

PW とても良いアイデアですね。

もし九州大学の資料を私どものギャラリーに展示したいというご希望がございましたら、三ヶ月か



ら四ヶ月にわたる展示会ですから、対応は可能ですので、どうぞご一考下さい。本当に良いアイデアですよ。私は蝶の収集をお借りしたいですね。必ず気に入ると思います。

梶山 是非そうさせていただきたいですね。

自分の知性は 自分自身のために

柳原 今朝の入学式でのウェブリー学長のご挨拶の言葉は大変印象深いものでございました。是非ここで九州大学の学生へメッセージを頂戴できればと存じます。

今日のご挨拶の中で最も印象深かった言葉は、「自分にとって役に立つことを創造的に見つける」でした。これを敷衍した形でも結構ですし、あるいは違う形のメッセージも頂ければと思います。PW もちろんです。その言葉は

これまで話してきたこと、つまり「物事を当たり前と思うな。自分の知覚に疑念を持って」といった考えに関わるものですね。自分の見方を疑ってみると、他者や他文化を理解するための努力ができるようになります。そして、そのような理解を通じて、違うことへの寛容と、相互尊重の精神を身につけます。単に現代文化について語るのではなく、個々人の認容性を育むものですが、認容とは受身の言葉です。「あなたを認めます」ということを示唆しますが、「あなたを尊重します」と同じではありません。大学教育を通じて、単なる相互認容でなく、相互尊重の精神を培うことが大変重要であると私は思っています。

二つ目のポイントは前にお話していたこと、つまり自分の知性は自分自身のために使わなければならない

らない、ということですが。人は十分には知性を自分自身のために利用しません。自分のために利用すれば、自分自身や自分の人生、そして解決しなければならぬ自分の問題をより良く理解できるようになります。そして、先程ご指摘の言葉の中にあるように、「自分の役に立つ」という観点から解決策を探そうとします。

ですから、素材や張力といったようなものを扱うことに非常に長けている九州大学工学部の学生たちも、問題解決の手法において用いる技術者ならではの素晴らしい知性を自分自身の人生にも振り向け、自分の人生における問題をどのようにしたら解決できるかを考えてみる必要があります。そうすることで、最終的には自分自身の役に立つ解決策や問題解決手法を見つけることができると思います。

柳原 梶山総長、最後にコメントをお願いします。

梶山 若い人たち、特に学生は身の回りに起こることに興味を持つ

てもらいたいと思います。そして起こっていることが本当に正しいのかと疑問に思う、例えば自然の変化がなぜ起こるのかを自問し、それに必ず自分自身で回答を出すことが必要です。そのような練習や訓練を継続して行うことが非常に重要だと私は思います。私はそういうことを身につけた学生になってほしいと思っています。

柳原 本日は長時間にわたり大変示唆に富む対談をしていただきました。有難うございました。

ポール・ウェブリー氏
プロフィール

Paul Webley

一九七九年ロンドンスクール・オブ・エコノミクス社会心理学卒業。一九八一年社会心理学の博士号取得。一九八〇年から一九九八年までエクセター大学経済心理学助教授。一九九三年からエクセター大学心理学科長、一九九八年からエクセター大学心理学部長を歴任し、二〇〇三年エクセター大学副学長。二〇〇三年から二〇〇六年までノルウェーのアグダー大学経営学部客員教授を務めた後、二〇〇六年八月から現職。

創立九十六周年 開学記念講演会・式典

中村哲氏、

川原尚行氏が開学記念講演

平成十九年五月九日（水）、「九州

大学創立九十六周年 開学記念講演会」がアクリス福岡（福岡市中央区天神）で開催され、「真の意味で社会貢献、国際貢献活動を行っている二人の九州大学OB」（梶山総長）である、ペシヤワール会現地代表の中村哲氏（写真中）、NPO法人口シナンテス理事長の川原尚行氏（写真下）が講演して、市民など約九百人の聴衆に感銘を与えました。

中村氏は、パキスタン北西辺境州とアフガニスタンで携わった患者診療や食料援助、今年四月に第一期工事が最終地点に到達した灌漑事業など二十三年間の歩みを紹介。最後に、

「現地で活動する中で、金さえあれば、武力さえあればよくなるという思いこみから自由になれること、日本にとつて本当に大事なものの、無くてもいいものは何かを学びました」と結びました。

川原氏は、外務省医務官を辞めてアフリカ・スーダンでの医療援助活動に携わるようになった経緯と現状を報告。「微力な自分ですが高校の後輩など多くの方々の支援でこまめが続けることができました。中村先生に少しでも近づけるようこれからも情熱を傾けていきたい。応援をよろしく願います」と述べました。

講演の後、聴衆からの質問をもとにディスカッションが行われました。「医療・国際協力で日本の役割は」との質問に、中村氏は「国内にも困っている所はたくさんある。日本がまず自国を医療福祉国家として世

界に示すことも意味がある」と答え、川原氏は「日本は海外に箱（建物）を造って援助とするが、いかに魂を入れるかが大事。グローバル・スタンダードが言われるが、世界の各所に独自の価値があり、それを理解できる日本人だから果たせる役割がある」と述べました。

この講演会の司会は近藤由佳さん（放送研究会）、ディスカッションの進行はガラプスピアルディニさん（インドネシア国籍）の、二人の二十一世紀プログラム学生が務めました。

開学記念式典

平成十九年五月十一日（金）、九州大学箱崎キャンパス「創立五十周年記念講堂大講堂」において開学記念式典が執り行われました。

・九大フィルハーモニーオーケストラ
演奏

・総長挨拶

・感謝状贈呈

・名誉教授称号記授与

・研究・産学官連携活動表彰

・九州大学C&C総長賞表彰及び発表

会

・ロバートファン・アントレプレナー

シップ・プログラム発表会

・（財）九州大学後援会助成金授与式及

び助成事業発表会

・応援団演奏

筑紫地区キャンパス 開放



科学実験をする小学生

平成十九年五月十九日（土）に筑紫地区キャンパス開放が行われました。来訪者約六〇〇名、五月晴れの天候の下、新緑鮮やかな筑紫キャンパスでのピクニックがてらの家族連れも多かったようです。小学生レベルでも参加できる実演も多く、青少年の理系離れの防止に少しは役に立ったのでは。一方、大学院受験案内コーナーも設けており、こちらでは学部生の真剣な眼差しと熱心な質問が印象的でした。

結城文部科学事務次官が来学

平成十九年五月十五日（火）と十六日（水）、結城章夫文部科学事務次官が九州大学を訪問し、講演を行うとともに、伊都キャンパスなどを視察しました。

十五日には、梶山総長はじめ、理事、

部局長を対象に『国立大学システム』の充実・強化を目指して」と題して講演を行いました。講演では国立大学の法人化後の動きと課題、「国立大学システム」の最適化と将来ビジョンの検討、安倍内閣の発足と「教育再生会議」の動向、教育基本法の改正と「教育振興基本計画」への期待などについて最新の動向を交えながら説明がありました。最後に、「日本を代表する基幹大学として世界を相手に競争してもらいたい」、「アジア学長会議」の開催などアジアに

近い地理的好条件を活かした良い取り組みがなされている。今後もアジアの窓口として活動を拡げていってもらいたい」と本学への期待を述べました。

十六日は、平成十七年に誕生した伊都キャンパスを訪れ、有川節夫理事からの新キャンパスの概要説明後、佐々木一成教授の説明のもと、水素利用技術研究センター、熱工学実験室を視察しました。引き続き、新海征治教授、佐田和巳准教授の説明のもと未来化学創造センターを訪問しました。世界トップクラスの研究がなされている新しい研究施設を熱心に見入っていました。午後には再開

が進む病院地区を訪れ、二〇〇六年度にグッドデザイン特別賞を受賞した小児医療センターなどの視察を行いました。

伊都キャンパスを訪れ、有川節夫理事からの新キャンパスの概要説明後、佐々木一成教授の説明のもと、水素利用技術研究センター、熱工学実験室を視察しました。引き続き、新海征治教授、佐田和巳准教授の説明のもと未来化学創造センターを訪問しました。世界トップクラスの研究がなされている新しい研究施設を熱心に見入っていました。午後には再開

が進む病院地区を訪れ、二〇〇六年度にグッドデザイン特別賞を受賞した小児医療センターなどの視察を行いました。

伊都キャンパスを訪れ、有川節夫理事からの新キャンパスの概要説明後、佐々木一成教授の説明のもと、水素利用技術研究センター、熱工学実験室を視察しました。引き続き、新海征治教授、佐田和巳准教授の説明のもと未来化学創造センターを訪問しました。世界トップクラスの研究がなされている新しい研究施設を熱心に見入っていました。午後には再開



『国立大学システム』の充実・強化を目指して」と題して行われた講演会



伊都キャンパスを視察する結城事務次官（右から3人目）

「産業技術数理研究センター」キックオフ

平成十九年四月一日に産業技術数理研究センターが設置され、五月十五日に産官学からの多数の参加のもと、キックオフミーティング『第一部…開所式、第二部…ワークショップ』が開催されました。

第一部では、梶山総長から中尾充宏センター長へセンターの看板が贈呈され、中尾センター長からは「視野を広く持ち産業界に貢献できる、有為な数理的人材育成に努めたい」との挨拶がありました。引き続き、桑原輝隆文部科学省科学技術政策研究所総務研究官からは、「わが国において数学の産業界への直接的応用に専念する組織が誕生したこと意義は大きい」との祝辞があり、さらにNTT情報プラットフォーム研究所の岡本龍明氏の基調講演「未来を拓く暗号技術」がありました。

第一部では、梶山総長から中尾充宏センター長へセンターの看板が贈呈され、中尾センター長からは「視野を広く持ち産業界に貢献できる、有為な数理的人材育成に努めたい」との挨拶がありました。引き続き、桑原輝隆文部科学省科学技術政策研究所総務研究官からは、「わが国において数学の産業界への直接的応用に専念する組織が誕生したこと意義は大きい」との祝辞があり、さらにNTT情報プラットフォーム研究所の岡本龍明氏の基調講演「未来を拓く暗号技術」がありました。

第一部では、梶山総長から中尾充宏センター長へセンターの看板が贈呈され、中尾センター長からは「視野を広く持ち産業界に貢献できる、有為な数理的人材育成に努めたい」との挨拶がありました。引き続き、桑原輝隆文部科学省科学技術政策研究所総務研究官からは、「わが国において数学の産業界への直接的応用に専念する組織が誕生したこと意義は大きい」との祝辞があり、さらにNTT情報プラットフォーム研究所の岡本龍明氏の基調講演「未来を拓く暗号技術」がありました。



直筆の看板を中尾センター長に贈呈する梶山総長



パネルディスカッション

UCLAと協定締結

平成十九年五月三十一日（木）、カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）と九州大学の大学間学術交流協定の調印式が、貴賓室で行われました。この協定は、カリフォルニア州が二十〜三十年後を見越した技術革新の基盤構築のためにカリフォルニア大学に設置した四つの機構の一つCNSI（California Nano-Systems Institute）が、本学工学研究院の応用化学部門に連携を打診してきたのが発端です。CNSIのDirectorであるDr.Stoddartと応用化学部門の新海征治教授（ともに世界的に著名な研究者）の親交も本協定の実現の要因の一つとなっています。

よって今回は、大学間交流に加えて、CNSIと応用化学部門との部門間交流協定も同時に調印・締結されました。両者は早速平成二十年一月に、UCLAでのシンポジウム開催を計画しています。

式への出席者は、UCLAのNorman Abrams Acting ChancellorとCNSIのDr.Stoddartの署名を携えたCNSIのDr.D.Lundberg（Director of International Strategic Alliances）、梶山総長、柳原理事、小寺山理事、今坂応用化学部門長・教授、君塚応用化学部門教授、そして今回の協定締結のコーディネートを行った九大カリフォルニアオフィスの松尾所長でした。

調印後のコメント

梶山総長

すばらしい実績を有するUCLAとの協定に大きな期待を寄せている。連携のさきがけとなるナノテク分野の交流では、CNSIは西海岸から東海岸に至る米国の、応用化学部門は日本のネットワークの窓口となって連携を広げることが期待できる。

Dr.Lundberg

CNSIはナノテク分野の世界の中心となることを目指しており、日本のトップの一つである九州大学応用化学部門との協定締結は喜ばしく、これからの展開に大いに期待している。これは双方平等な協定であり、お互いに「ありがとう」と言える関係を築いていきたい。

梶山総長へ

マサチューセッツ大学から「名誉博士号」

平成十九年五月二十五日（金）に開かれたアメリカ合衆国のマサチューセッツ大学卒業式において、梶山千里総長は、マサチューセッツ大学における研究教育に多大な貢献をし、さらに世界の高分子工学の発展に大いに寄与したとして、同大学から名誉博士号（科学）を授与されました。

「貢献をしてきたこと」などが紹介され、会場を埋め尽くしたマサチューセッツ大学卒業生から盛大な拍手で祝福されました。

また、これに先立つ四月十一日、梶山千里総長は母校である同大学の同窓会から「二〇〇七特別同窓会賞」を贈られました。「特別同窓会賞」は、世界で際立った活躍をしている同窓生を表彰するもので、今年は梶山総長を含め計六人が受賞しました。梶山総長は昭和四十四年五月にマサチューセッツ大学の高分子工学科博士課程を修了し、同年六月から約一年半の間、同大学高分子工学科研究員として在籍しました。

名誉博士号を授与される際に、

「世界で最も際立った高分子化学者の一人であり、日本のみならず世界の数々の賞を受賞してきたこと」また、「これまで八〇〇近い論文を執筆し、一五〇以上の刊行物に寄稿するなど意欲的な研究活動を行い、アメリカと日本の研究交流に大きな貢献をしてきたこと」

さらには、「日本において九州大学総長、国立大学協会副会長として教育研究活動に幅広く



マイクロソフト社と全学包括ライセンス契約

本学は、平成十九年四月にマイクロソフト社と包括ライセンス契約を締結しました。これは、情報基盤強化、ソフトウェア資産管理の効率化、学生の情報教育環境の充実を図るという戦略的IT投資です。

常に最新のソフトが利用できます

今回の契約によりPCのOSについてはWindows VistaやWindows XP Professionalへアップグレードができます。オフィス製品はOffice 2007やOffice 2003およびMac用Office 2004が利用できます。英語版や多国語版もOKです。

学生・教職員に使用権があります

大学が所有するPC(買取レンタル)全てにインストールできます。この契約はPC台数に制限はなく、大学在籍(職)する学生・教職員に使用権が与えられています。

自宅のPCにインストールできます

学生は個人のPC一台にインストールできます。教職員も自宅で仕事を目的であれば、自宅PC一台に限り

インストールできます。なお、あくまでも使用権はご自身であることに注意してください。

インストールの方法

学内オンラインインストールサイト(<http://www.cc.kyushu-u.ac.jp/ies/>)を開設しております。ソフトウェア一覧から必要なものを選んでインストールしてください。

ソフトウェア経費の負担

学生分については無料(大学の共通経費で負担)です。教職員分については、部局で負担していただくこととなります。

包括ライセンス契約の効果

昨年度まで支払っていた、平均ソフトウェア経費に比べ年間二〜三千万円のコスト削減が図られます。

今回の包括契約で、全学生約一万八千名、全教職員約七千名を対象とした全学的なソフトウェアの整備ができました。これにより、組織的なコンプライアンス対策、学生サービスの向上、ソフトウェアの標準化・流通化が促進できます。

皆様方のご協力をいただき、ソフトウェアの活用をお願いします。

情報統括本部ソフトウェア事業室(情報システム部情報企画課)
〇九二・六四二・二二〇一

全国初の大学ブランドグッズ・シンポジウム開催

平成十九年五月十九日(土)。シンポジウム「すごい!大学ブランドグッズ」が五十周年記念講堂で開催されました。これは、農学研究院の環境科学系の若手研究者有志が企画したものです。大学ブランドグッズに関するシンポジウムは全国で初めてで、全国の大学関係者や市民ら、二四〇名が集まりました。

当日は、耕作放棄地を活用した九大ビーフ(現在開発中)の他、新潟

大学の日本酒や島根大学の芋焼酎、東京大学のブランドグッズ戦略などの事例報告が行われ、ブランドグッズに関する研究・教育の内容及販売実績、その意義や多面的な効果などが語られました。

九州大吟醸の報告では、理学部四年の立木祐弥君と農学部二年の堀下美穂さんが、米づくりや酒造りの体験談、感想を発表し、参加者から大きな拍手を得ていました。

後半のパネルディスカッションでは、まず、九大財本部の深見克哉氏が、全国の大学ブランドグッズの特徴を「研究成果型」「教育型」「地域特性型」「シーズ型」「問題提起型」

に類型化して、議論がスタート。製品開発の経緯、販売にあたっての失敗や苦労話が共有されました。最後には、フロアからの「研究成果や技術を社会に還元するという視点がないグッズも多いのでは」というコメントを受け、大学のブランド戦略とブランドグッズの関係性・整合性、大学のブランドグッズはどうあるべきか、という点にまで議論が深まりました。

その中で農学研究院後藤貴文准教授の「大学ブランドグッズには哲学が必要。大学は正義を語れる」という発言が、特に印象的でした。

会場のロビーでは、各大学のブランドグッズが展示即売されました。また、昼の休憩時には、九大ビーフの試食も行われ、「おいしい!」「あつさりしていて、いくらでも食べられる!」と大好評でした。



NHKの現場スタッフが講師に

九州大学高等教育開発推進センターとNHK福岡放送局は、全学教育科目として、NHKの職員が講師となり、デジタル時代を迎えたテレビ放送の最新事情や公共放送の役割、放送現場の専門的な仕事内容などを解説する授業『事実を捉えるーNHK福岡放送局との連携授業ー』を設けることになりました。

この授業は、地域との連携を深めたい九州大学と、地域に根ざした公共放送として放送以外の場でも積極的に地域貢献を果たしていきたいというNHK福岡放送局の思いが一致して、開設されるものです。

平成十九年五月二十九日（火）、六本



松キャンパスで梶山総長（写真中央）立ち会いのもと、淵田吉男高等教育開発推進センター長（写真右）と三浦元NHK福岡放送局長（写真左）が覚書に調印しました。

調印式で梶山総長は「非常に魅力的で充実した授業内容で、学生にとって非常にエキサイティングなもの。この授業が学生にとって貴重な社会との接点になることを願う」と期待を述べました。また、三浦局長は「NHKはラジオ放送を開始して八十二年、テレビ放送では五十四年の歴史をもっている。これまで培ってきた世界レベルの放送ノウハウを、日本の中核的な教育拠点である九州大学で若い人に伝えることができるのは大変光栄に思っている。アナウンサー、記者、カメラマンなど様々な現場スタッフを講師として準備している。講師は皆やる気に満ちています」と語りました。

この連携授業は、全学部の学生を対象に、平成十九年度後期科目として十月から実施し、修了した学生には全学教育科目の二単位が与えられます。長野剛准教授を科目責任者とし、毎回NHK福岡放送局の様々な現場で働く職員が講師として登壇します。

強盗に「止めろ！」

平成十九年六月二〇日（水）、本学学生表彰規程に基づき、学生表彰が行われました。表彰を受けたのは、法学部三年の藤本悠太さんです。

藤本さんは、平成十九年四月、太宰府市内のコンビニエンスストアに押し入ろうとした犯人を阻止し、強盗事件の発生を未然に防止したもので、この功績に対しては、五月二十五日、福岡県筑紫野警察署長から感謝状が贈呈されています。

このような藤本さんの勇気ある行為をたたえ、また、本学の名誉を著しく高めたことにより、総長から表彰状が授与されました。



（左から）山田理事、梶山総長、藤本さん、笠原准教授

相次ぐ企業トップの伊都キャンパス視察

中村昇京セラ会長

平成十九年七月三日（火）、中村昇京セラ会長が伊都キャンパスを訪れました。有川理事からキャンパスの概要について説明を受けた後、世界最先端の研究がなされている水素利用技術研究センターや世界最大規模の超高压電子顕微鏡を視察しました。様々な研究施設がアクセス良く配置され、効率よく研究が進んでいるキャンパスに感銘を受けた様子でした。



前田東レ名誉会長

平成十九年七月五日（木）、九州大学学術研究都市構想促進東京会議議長である前田勝之助東レ名誉会長が伊都キャンパスを訪れ、世界最高水準の性能を誇る超高压電子顕微鏡、水素材料先端科学研究センター、そして未来化学創造センターを視察しました。三年前に建設途上の伊都キャンパスを視察した時とは大きく変わったキャンパスの姿に驚いていました。



七タコンサート開催

——第二十二回九州大学病院コンサート——

平成十九年七月六日（金）、九州大学病院北棟二階多目的大ホールで、七タコンサートを開催しました。二十二回目を迎えた今回は、手話で振りつけた耳鼻咽喉科看護師によるコーラスや、検査部と保健学科の職員を含むブラスアンサンブルが、「こんにちは 赤ちゃん」等、たくさんの人に親しみがある「中村八大ヒット曲メドレー」を華やかに演奏しました。

看護師や主治医に付き添われた方、車椅子に乗った方等およそ二五〇人の患者さんとご家族が来場し、プログラム最後のゴスペル詠唱では、熱のこもった歌に舞台の上も観客も胸がいっぱいになり涙ぐむ一幕もありました。

この病院コンサートは、入院治療のため自宅で七タを迎えられない患者さんとご家族のために、病院患者サービス委員会と有志の運営委員会が中心になって企画しており、年末のクリスマスとあわせて年二回開催しています。

福岡ウィンドアンサンブルの演奏

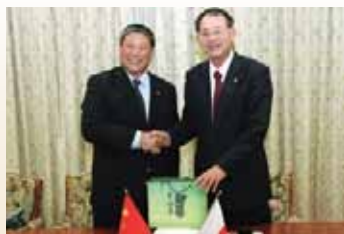


インドネシア・ハサヌデイン大学副学長



平成十九年四月六日（金）、ドゥワアリスティナプルプン ハサヌデイン大学副学長が、柳原理事（国際交流・留学生担当）と懇談しました。ティナ副学長は、来日の折、本学を訪れたもので、今後の学術交流等について意見交換が行われました。また、表敬訪問終了後、国際協力銀行の支援事業に関する意見交換のため、工学研究院を訪問しました。

中国人民大學学長



平成十九年四月十九日（木）、紀宝成中国人民大學学長が、梶山総長を表敬訪問しました。紀学長は、来日の折、大学間交流協定締結校である本学を訪れたもので、今後の研究者交流や学生交流の推進に向けて、活発な意見交換が行われました。また、翌二十日（金）には、理学研究院並びに農学研究院を訪問し、学部間の学術交流等についても懇談しました。

駐福岡大韓民国総領事



平成十九年四月三日（火）、駐福岡大韓民国総領事館の金賢明総領事が、梶山総長を表敬訪問しました。金総領事は、総領事就任に際し本学を訪問したもので、大韓民国との学術交流や学生交流など一層の交流推進に向けて幅広く意見交換が行われました。なお、表敬訪問終了後は韓国研究センターを視察しました。

サークル紹介

二つの茶道部

茶道には多くの流派があり、九州大学においても表千家と裏千家という二つの部活が活動しています。お点前において細かな違いはありますが、流派間に大きな差はなくお互いのお茶会等にはよく招待しあうものです。

我々表千家茶道部は週に一度、中央区舞鶴の大長寺にて河東正子先生のもとお稽古に励んでいます。先生の温かいご指導から作法のみならず、礼儀や古人の知恵などたくさんの方々のことを学んでいます。本企画を通じて多くの学生やご家族の方々が、日本独自の文化を継承した茶道の魅力について知っていただけたら幸いです。

（表千家茶道部部长 芸術工学府 修士課程一年 松井大佑）



東京オフィスから

日本一流企業四千社の本社薙めく、江戸城丸の内。

ここに、九大藩丸の内砦が築かれ、四年の歳月が流れる。来場者は延べ三千人を優に超えた。

来場者多数の内、記憶に残る怪しき家臣二名あり。

一、就活学生の青年家臣一名。来るなり「銭湯はないか」とのこと、銀座湯を教える。沐浴し、面接試験に臨むも、その結果は不明なり。

一、傘寿御老体の旧家臣一名。首に黄金メダルをぶら下げて来たる。「水練の合戦で勝利した」と誇らしげであった。九大藩の家臣団、人生様々なるも、丸の内砦は先客万歳、千客万来なり。

（東京オフィス 西山霜紀）



〒100-0005

東京都千代田区丸の内2丁目2番3号
丸の内仲通りビル7階713号

TEL：03-3211-8825

FAX：03-5224-3357

開館時間：平日10：00～17：00

（上記の時間帯に職員が常駐しています。）

同窓会の話題

農学部「うまいもん同窓会」

平成十九年六月二日（土）、九州大学国際ホールで、農学部同窓会の平成十八年度定期総会が開催されました。会員総数は、平成十九年五月現在で一万六千人に達し、総会には例年、百名ほどが集います。総会では、事業や会計報告、及び次年度の計画や予算を審議しています。総会には、国内十六支部、北京、韓国、台中、ヴェトナム、タイおよびバングラディッシュの海外六支部から代表が集まり活動報告を行います。さらに留学生への奨学金授与式なども行われます。

ヴェトナム支部の報告



「うまいもん同窓会」

従来、総会後、特別講演会および懇親会を行ってきました。しかし、開催日が土曜日であり、キャンパスが閑散として大学の顔が見えない、若い人は懇親会に参加しづらいといった問題が出てきました。また、機構改革で従来の組織との対応が理解しづらい、個人情報保護法の解釈や教員の異動など、同窓会活動のあり方にも難しい面が現れて来しました。そこで、新たな試みとして「うまいもん同窓会」を企画しました。同日、農学部一号館と中央図書館との間の道路にテントを張り、現役の学生が中心となって出店し、飲み物や食事を共に楽しみました。その結果、世代間を越えた交流や地域との接点も探ることができました。



OBからのお便り

田代英雄名誉教授（元歯学部長）から

南の島で 出会った 九大卒業生

パラオにて井上研一氏



この二月、少し暖かいところにとあって、パラオに行ってきました。海が大変きれいで、快適なところでした。運が良いことに、数日前から、マジカルメドゥーカンパニーが最新のグラスボートのクルージングを始めていました。総支配人の井上研一氏は、九大工学部航空学科を昭和四十九年に卒業し、日本航空に居られた方でした。このグラスボートは太平洋地域で初就航ということで、航空機と同じ材料で造られ、船底ガラスの直径は三メートルもあり、海に浮いた大きな窓つきの航空機の感でした。ロシア製で、ハンブルグ、香港を経由して運んだそうです。勿論海中の眺めは素晴らしい機材に目をつけ、はるばる輸送を図った井上氏に航空学科出身らしさを感じ、九大の卒業生であることを嬉しく思いました。

九大人が伝える

進化文化子
文化子

シリーズ九大人
インタビュー

「聞き手」竹本 京司（広報係長）



水素利用技術研究センター特任教授

ジャンマルク オリブ

Jean-Marc OLIVE

フランス人のジャン・マルク・オリブ氏はフランスの科学者。二度目の来日となる今回は、「水素材料先端科学研究センター」（通称HYDROGENUS センター長・村上敬宜九州大学副学長）のプロジェクト参加が目的です。

HYDROGENUSは、平成十八年七月に産業技術総合研究所（吉川弘之理事長）が九州大学との連携により伊都キャンパスに設置した世界最大規模の水素材料研究拠点。国内外の専門家が集い、水素社会到来に向けた研究開発を推進しています。

日仏の研究手法の違いや福岡での暮らしぶりについてうかがいました。

ジャンマルクオリブ氏
プロフィール

Jean-Marc OLIVE

一九八九年…ボルドー第一大学修士号（機械工学）
一九九二年…ボルドー第一大学博士号（機械工学）
一九九二年…CNRS（フランス国立科学研究中心）にて研究者として活躍
一九九四年…東京理科大学 客員教授
一九九五～一九九六年…リーハイ大学（米国）客員教授
二〇〇二年…ボルドー第一大学教授（研究責任者）

刺激的で可能性に満ちたプロジェクト

― まず、フランスでの所属機関と研究分野を教えてください。

オリブ氏（以下JO） フランスでは、国の科学研究機関であるフランス国立科学研究センター（CNRS）に所属しています。ヨーロッパでも最大の公的研究機関です。二万二千名が業務を任せられており、うち一万二千名が研究者で、様々な異なった分野における研究に従事しています。CNRSはフランス全土に数多くの研究所を擁し、色々な大学と提携をしています。以前私はCNRSに所属するボルドーの研究所およびボルドー第一大学で働いておりました。

私は、環境効果における材料物質の機械的反応作用関連チャートに取り込んでおります。中でも専門とする研究内容は、ナノスケール（十億分の一メートル）単位で固体表面を調べることで、これは航空宇宙産業や原子力産業に数多く応用できる高度な研究です。こ

こから得られるデータは、これらの産業における潜在的な問題の予見に役に立っています。

― 何がきっかけで日本に来られたのですか。

JO 日本に参りましたのは今回が初めてではありません。東京理科大学の井形直弘教授のお招きで一九九四年に初めて来日しまして、その時二か月間滞在しました。日本の皆さんや研究仲間、学生の方々から多くを学び、楽しく過ごしました。井形直弘教授、そして先生の教え子の皆さんとご一緒した時間もまた素晴らしいものでした。今でも大変良い思い出です。二か月が経ち、できればまた十年後に日本に戻って来よう、と自分に誓いました。最初の来日から今が丁度十年目というわけではありませんが、少なくともまた戻って来るという自分との約束は果たせました。これが、私がまた日本に戻ってきた第一の理由です。

第二の理由は、昨年からスター

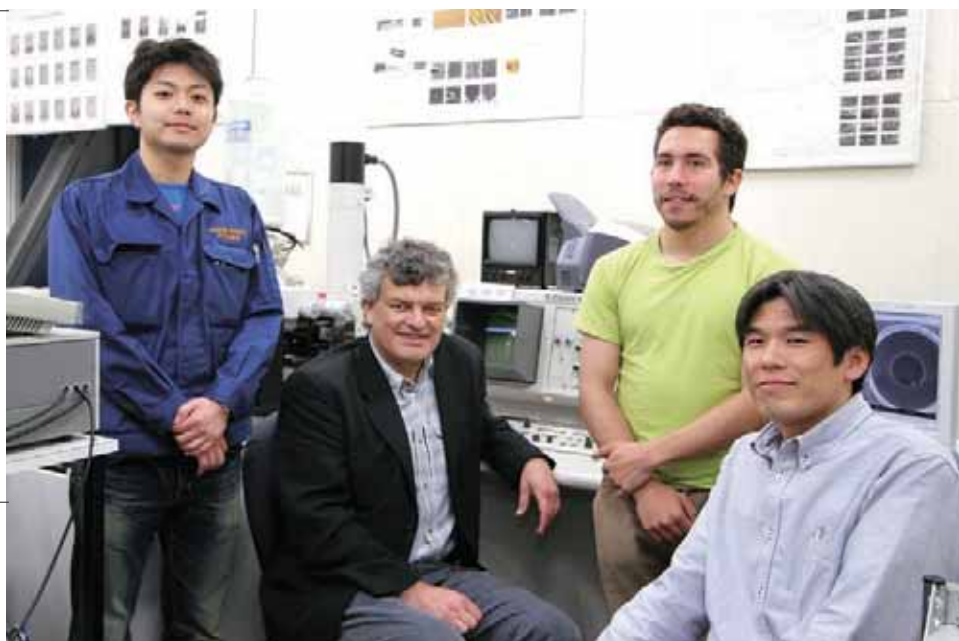
トした水素材料先端科学研究センター（HYDROGENIUS）のプロジェクトに参加するためです。このプロジェクトは刺激的で可能性に満ちており、大変興味をそそるものだと思います。村上敬宜教授からご招聘を受けたことは光栄ですし、日本に戻ってこの大きなプロジェクトに貢献できるというまたとないチャンスだと思っております。まさに絶好のタイミングでした。

― フランスと日本の研究方法に違いはありますか。

JO 難しい質問ですね――。例えばこの水素材料先端科学研究センター（HYDROGENIUS）のプロジェクトも、研究手法の違いを示す一例として興味深いものでしょう。こちらでは全ての施設と知識を一つの場所に集約しようとしています。その結果、施設や情報へのアクセスがフランスよりも容易です。そのため短時間で数多くの結果を出すことができますし、より多くの人がこの分野

での研究をさらに強化・統合できるので、おそらくフランスより多くの研究成果を出すことができると思います。

もう一つの違いは、日本の学生の研究への関わり方のレベルでしょう。例えば私の研究室にも修士課程の学生がいますが、フランスの学生よりも早い時点で研究に関わり、非常に熱心に成果を出す



コラバ精密測定室にて

うとします。こういったところが違いでしょか。

日本とその奥深さに触れる

― ちよつと話題を変えたいと思います。福岡の食べ物や文化的な環境はいかがでしょうか。何かお好きな食べ物がありますか。

JO 和食は好きですね。和食の人氣はますます高くなっていますからフランスでも食べられますよ。私は毎月、ボルドーにある和食の店で家族と一緒に食事をしていました。九州には妻と九歳の息子と参りましたが、家族にとって初めての日本なのでちよつと大変だったと思います。でも九州大学でとても温かい歓迎を受けて、本当に嬉しく思いました。アメリカには一年間滞在したことがありますがし、他にもたくさんの方に国に行きました。こちらの歓迎は本当に格別です。

私どもに対して優しく親切に、そしていつも手を差し伸べてくださる村上先生、九州大学の同僚や

「産業技術総合研究所」の皆さんには心よりお礼を申し上げたいと思います。お陰様で九州に馴染むことができましたし、大学生活と近隣との付き合いの両方をとっても満喫しています。私どもはマンションに住んでおりまして、妻にはすでに沢山の日本の友人がおります。日本の皆さんとの付き合いはい、そして日本文化との触れ合いは素晴らしいものです。これまで福岡や唐津、日田、長崎で行われた文化行事にも参加しました。しかし日本文化は奥が深く、まだまだ知らないことが沢山ありますので、一年といわずもう少し長く、二年間は滞在するつもりであります。

― 相撲はご覧になったことがありますか。十一月には福岡で九州場所が開催されますよ。



聞き手：竹本広報係長

JO テレビで見たことがあります。九州場所にはぜひ行ってみたいですね。相撲は興味深いスポーツですし、日本文化独特のものですから。

― 村上先生にそうおっしゃってみてください。きつと連れて行ってくれますよ。

JO そうしてみます。

現代性と伝統性を融合する 日本スタイルを 大切に

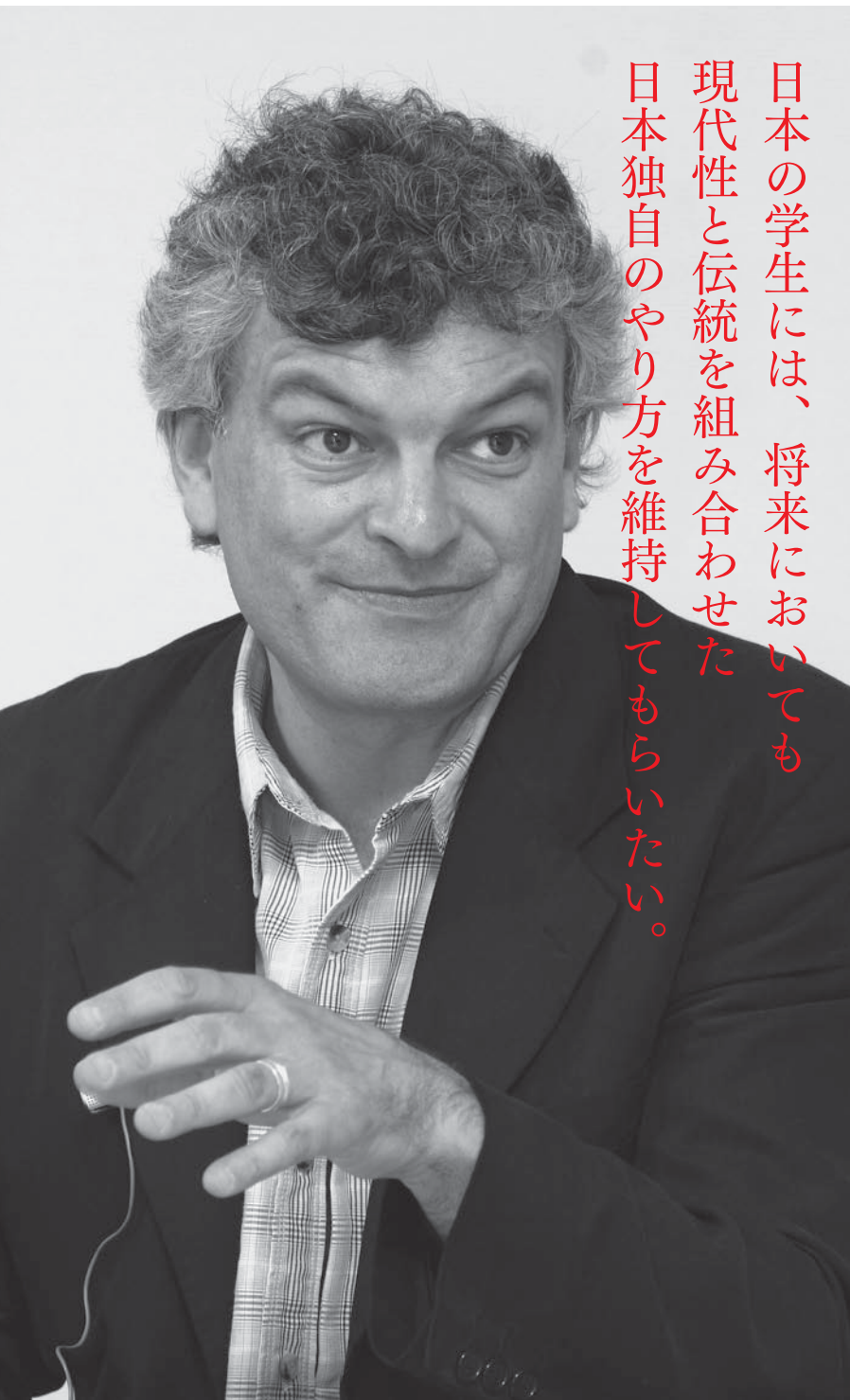
― 九州大学の学生へメッセージもしくはアドバイスを頂戴できますか。

JO 九州大学に着任して以来、学生たちが協力して研究を進める姿をずっと目の当たりにしてきました。これは村上先生のチーム特

有のことなのかも知れませんが、常に一緒に研究し、学部生から修士、博士課程に至るまで、互いに切磋琢磨する姿を見ております。学生同士でアイデアや知識を共有しているのですが、これは非常に興味深く、今後もこのような形で研究を続けてほしいし、お互いに緊密に協力するというやり方を失わないでもらいたいと思います。

特に村上先生の研究室と一緒に研究する学生たちについて言えば、皆勤勉で、学習能力が高く、その結果良い成績を出しています。この調子でぜひ頑張ってもらいたいと思っています。広く日本の学生全体について申し上げるならば、将来においても世界に名だたる、現代性と伝統を組み合わせた日本独自のやり方を維持してもらいたいと思います。また、家庭生活と研究生活とのバランスもうまく保ってほしいですね。

― ボルドー大学と九州大学の関係は非常に深く、交流協定は一九八一年に締結されています。



日本の学生には、将来においても
現代性と伝統を組み合わせた
日本独自のやり方を維持してもらいたい。

昨年は、私どもの総長がボルドー大学を訪問しました。その折には広報室のスタッフも一名同行しております。

このような絆を今後さらに深めて行きたいものです。

JO 九州大学とボルドー大学が交流協定を締結したことを私は大変嬉しく思っています。現在私はボルドー大学に対して、村上先生

が進めておられる新たなCOEプログラムに参加するよう話を持ちかけています。より具体的には、どのような形で研究成果をまとめることができるかという点についてボルドー大学と話し合いを進めているところです。

ご存じのように三名のフランス人学生が九州大学に留学中もしくは留学予定になっておりまして、

エコール・ポリテクニクからの留学生が一名、すでにこちらで学んでおります。ボルドー大学からは学生二名が九州大学から奨学金をもらって、六月の初めから九月までの期間留学をしています。このような学生交流は協力レベルを向上させる鍵となると思いますし、すでに将来有望なプログラムがスタートしています。

ー ありがとうございます。オリブ先生、ぜひ長期にわたって九州大学に滞在してください。

JO こちらこそ、ありがとうございました。

九大人が伝える

進化文化
文化子

シリーズ九大人
インタビュー

「聞き手」白杵 純一（広報室長）



事務局長

早田 憲治

はやた
けんじ

早田事務局長は、平成十三（二〇〇一）年四月着任。それからの六年三ヶ月は、九州芸術工科大学との統合、国立大学法人化、伊都キャンパス誕生、百周年記念年事スタートと、九州大学がかつてない大きな変革を経験した時期でもあります。その間、九州大学の事務組織を統括する立場で大変革の推進を支えてきた早田事務局長に、平成十九年七月一日付けの（社）国立大学協会常務理事就任を前に聞きました。

（このインタビューは、平成十九年六月二十二日、事務局長室で行われました。）

「法人化前後の九州大学の動き」

平成十三年四月

早田事務局長着任

平成十五年四月

システム生命科学府、

先端物質化学研究所設置

平成十五年十月

九州芸術工科大学との統合

九州大学病院誕生

（医学部・歯学部・生体防御医学研究所附属病院の統合）

平成十六年四月

国立大学法人化

平成十七年十月

伊都キャンパス誕生

平成十九年

百周年に向けた記念事業策定・学

内募金開始

九州大学の法人化をどう評価するか

― 着任時の「すでに国立大学の舵は親方日の丸とは反対の方向に切られている」(九大広報第十八号)という言葉が印象に残ります。

国立大学法人化の意味について、改めてお聞かせください。

早田 国立大学の果たすべき役割についての社会の期待、見方が変わりつつある状況が背景にありました。「象牙の塔」という言葉がよく使われましたが、大学が大学の中に閉じこもってマイペースで教育研究をしていればいい時代ではなくなっており、もっと具体的な形で社会に貢献してほしいという声が高まっていました。この期待やニーズに的確に応えるための新しい大学のあり方が求められたのです。

従来の国立大学は文部省の附属機関で、教職員は国家公務員。会計規則なども含めて一般の行政組織のルールを適用して運営されていました。大学は行政機関ではあ

りません。大学という組織に合ったルールが必要ということで、大学に独立法人格を持たせ、自己責任の下で外部の意見を直接聞いて自律的に運営される組織となることを期待して行われたのが国立大学法人化でした。

― 九州大学の法人化をどう評価されますか？

早田 私が九州大学に着任したのは法人化のちょうど三年前でしたが、当時国立大学法人化は決定的な流れになっていました。そのような状況下、九州大学は、国立大学という枠の中で、国立大学法人へスムーズに移行するための準備を着実に進めたと言えます。法人化半年前の平成十五年十月に行われた九州芸術工科大学との統合、そして三つの附属病院の統合もある意味では法人化に向けた準備の意味合いがなかった訳ではありません。

もう一方で、九州大学には、新キャンパスへの移転が進行中とい

う特殊事情がありました。九州大学は、梶山総長を先頭に、二つの大事業が同時進行するというこの状況をむしろチャンスと捉え、新キャンパスを含めた大学のビジョンを描いて、法人化に向けた準備を進めました。例えば、高等研究機構(平十三年九月)や国際交流推進機構(平十四年四月)、国際交流推進室(平十四年四月)や研究戦略企画室(平十四年十二月)など、教員と事務職員が一体となつて運営する機構や組織を立ち上げました。委員会の改革は、単に数を減らすのではなく、従来裏方だった事務職員を正規の委員会メンバーとして参画させることで、機能を実質的に向上させる効果がありました。

このような組織改革は法人化後に他大学の改革の先例となり、今は大きな流れとして定着しています。九州大学の法人化はうまくいった、他に先駆けた準備や改革を進めることができたと評価しています。

― 平成二十年度には最初の中期

目標六年間の総括が始まりますが、国立大学法人九州大学のこれからの課題は何だとお考えですか。

早田 法人化によって、自助努力で確保できる財源、いわゆる競争的資金が増やされました。その獲得という面で、九州大学はまだ十分とは言えない状況です。教職員が一体となつて、特に大型の資金を取りに行く気構えを持って、教育研究に努めていただきたいと思っています。

伊都キャンパスへの移転は、平成十七年度から三十一年度までの十五年間をかけて移転する壮大なプロジェクトであり、平成二十一年四月の六本松の直接移転を含めて、計画どおり肅々と進めていたきたい。この移転計画は、文部科学省にも大筋でご理解いただいています。これから毎年解決すべき課題は出てくるでしょう。これらに的確に対応して移転が計画どおり進むことを期待しています。



聞き手：白杵広報室長

着実に進めてほしい伊都キャンパス移転

― おっしゃるように、九州大学の法人化は、新キャンパス建設・移転という大事業と並行して行われ、また六本松直接移転決定に至る折衝など難しい局面が続いたように思いますが、振り返ってみていかがでしょうか。

早田 移転を進めるに当たっては、自己財源を準備しなければならぬ事業があります。そのため、人件費や先生方の教育研究基盤校費を節約して積み立てるなど苦しい面もありますが、だからこそ、運営面でも全国の大学を先導するような改革を進めなければなりません。長いスパンで適切な大学運営が行える体制を作っていく

べきであり、幸いそういう取り組みがこれまで為されてきたと評価しています。

― 伊都キャンパスでは工学部の移転が終わり教育研究活動が活発に行われていますし、大プロジェクトが進行し、研究棟などの建設も進んでいます。今年中に全学共通教育に関連する施設の建設がスタートし、平成二十一年四月には六本松キャンパスが伊都に移って活動を開始します。伊都キャンパス、学術研究都市への期待をお聞かせください。

早田 六本松が移転して合流すると、伊都キャンパスはちよつとした町に相当する規模に膨らみます。周辺の農地をまちづくりに供

するための制度改正も検討されており、キャンパス周辺のまちづくりも加速度をもつて進むでしょう。学術研究都市の核となる九州大学は、知によってだけでなく地域との連携協力の中でその存在感をアピールし、同時に研究面でも世界最先端の成果をあげていきたいと願っています。

百周年は未来のビジョンをアピールする好機

― 百周年が四年後（二〇二一年）に近づいています。九州大学が今後継続して発展していくためには何が必要でしょうか。九州大学には何が足りないでしょうか、また他に無いものは何でしょうか。

早田 規模も実績も九州では卓越していますし、期待や注目度も高い。だからこそ、九州で一番という地位に甘んじず、「日本のそして世界の九州大学」であることが使命として課されているという意

識を常に持ち続けて行くことが大事です。構成員全員が、九州大学はそういう大学であることを意識し、より高い評価が得られる大学を目指し続ける必要があります。

― 早田局長は、百周年記念事業への強い期待を示されてきました。動き始めた記念事業についての提言、新たな百年に向けた期待をお願いします。

早田 百周年記念事業は、単に創立して百年経ったから基金を募るというのではありません。新キャンパスづくりが並行して行われる訳ですから、九州大学の次の百年を創るという理念を明確に持つて、「九州大学は次の百年をこういう姿を目指して発展します」と、OBや企業の方々など社会に向かってしっかりと説明し、アピールしてご支援をお願いしなければなりません。

伊都キャンパスづくり、学術研究都市づくりは明確なビジョンを持って産官学で進められているのですから、都心部のサテライトキャンパスの位置づけも含めて、



九州で一番という地位に甘んじず、
「日本のそして世界の九州大学」である
という意識を常に持ち続けてほしい。

新キャンパス構想を基本の一つとする記念事業計画は、よりご理解いただきやすいのではないのでしょうか。

同時に、大学内にも、この記念事業の意味を理解してもらう努力をしなければなりません。その辺りは広報にもがんばってもらいたいところです。

―最後に、新任地、国立大学協会での抱負を。

早田 九州大学在任中の六年三ヶ月は、他大学では経験できない大きな変革時期に当たり、貴重な経験を積ませていただいたと思っています。国立大学協会は法人化や統合を経た八十七大学の組織体であると同時に、それぞれの大学はそれぞれの事情や背景を持っています。その運営は容易ではなからうと想像されますが、九州大学での経験を生かしてまた力を尽くすことができたいと思っています。

新聞で報道された九州大学

平成十九年四月上旬～五月下旬

4月

団塊よ 公民館へ行こう 定年後は地域交流が大切 加留部貴行 大学評価情報室特任准教授
(朝日 4/1)

イスラム教徒の留学生 地域住民らに家庭料理振る舞う 箱崎キャンパスで
(西日本 4/1)

シンポジウム「史跡整備の功罪」九大で開催 服部英雄教授(中世史)
(読売 4/2)

省工ネ技術の開発加速 二酸化炭素を食べる微生物 吉野貞蔵農学研究准教授
(日経 4/3)

薬学研究院公開講座開催「天然薬物と健康」
(読売 朝日 4/3、19)

微生物、作物病害を講義 九大退職の古川謙介教授、高浪洋一教授
(読売 4/4)

九大生がインドネシアで採炭研究 三井松島産業と提携
(西日本 4/4)

国立大が広報に本腰 九大 大手広告代理店と提携
(毎日 4/4)

宇宙実験棟「きぼう」準備急ピッチ 若田光一宇宙飛行士(九大卒)
(日経 4/4)

未受精卵の分裂停止解明 不妊治療に道 佐方功幸理化学研究院教授
(西日本 熊本日日 毎日 日経産業 日刊工業 科学 4/5、9、13)

九大で入学式 二六八七人 夢と希望
(西日本 読売 毎日 4/5)

SI-A人物紀行 台湾編 タロイモ 神聖な色帯びて育つ 高樹のぶ子特任教授
(西日本 4/5)

燃料電池研究最前線 普及の礎を築く 金山寛工学研究院教授
(西日本 4/5)

アジアに開く九州の政治学 現場との近さ利点 石川捷治法学研究院教授
(朝日 4/6)

九大 十七季ぶりに開幕勝利 九州六大学野球
(西日本 4/6)

ブランド米「夢つくし」簡単判定 DN-A使い新システム 後藤雅宏工学研究院教授
(西日本 4/6)

脳の「掃除屋」ミクログリヤを活性化する物質発見 井上和秀薬学研究院教授
(毎日 読売 山口 南日本 宮崎日日 日経産業 4/5、6、8、15)

国立大学に広がる格付取得 九州大学は「AAA」
(朝日 読売 毎日 4/7、8)

医を診る 薬と開発 安全と有効性 笹栗俊之医学研究院教授
(朝日 4/7)

九大とマイクロソフト社が包括契約締結 OS等の使用権
(日経 4/7)

九州六大学野球 九大・山田翔太右投手
(西日本 4/7)

九大がゴルフアー養成!? 心理学、英会話など九大が助言
(西日本 4/7)

美しいサンゴを後世に 理学府天草臨海実験所 野島哲准教授
(読売 4/8)

ドクターに聞く 脊髄小脳変性症どう対応 どのタイプが特定を 吉良潤一 九大病院ブレインセンター長
(西日本 4/8)

国立大にも財務格付け 九州大学「AAA」
(フジサンケイビジネスアイ 4/8)

SI-Aという挑戦 高樹のぶ子特任教授 文学と創作の「回転数」あける
(西日本 4/9)

大分銀行の高橋祐介さん 九大ビジネススクールで経営学修士の学位取得
(大分合同 4/10)

九大病院 フロガが広報 企業経験者を採用
(西日本 4/10)

食の楽しさ弁当でアピール 九大らの学生が持ち寄りセミナー
(西日本 4/10)

大学病院はいま 競い合いから融合へ 九大病院人間ドック
(西日本 4/11)

カミネ油症事件 九州大学の医師らでつくる 全国油症治療研究班
(朝日 4/11)

伊都キャンパス水素ステーション事故 新方式で再開へ
(朝日 西日本 読売 毎日 4/11)

光当てただけで変形 有機分子結晶を作製 入江正浩名誉教授
(西日本 毎日 朝日 山口 日経産業 4/12、14、16、23)

九州大学創立九十六周年開学記念講演会
(西日本 4/13)

大学病院はいま 青田貫い 流動化する進路選択 九大病院
(西日本 4/13)

スーパームicro生物研究語る 古川謙介農学研究准教授 九大退職教授講義
(読売 4/14)

医を診る 薬の効き目判定 多人数心理影響も比較 笹栗俊之医学研究院教授
(朝日 4/14)

大学改革 成長を支える 数学科企業に院生派遣
(日経 4/14)

第四十九次南極隊副隊長 小山内康人比較社会文化研究院教授 超大陸の変動史
(西日本 4/15)

ビタミンB12 光触媒と融合 九大の研究チーム
(日経 4/16)

九州大学とマイクロソフト 包括ライセンス契約締結
(日刊工業 4/16)

国立大学交付金に競争原理 研究偏重、教育を軽視 梶山千里総長
(読売 4/17)

九州大学創立九十六周年開学記念行事 中村哲氏、川原尚行氏の講演会
(西日本 4/17、19)

米大学三十二人死亡 乱射事件 交流協定の九大 現在留学生なし
(西日本 4/17)

九大院生が演奏会企画 月一回一年間「ミュージック☆ファクトリー」芦川紀子芸術工学研究院准教授の研究室
(西日本 4/19)

九大と森永乳業 生きた菌だけ検出 吉田眞一医学研究院教授ら
(日経 4/20)

留学生向け合同就職面談会 出展企業を募集 県や九大など
(西日本 4/20)

アジア理解講座「アフガニスタンの平和と教育」 小松太郎言語文化研究院准教授ら
(西日本 読売 4/20、22)

美術批評! 生活用品の美 今を問い直す「北欧モダン展」 池田美奈子芸術工学研究院准教授
(朝日 4/20)

平和は教育が固める 紛争後のバルカン統治から 小松太郎言語文化研究院准教授
(朝日 4/20)

九大農学部と足寄町が協定締結
(平野毎日 4/20)

医を診る 臨床試験 倫理審査の義務化必要 笹栗俊之医学研究院教授
(朝日 4/21)

農作物「防疫対策が大切」高浪洋一農学研究准教授 九大退職教授講義
(読売 4/22)

紙状触媒で燃料電池水素製造 実用化目指す 北岡卓也農学研究准教授
(日刊工業 4/23)

近況往来 高樹のぶ子特任教授 新たにウェブに挑戦
(西日本 4/23)

「スペンサー」詩集 刊行に寄せて 山内正二名誉教授
(熊本日日 4/23)

元国連難民高等弁務官事務所官房長の松元洋さん 六本松キャンパスで講演会
(西日本 4/24)

九大伊都キャンパスに 農学研究の分室開設
(高島 4/26)

高木のぶ子アジア総合政策センター特任教授「アジアとの文化交流」講演会
(読売 4/26)

憲法フェスティバル 憲法九条未来を開く 六本松キャンパスで
(朝日 読売 4/26)

九州デザインズスピリット 第三回DESIGNING展 福岡発のオリジナル目指す 池田美奈子芸術工学研究院准教授
(西日本 4/26)

公開講座「九州山地の山を知ろう」 宮崎演習林で
(熊本日日 4/26)

日韓歴史共同研究二期メンバー 九大から四人
(西日本 4/26)

団塊五十六人 人生指南書 九大らの学生がインタビュ集
(西日本 4/26)

人工酵素開発し水素分解 水素エネルギー研究に道 小江誠司未来化学創造センター教授
(日刊工業 4/27)

「臓器売買が問いかけるもの」アジアの苦悩「シンボ」 アジア総合政策センター
(西日本 4/27)

景観を読む 菊竹清訓の昔と今 土居義岳教授(建築史)
(毎日 4/28)

医を診る 医師の薬選択 安全・有効証拠基に準備 笹栗俊之医学研究院教授
(朝日 4/28)

大学ブランド商品 五大学シンポ 九大で「九州大吟醸」 近大マグロなど
(読売 4/30)

吸収力数百倍のゲル開発 流出重油の回収など応用も 佐田和己工学研究院准教授
(西日本 南日本 大分合同 4/30)

大学生の「弁当の日」 九大で開催 十大が参加
(西日本 4/30)

九州大学 財務格付 AAA評価
(日刊工業 5/1)

九大知的財産本部とアルバック 新たな産学連携手法 学生派遣し共同研究
(日刊工業 5/1)

統一地方選の評価と今後の政局 数野祐三法学研究教授
(西日本 5/1)

有機溶媒を大量吸収 世界初 親油性ゲル開発 佐田和己工学研究教授
(朝日 富山 5/1)

統一地方選挙の評価と今後の政局 数野祐三法学研究教授
(西日本 5/1)

学生たちの「弁当の日」 食育ワークショップ 箱崎キャンパスで
(西日本 5/1)

ドリンク片手にサイエンスカフェ 九大も昨年から
(日経産業 5/2)

大学発ブランドシンポジウム 全国初のシンポジウム開催 九州大吟醸など
(山口 西日本 南日本 朝日 日刊工業 5/2, 9, 11, 12, 18, 20, 22)

改憲議論は本格化 国民投票法案 齋藤文男名誉教授
(熊本日日新聞 5/3)

憲法施行六十年 第八章改正は必要か 嶋田暁文法学研究教授
(西日本 5/3)

「骨粗鬆症とリハビリと栄養バランスについて」別府先進医療センター
(大分合同 5/5, 12)

元気の秘訣 水中運動 後歩きで転倒予防 高杉伸一郎九大病院医師
(朝日 5/6)

臨床心理士がこころの相談会 九州大などで
(読売 5/8)

九州六大学野球 ユニホーム編 斬新な九州大学
(読売 5/8)

九州大学が新シンボルロゴ決定 ブラントイメージを統一
(日刊工業 5/8)

九大ICカードプロジェクト 他大学も参加し十万人規模に実験拡大
(西日本 5/9)

「危機に瀕する世界のコメ」シンポジウム 伊東正二教授(国際食料経済学)
(読売 山口 5/9)

病院も「広報戦略」 九大病院 広報専従職員採用
(朝日 5/9)

「東西の古医書に見られる病と治療」文庫展 附属図書館で
(西日本 読売 朝日 5/9, 11)

光化学スモッグ 西日本各地で発生 鶴野伊津志応用力学研究所教授
(読売 西日本 朝日 熊本日日 5/9, 10)

中村哲氏、川原尚行氏 医療貢献の現場語る 九十六周年開学記念講演会で
(西日本 朝日 5/10, 12)

旬の人 井戸の水位で地震予想可能? 江原幸雄工学研究教授
(大分合同 5/10)

大阪のコースター事故 豊貞雅宏名誉教授が読売本社で解説
(読売 5/10)

九大マンドリンクラブ 定期演奏会
(西日本 5/10)

九州大学筑紫キャンパス オープンキャンパス 科学の世界体験
(西日本 5/11)

グライダー久住岳滑翔大会 熊大・九大の合同新人合宿
(朝日 5/11)

スマトラ沖地震報告会 理学部で
(読売 5/11)

「江戸狂者傳」 特装版 「こんな本一度は出したかった」中野三敏名誉教授
(読売 5/11)

医を診る 正しい知識を患者にも 薬の教育 笹栗俊之医学研究教授
(朝日 5/12)

郭沫若の書「實事求是」 九州大学蔵
(西日本 5/13)

納涼寄席 九大落語研究会の部員ら
(読売 5/13)

ストレスと上手につきあう 橋本公雄健康科学センター教授
(西日本 5/13)

九州大病院栄養サポートチームが講演会 正しい情報提供
(西日本 5/13)

「海の天気図」開始に寄せて 広瀬直毅応用力学研究所准教授
(日本海 5/14)

光化学スモッグ 九大のシミュレーションで 中国のオゾン日本へ 鶴野伊津志応用力学研究所教授
(朝日 読売 山口 大分合同 富山 熊本日日 南日本 日経 5/13, 16, 17, 19)

九州大学マンドリンクラブ定期演奏会
(朝日 読売 5/17)

「コンラクトブリッジ」体験教室 伊都キャンパスで
(西日本 5/17)

九州大学病院と読売新聞で巡回展示「癒しの写真展」
(読売 5/18)

医を診る 科を越え患者に目配り 栄養サポートチーム 久保千春医学研究教授
(朝日 5/19)

「フアントム墜落四十周年 紛争の中の九州大学を考える」シンポジウム
(毎日 5/19)

福岡西方沖地震後に地震予知の研究を続ける 江原幸雄工学研究教授
(南日本 5/20)

「医療決断サポーター」養成講座開設 アジアでの臓器売買問題でシンポジア
(西日本 5/20)

化学・生物戦争の世紀 井上尚英名誉教授
(学刊テラー 5/22, 23, 24, 25, 26)

少年法改正案 制裁の重視には疑問 武内謙治法学研究教授
(西日本 5/22)

アジア研究 より近い関係へ相互理解を 坪田邦夫アジア総合政策センター副センター長
(読売 5/23)

九大がレンガ工法実証で建設した住宅 フランス料理店に変身
(熊本日日 5/23)

はしか 九州警告 九大はホームペー
(毎日 5/23)

心身医学の役割と正しい理解のために 久保千春医学研究教授
(朝日 5/23)

石筍から過去の「酸性雨」を測定 吉村和久教授(地球化学)
(毎日 5/23)

キャンパス移転の六本松 活性化のため若手デザイナーらがフリーペーパー創刊
(西日本 5/23)

悪玉コレステロール減少に作用する大豆タンパク 菅野道廣名誉教授
(読売 5/23)

アジア理解講座 「臓器売買が問われるもの」
(朝日 読売 佐賀 毎日 5/24, 28)

アジア講座 「新しい国土計画と北部九州」谷口徹教授(知的財産本部)
(毎日 5/24)

日本のアニメ・漫画 世界での可能性語る 知的財産本部
(西日本 5/24)

石炭エネルギー有効活用 技術者を育成 来春教育研究機関設立
(西日本 5/24)

小説時評 久木綾子「周防の国 五十塔縁起」上原小夜黒い翼 松本常彦比較社会文化研究教授
(読売 5/24)

心理学で家づくり手助け 平井康之准教授(デザイン学)と河辺隆寛特任講師(心理学)
(朝日 5/24)

九州大学 大学説明会開催
(日経 5/24)

「地球環境とエネルギー」公開講座開催 伊都キャンパス
(西日本 5/25)

美術批評 森英恵 手で創る 葛藤と共存と 東西の境に舞う 池田美奈子芸術工学研究教授
(朝日 5/25)

ビッグイシュー福岡サポーターズ 広報 星野裕志経済学研究教授
(西日本 5/25)

排熱利用の水素製造 火力発電・製鉄所で可能 石原達己工学研究教授
(日経産業 5/25)

九大 報奨制度の受賞者 六十九人を決定
(日刊工業 5/25)

伊都キャンパス水素ステーション 水素製造、新方式に壁
(朝日 5/26)

市民公開講座 西村重雄名誉教授がローマ法解説
(読売 5/26)

医を診る 点滴、魔法の薬ではない 栄養サポートチーム 古賀秀樹医学研究教授
(朝日 5/26)

「母の味」をグラフ表示 九大と共同開発の味覚センサーで分析
(西日本 5/26)

伊都キャンパス 自習室に旧校舎のバネル 箱崎の思い出も移転
(西日本 5/26)

カブセル内視鏡 従来の検査との組み合わせること重要 飯田三雄教授(病態機能内科学)
(毎日 5/27)

中川昭一政調会長 箱崎キャンパスで講演
(西日本 5/27)

国産米の国際競争力 伊東正二農学研究教授
(熊本日日 5/28)

ときめきの街を JR博多駅 案内図の改善検討 九大大学院生ら
(西日本 5/28)

アジア講座「九州大学発、地域イノベーション大作戦」
(読売 5/28)

邪馬台国 いずこ 九州説 畿内説 西谷正名名誉教授
(読売 5/28)

九大留学生と前原の住民 ギョーザ作りで交流
(読売 5/28)

味覚センサー 安定性を十倍に 九州大など 販売開始
(日経産業 5/28)

スーダンで医療活動の川原尚行さん目の前の患者救いたい 九州大学卒 産経 5/28

都甲潔システム情報科学研究教授 味覚センサー開発
(日刊工業 5/30)

燃料水素 安全に輸送・貯蔵 伊都キャンパス 水素材料先端科学研究センター
(日経産業 5/30)

故花田俊典九州大学教授の「花田俊典の雪月花」西日本新聞社から出版
(読売 5/31)

学生の作品 著作権守ろう 九州デジタルアート・アンド・イメージ設立芸術工学研究
(毎日 西日本 5/31)

フアントム九大墜落 「資料提供を」当時の学生らが「墜落四十周年ブレ集会」
(西日本 5/31)

公開講座 地球環境とエネルギー 環境システム科学研究センター 伊都キャンパス
(朝日 5/31)

言語文化研究院箱崎分室

平成19年度後期 言語文化自由選択科目 開講案内

(2007年10月1日(月)より授業開始)

【重要】平成19年度入学の1年生のみなさんへ

* 箱崎分室の英語科目授業は原則として2年次以降の学生を対象としているので、みなさんは受講できません。
英語科目以外の授業については「入門〇〇語」と表示された科目のみ受講可能です。

言語文化自由選択科目 (学部生優先ですが、院生・教職員も定員内一定枠で受講可)

●英語科目の申込方法

プレースメントテスト受験 ⇒ レベル判定 ⇒ 申込み用紙記入 ⇒ 先着順に受講登録 or 過去2年間のTOEFL・TOEICスコアを利用する(必ずスコアの証明書を持参下さい) ⇒ レベル判定 ⇒ 申込み用紙記入 ⇒ 先着順に受講登録

プレースメントテスト日程:

9月28日(金)	(1) 9:00-12:00	(2) 13:00-16:00	(3) 18:00-21:00
10月1日(月)	×	(4) 13:00-16:00	(5) 18:00-21:00
10月2日(火)	(6) 9:00-12:00	(7) 13:00-16:00	(8) 18:00-21:00

場所: 言語文化研究院箱崎分室 208 教室

- 注1: 1) 事前の予約や申込み手続きは必要ありません(遅刻した場合は、次の回のテストを受験して下さい)。
2) 1回の試験の受験定員は先着50名まで。 3) このテストはレベル判定ですので不合格はありません。
4) 原則として、判定されたレベル(1~5まで)と同等、又は1つ下のレベルの授業を申込みことができます(但しレベル5の学生はレベル3、4の授業の申込みが可能です)。
注2: プレースメントテストID番号16,000(2006年4月以降)以降のテスト結果は有効です。

第1次受付期間 9月25日(火)9:00~10月5日(金)17:00 最大2科目申込み可。

第2次受付期間 10月9日(火)~10月16日(火) 定員に空きのあるクラスのみ3科目追加申込み可。

●初修外国語の申込方法

ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・韓国語・スペイン語・インドネシア語・イタリア語・オランダ語(夏季集中講義)・エスペラント
申し込み用紙記入 ⇒ 先着順に受講登録(受付時に受講が確定)

受付期間 9月25日(火)~10月16日(火)

平成19年度後期時間割 *伊都地区開講

時限	月	火	水	木	金
1	英語リスニング II (Anscomb-lino)		入門中国語 II (李麗)	英語会話 II (Anscomb-lino)	
2	英語ライティング I (Anscomb-lino)		英語リーディング II (稲葉) フランス語作文コース (田中陽) 中国語口語 II	英語リスニング I (Anscomb-lino) 入門フランス語 (阿尾)	
3	入門ロシア語 II (佐藤正)			入門インドネシア語 II (遠藤)	
4	英語会話 II (ホール) * 入門イタリア語 II (スリス)		速修エスペラント II (田畑)		英語会話 I (ホール) *
5	英語 プレゼンテーション II (ホール) * 英語リーディング I (大谷) ドイツ語表現演習 II (カスヤン)	ドイツ語圏の言語と 文化 (田中俊) 韓国語の言語と文化 (松原)	英語テスト・テイキング (Armstrong) ドイツ語リスニング演 習 II (田畑)	英語会話 I (Bennet) 表現スペイン語 (フジヨシ)	英語テスト・テイキング (ホール) * 入門ドイツ語 (岡野) フランス語実用会話 (ホスーシュ)
6	英語会話 II (未定)	英語リーディング II (小松)	英語ライティング II (Armstrong) 時事スペイン語 (柿原)	英語 プレゼンテーション II (Bennet)	英語会話 II (Quinn)



【場 所】箱崎キャンパス 正門より入ってすぐ左(旧法文学部棟2階)

【問合せ先】大学院言語文化研究院 箱崎分室(平日8:30~18:00)

TEL&FAX: 092-642-2285 E-mail: flcbr@flc.kyushu-u.ac.jp

学生の皆さんへ!!

平成19年度 就職等ガイダンスのお知らせ

これから実施される「就職や進学のためのガイダンス」についてお知らせします。

たくさんの皆さんのご参加をお待ちしています。

詳細については、その都度、ホームページ（九大HP→「学生の皆様」や「学生の皆様」→「就職支援」）等でお知らせします。

開催日時・内容等が変更（追加）される場合がありますのでご注意ください。

※主な対象以外の方もぜひご参加ください!!

企業希望者向け

	日時	開催場所	内容等	主な対象
第3回	H19年10月10日（水） 16:40～	箱崎文系地区大講義室	企業への就職ガイダンス（3） 就職戦線の予測、就職活動の心得 （リクルート）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第4回	H19年10月12日（金） 16:40～	箱崎理系地区 国際ホール	企業への就職ガイダンス（4） 外国人留学生のための就職ガイダンス ～日本における就職活動について～（就職相談員）	外国人留学生 企業就職希望者
第5回	H19年10月15日（月） 18:20～	筑紫地区 総合研究棟 筑紫ホール	企業への就職ガイダンス（5） 理系学生における進路決定への道 （毎日コミュニケーションズ）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第6回	H19年10月19日（金） 18:20～	大橋地区 5号館 511 講義室	企業への就職ガイダンス（6） 業界研究、企業が求める人材、自己分析、エントリーシート （メディア総研）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第7回	H19年10月24日（水） 16:40～	伊都地区 講義室	企業への就職ガイダンス（7） 理系学生のための内定獲得講座 （ジェイブロード）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第8回	H19年10月27日（土） 13:00～	箱崎文系地区 大講義室	企業への就職ガイダンス（8） 自己分析とエントリーシート （就職相談員）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第9回	H19年11月7日（水） 16:40～	箱崎文系地区 大講義室	企業への就職ガイダンス（9） 企業人事担当者・就職内定者からのアドバイス （企業、就職内定者、リクルート）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第10回	H19年11月9日（金） 16:30～	箱崎文系地区 201 講義室外	企業への就職ガイダンス（10） 就職セミナー（文系対象） （共催：学生会）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第11回	H19年11月10日（土） 13:00～	伊都地区 講義室	企業への就職ガイダンス（11） 就職セミナー（理系対象） （共催：学生会）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者
第12回	H19年11月14日（水） 16:40～	箱崎文系地区 201 講義室	企業への就職ガイダンス（12） 学生として、社会人として～マナーモラルの重要性～ （共催：財団法人学生サポートセンター）	学部3年生 修士1年生 企業就職希望者

公務員希望者向け

	日時	開催場所	内容等	主な対象
第3回	H19年11月3日（土） 9:30～	箱崎文系地区 大講義室外	公務員への就職ガイダンス（3） 本府省業務説明会（I種：行政・法律・経済・理工農学系） （共催：人事院）	公務員希望者
第4回	H19年11月10日（土） 9:30～	箱崎文系地区 大講義室外	公務員への就職ガイダンス（4） 官庁業務合同説明会（II種） （共催：人事院）	公務員希望者
第5回	H19年11月28日（水） 16:40～	箱崎文系地区 201 講義室	公務員への就職ガイダンス（5） 国家公務員I種合格者体験報告会 （公務員採用試験合格者）	公務員希望者
第6回	H20年1月16日（水） 12:30～	箱崎文系地区 201 講義室外	公務員への就職ガイダンス（6） 本府省業務説明会（II種：行政） （共催：人事院）	公務員希望者
第7回	H20年3月14日（金） 13:00～	箱崎文系地区 101 講義室外	公務員への就職ガイダンス（7） 国家公務員等採用試験説明会 （人事院、国税局、労働局、裁判所、国立大学法人等）	公務員希望者

《その他》 ○学内企業セミナー：平成20年度卒業・修了予定者の企業セミナー 2月13日（水）～予定

○就職支援基礎セミナー：平成20年度卒業・修了予定者対象

① 「就職活動の心得」 講義形式の基礎講座

11月～12月頃予定

② 「面接の心得」 模擬面接

12月～ 1月頃予定

○自己表現能力育成プログラム：学生の企業への就職や研究活動に必要なプレゼンテーション能力の育成 10月下旬予定

○英語コミュニケーション能力育成プログラム：就職支援活動の一環として、TOEICの得点向上支援 10月～12月予定

私はミュンヘン工科大学に、建築の勉強のため約八ヶ月間短期留学しました。初めは、英語だけでOKということを知っていたので、ドイツ語は大学一、二年のときに習った初等レベルでしたが、私が選択したデザインスタジオは、終始ドイツ語で行われ、初めのうちはかなり苦しまされました。しかし、この学生達はみんな親切で、私には英語で通訳してくれました。最初は課題をするために必要な知識のセミナーが行われ、実際の建築物を見に行くエクスカージョンがあったり、パートナー達との話し合いとアシスタントからのエスキスが毎週あって、考え方やディベートのスキルの違いなどの刺激を受けつつも、みんなが仲良くしてくれて、日本にいる友達と変わらず交流することができました。建築という図面や絵などで意思疎通をはかることができる分野であったため他の学科に比べると比較的言葉の壁の障害は低かったかもしれません。このように、楽しい留学生活が送れたのは、ひとえにドイツ人の暖かさによるものだと思います。特に、ミュンヘンでは九月末〜十月初めにかけてオクトーバーフェストというビール祭があり、Prost(乾杯)を合い言葉に、知らない人と肩を組んで飲んで歌ってどんな騒ぎをします。私の留学生活はこのビール祭で幕を開けました。ドイツ人はヨーロッパのビール好き。ビールの好きな人に悪い人はいません！

スタジオの友人と

ミュンヘン市庁舎



九大生が案内する 世界のキャンパス



ドイツ・ミュンヘン

交換留学

Technische Universität München
ミュンヘン工科大学

ミュンヘンはドイツの南東にあるバイエルン州の州都で、人口はおよそ一三〇万人のドイツ第三の都市です。ミュンヘンは別名一〇〇万人の村とも呼ばれ、その名の通り大都市でありながら人は穏やかで、少し郊外へ出れば色濃く自然の残る都市です。そのせいか、治安のいいドイツでも特にミュンヘンの治安は良く、物価はドイツ一高いといわれていますが、日常用品はそれほどでもないで生活するにはとても良いところだと思います。ミュンヘン工科大学は工芸学校として一八六八年設立され、農業が主体であったバイエルン州のハイテク産業を盛んにする役割に大いに貢献しています。十二の学部を持ち、教授数約四〇〇人、生徒数約二万と中規模の大学で、キャンパスは都心部と、ミュンヘン郊外にあるフライジングとガーヒンクキャンパスの三つがあります。ビアホールを多数抱えるミュンヘンにあるせいか、日本では珍しい醸造学科を持ち、また、バイエルン州全体でハイテク産業の誘致が活発なこともあり、企業との共同研究も多く行われているようです。



オクトーバーフェスト



TUM

交換留学について詳しく知りたい方は、「九大生のための海外留学情報」(<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/study/>)をご覧ください。過去の交換留学生による報告書も大学毎にたくさん掲載しています。

世界の学長等と語り合い、未来の自分を思い描いてみませんか？

「大学サミット・イン・九州2007」開催のお知らせ

世界を代表する学長等が一堂に会し、未来の自分を思い描いてみませんか？

九州大学では、二〇〇七年十月に、世界十一ヶ国より十二大学の学長等を招へいし「大学サミット・イン・九州2007」を開催します。その際に、高校一、二年生の皆さんと学長等との「対話集会」を企画しています。学長等との対話を通じ、皆さんの中に眠る無限の可能性を開花させてみませんか？ また、「対話集会」に参加する皆さんを対象に「懸賞論文」も募集しています。最優秀者には、大学サミット参加校への短期留学などの豪華副賞も準備していますので、どしどしご応募ください。

九州大学 国際交流部

〒812-8581 福岡県福岡市東区下馬場1-1-1 九州大学 国際交流部

TEL: 092-642-4328 FAX: 092-642-2113 E-Mail: alum.uok@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp

九州大学では、二〇〇七年十月に、世界十一ヶ国より十二大学の学長等を招へいし「大学サミット・イン・九州2007」を開催します。その際に、高校一、二年生の皆さんと学長等との「対話集会」を企画しています。学長等との対話を通じ、皆さんの中に眠る無限の可能性を開花させてみませんか？ また、「対話集会」に参加する皆さんを対象に「懸賞論文」も募集しています。最優秀者には、大学サミット参加校への短期留学などの豪華副賞も準備していますので、どしどしご応募ください。

応募締切 平成 19 年 9 月 7 日(金)

詳細は、九州大学国際交流部の HP

<http://www.isc.kyushu-u.ac.jp/intlweb/event/>
でご確認ください。

編集後記

今年度四月から九大病院の広報部に広報のプロフェッショナルが入りました。このことは新聞でも報道されていました。これ以前には三年間九大病院の広報委員長、広報部長として、九大病院ニュース、九大病院だより、病院概要、各診療科の紹介パンフレット、九大病院ホームページの更新、新設に携わりました。広報部員はみな素人で忙しい病院業務のかたわら広報の仕事に携わっていますので、どのみちたいしたものにはできません。病院内の様々な記事を集めて編集し構成を考えていくのはとても素人の片手間仕事でできることはありません。この過程で、やはり広報のプロに入っていた方がいいと、一般の方にわかりやすい言葉で専門的な情報を提供できないと痛感しました。そのようなわけで、この度、新しい九大病院広報部へ引継ぎをし、ほっと一息しています。今では、病院広報誌の全国大会に応募して入選したのが、いい思い出です。九大広報とは直接関係ありませんが、九大病院の広報のことについて書かせていただきました。

編集委員・教授 吉良 潤一

去年一年間、九州大学UIプロジェクトに関わりました。UIというミッションは大げさにいえば、九大の顔を作り上げるということだと思います。それだけに大変な作業でした。結局、新しいロゴタイプの作成から始めることになったのですが、これは予定外のことです。そのために多くの労力を費やすことになりました。けれども年度末までになんとかマニュアルの制作にまでこぎつけました。もちろん、UIの目標はマニュアルを作ることではなく、その普及にあります。このプロジェクトの成果が問われるのは、むしろこれからです。そのために、UIへの関心の高まりを期待します。

編集委員・准教授 伊原 久裕

十年ぶりの母校復帰、しかも総務課長を拝命いたしました。国立大学の法人化に伴い、国立大学法人という船の運航に当たったの裁量は増加しましたが、進むべき道を記した航海図も独力で作る必要があります。このような野心的な状況下で、偉大なるキャプテン（総長）、優秀な諸先輩方とともにクルーとして働けることに感激しております。九州大学という大きな船の運航に全力を尽くす覚悟です。明るく、前向きに、がんばりたいと思います。

編集委員・総務課長 大土井 智

九大の最新情報は「九大広報」の定期購読で。

九州大学同窓会連合会では、九州大学の姿をご理解いただくため、同窓生や在学生のご家族の皆様をはじめ、広く一般の方々にも「九大広報」の定期購読をお願いしています。定期購読は一年間六巻分（隔月発行）三千円でお受けいたしておりますので、ご希望の方は、同窓会連合会事務局までご連絡をお願いします。

九州大学同窓会連合会事務局 TEL.092-642-4328 FAX.092-642-2113 E-Mail alum.uok@mbox.nc.kyushu-u.ac.jp



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY